Osaka Medical College Faculty of Nursing

大阪医科大学看護学部

年報
2017年度

Annual Report 2017

大阪医科大学　看護学部 2017 年度年報　目次

はじめに

Ⅰ.　沿革 …… 1

Ⅱ.　看護学部教員組織
1. 教員構成及び教員数 …… 2

Ⅲ.　年間事業
1. 年間事業活動内容 …… 3
2. 2017 年度看護学部予算執行額 …… 7
3. 学事一覧 …… 8
4. 学生在籍数 …… 12

Ⅳ.　運営と教育活動
1. 運営組織 …… 13
2. 看護学部センター
看護学実践研究センター …… 14
教育センター …… 18
学生生活支援センター …… 25
3. 看護学部委員会
予算委員会 …… 30
実習委員会 …… 31
ウェブサイト委員会 …… 32
看護研究雑誌編集委員会 …… 33
物品管理委員会 …… 34
就職支援委員会 …… 35
国家試験対策委員会 …… 37
年報編集委員会 …… 39
広報委員会 …… 40
4. 大学院委員会 …… 42
5. 看護学部教育活動
1）授業科目一覧 …… 43
2）各領域の教育活動 …… 52
6. 大学院教育活動
1）授業科目一覧 …… 62
2）博士課程修了者学位論文タイトル一覧 …… 68

Ⅴ．研究活動
1．研究実績
1）外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況 …… 69
2）各自の業績（外部資金獲得除く） …… 73

Ⅵ．社会活動 …… 88

Ⅶ．地域・社会貢献 …… 94

Ⅷ．その他 …… 96

はじめに

平成 29（2017）年度看護学部年報は 6 回目の発行となります。各センターや委員会、各領域では PDCA を実行し、当該年度の活動の振り返りを年報としてまとめてきました。また、各教員は、個々の研究活動、社会貢献等について振り返り、他の教員の活動を知り、目標を立てることができます。これらの活動は、教育の質向上に寄与しています。

2002 年の学校教育法改正に伴い、2004 年度以降わが国の大学は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を 7 年以内の周期で受けることが義務づけられました。2011 年度には認証評価制度が第 2 クールに入り、評価内容が評価指標と根拠資料に基づく評価へと転換されました。

本学は、2006 年と 2013 年に大学基準協会の評価を受けています。2013 年度には、看護学部は開学し 4 年目であった 2013 年度に審査を受けました。その時、看護学部では年報を作成していたので、根拠資料を提示することができました。

この時の看護学部に対する評価報告では、2 項目に関しての指摘がありました。一つは、教員・教員組織については、「教育・研究活動を評価する体制や仕組み、教員組織の適切性の検証、その責任主体・組織、権限、手続き等の検証プロセスについては、明確に定められていない」。二つ目は、教育課程の適切性の検証に関しては、「責任主体・組織、権限、手続きを明確にし、その検証プロセスを適切に機能させるよう努力されたい」ということでした。

これらの指摘内容に対して、教員組織に関しては、様々な規定の作成や改変が進みました。教育課程に関しては、教育センター主催の全教員参加による FD による話し合いの結果をもとに一部の授業科目の開講年の変更等が行われてきました。これらの検証プロセスの構築はまだ途上といえます。大学基準協会の評価は、2 年後 2020 年に受審予定です。評価指標に基づき評価することは、進行年度中であった前回の評価に加え、その後の 7 年間の取り組みを自己点検評価する好機となります。

一方、大学基準協会の評価は大学教育全般に係るものです。平成 25（2013）年第 2 期教育振興基本計画では、高度専門人材の育成に向けて、分野別質保証の構築・充実に向けて取り組みを促進することが閣議決定されました。医学教育分野では、医学教育プログラムを公正かつ適正に評価することを目的として日本医学教育評価機構（Japan Accreditation Council for Medical Education : JACME ）が設立され、2017 年から評価が始まり、本学医学部も 2018 年度の審査を受けるために準備を進められてきました。看護学教育分野では、急増する看護系大学の観点と看護専門職の育成という社会的責務の観点から、「卒業生の具える能力は社会の期待に沿う水準に達しているか」、「カリキュラムは社会の変化に連動するニーズに対応したものとなっているか 」が問われ、看護専門職教育に携わる看護系大学自らの責任として、質保証に取り組む必要があり、平成 30（2018）年に日本看護学教育評価機構 （Japan Accreditation Board for Nursing Education : JABNE）が設立され、2021 年から評価が開始される予定です。

年報は、自己点検評価ですが、これから受ける外部評価の資料ともなり、作成は意義深いものです。各自がこの年報を有効に活用され、教育の質が担保されることを願っています。

看護学部長
道 重 文 子

Ⅰ．　沿革

沿革

1927（昭和 2）年	2 月	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
1927（昭和 2）年	4 月	大阪高等医学専門学校開校認可（修業年限 5 年）
1929（昭和 4）年	3 月	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1946（昭和 21）年	3 月	大阪医科大学設置認可（旧制大学）
1946（昭和 21）年	4 月	大阪医科大学予科設置
1948（昭和 23）年	2 月	大阪医科大学医学部開学認可
1951（昭和 26）年	3 月	学校法人大阪医科大学認可（組織変更に依る）
1952（昭和 27）年	2 月	大阪医科大学設置認可（新制大学）現在に至る
1952（昭和 27）年	3 月	大阪高等医学専門学校廃校
1959（昭和 34）年	3 月	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1965（昭和 40）年	1 月	大阪医科大学進学課程設置認可
1978（昭和 53）年	4 月	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1982（昭和 57）年	12 月	大阪医科大学附属看護専門学校 3 年課程(全日制)設置認可
2009（平成 21）年	10 月	大阪医科大学看護学部設置認可
2010（平成 22）年	4 月	大阪医科大学看護学部開設
2012（平成 24）年	3 月	大阪医科大学附属看護専門学校閉校
2013（平成 25）年	10 月	大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2014（平成 26）年	4 月	大阪医科大学大学院看護学研究科開設

Ⅱ．　看護学部教員組織

１．教員構成及び教員数

教員定数は 41 名であり、2018 年度 3 月末現在の教員数は、33 名（看護職 29 名、医師 3 名、教養 1 名）である。

【看護系教員】　（2018 年 3 月末現在）

領　域	教　員　数　（　）内は定員数				
	教授	准教授	講師	助教	計
基礎看護学	1（1）	0（2）	2（0）	2（2） (H30.3 迄 1 名留学)	5（5）
急性期成人看護学	1（1）	0（1）	1（0）	0（1）	2（3）
慢性期成人看護学	1（1）	1（1）	0（0）	0（1）	2（3）
精神看護学	1（1）	1（1）	0（0）	0（1）	2（3）
老年看護学	0（1）	1（1）	0（0）	2（1）	3（3）
小児看護学	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）	3（3）
母性看護学・助産学 （コース選択 6 名）	1（1）	0（3）	2（0）	0（1）	3（5）
在宅看護学	1（1）	0（1）	1（0）	1（1）	3（3）
公衆衛生看護学 （コース選択 40 名）	1（1）	2（3）	0（0）	1（1）	4（5）
看護実践発展	1（2）	0（1）	1（0）	0（1）	2（4）
計	9（11）	5（15）	8（0）	6（11）	29（37）

【医学系・人文社会系教員】

領　域	教　員　数　（　）内は定員数				
	教授	准教授	講師	助教	計
精神医学 公衆衛生学 内科学	3（3）	0	0	0	3（3）
哲学	0（1）	1（0）	0	0	1（1）
計	3（4）	1（0）	0	0	4（4）

看護実践発展領域の教授欠員については、担当科目は主として看護教育学とし、大阪医科大学教授候補者選考規則に則り、選考委員会を設置し、2017 年 10 月 11 日の看護学部教授会において候補者の決定を行った。就任は 2018 年 4 月である。他の教員の欠員に対しては、非常勤教員または実習補助員を採用した。

Ⅲ.　年間事業

１．年間事業活動内容

看護学部及び看護学研究科では、表に示すように各センターや委員会に年間計画を立案し、教育の質転換を目指し事業を実施している。2017 年度に実施した主な事業を報告する。

１）教育活動について

教育活動に関しては、教育センターが主となり、学生の授業評価、教育の質向上のための FD 活動や教育講演の企画、教育機器の整備等を実施している。詳細は教育センターが報告している。

学生への対応では、開学以来、初めて 3 年生の前期に後期の実習科目の履修要件を満たすことができず、実習を受講することができない学生が出た。また、実習開始後、精神的に不安定となり、実習を続行できずに退学した学生や、コミュニケーションに問題がある学生があり、附属病院看護部と本学教員で構成する看護学教育調整会議にて「障害のある学生への対応」について検討した。対応マニュアル案を実習委員会と学生生活支援センターが主となりを作成した。大学全体としての委員会の設立については継続課題となっている。

入試制度に関して、看護学部ではより良好な学生を受け入れ、附属病院に勤務する看護師を養成する目的にて 2012 年度より特別奨学金貸与推薦入試制度を導入し、規程が制定された。しかしながら入学した学生の学業成績が芳しくなく留年者や附属病院の採用試験の不合格者が出るなど当初の目的が十分に果たせていないことから、特別奨学金貸与規定に関して、貸与の条件を変更し、1 年から 3 年の学年終了時貸与の可否を審査するように変更を行った。これと並行して、特別奨学金貸与推薦入試制度を廃止し、それに代わる新たな入試制度の検討を開始した。

また、学生のグローバル化の意識や英語会話能力の向上を目指し、PA 会（保護者会）からの資金援助のもと、看護学実践研究センターに企画依頼し、正課の英語の授業外に英会話教室が開催された。

２）研究活動

文部科学省科学研究費に関しては、多くの教員が申請し、採択率も高く活発に研究活動を実施している。

また、文部科学省 2017 年度『私立大学研究ブランディング事業』が採択され、「オミックス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究融合による少子高齢中核市活性化モデル創出」の事業に看護学部も参画している。

３）社会貢献

看護学部の事業としては、看護学実践研究センターが主となり、市民看護講座、人材育成講座を開催している。各教員の活動及び詳細は、それぞれが報告している。

４）管理・運営全般

（１）実習補助員について

本学の教員は、研究科の教員を兼務しているため、実習指導の教育の質を担保するため、教員定数の未充足教員数を補てんするために実習補助員を雇用していたが、雇用期間が実習時となっていた。しかし、障害のある学生への対応や実習前後における指導、演習時における補助が必要なことから、雇用期間を拡大するために規定の改訂について検討した。

（２）カリキュラム委員会について

教育センターは、教育全般についての活動を行い、多くの課題に取り組んでいる。時代の変化にあわせたカリキュラムの構築が課題となることから、別途、カリキュラムの評価及び将来構想を検討するカリキュラム委員会の設立が必要と考え、その運営要領の検討を行った。

（３）教育環境整備

看護学部情報実習室には 45 台のパソコンが設置されているが、1 学年全員が同時にパソコンを使用できない現状である。能動的な学習を促す教育環境整備が求められる中、能動的な学習を促進するため教室の環境整備とノート PC･サーバを利用した授業支援システムの導入が必要と考え、学内の 2018 年度教育・研究に係る設備・装置等導入計画に応募し採択された。2018 年 8 月に改修工事が行われる予定である。

また、演習室の不足により、学生が自習できる個室が少なく、教員が学生に指導する時もホールを使うなどの問題があり、プライバシーの確保からも講堂下に多目的室を 2 部屋増設するための申請を行った。

2017 年度　看護学部及び看護学研究科事業計画

看護学部／看護学研究科	【学部教育と大学院教育の質的転換】 ①　教育の質向上（教育の質的転換：タイプ 1 の実施、高大接続の取り組み）の推進 ②　FD の推進 ③　大学病院、三島南病院、地域包括医療センターとの連携・協働の推進 ④　看護学研究科の活性化（カリキュラム評価等） 【国際交流の推進】 ⑤　山西医科大学看護学部との協定締結 ⑥　中山国際医学医療交流センターとの連携 ⑦　アジア圏留学生受け入れの推進(台北医科大学、山西医科大学) ⑧　アジア圏外における国際交流候補地の検討 【研究拠点形成】 ⑨　科研費等公的外部資金獲得の推進 ⑩　海外における研究拠点の推進 ⑪　産官学連携サスティナビリティ事業への参画
看護学実践研究センター	①　国際交流を通しての研究拠点（海外留学生との相互研修、海外の看護経験者の研修受け入れ、海外との共同研究支援） ②　地域社会への看護の発信の拠点（地域包括ケアに対する研究、市民看護講座の開催、大阪医科大学看護研究会の開催） ③　地域医療の人材育成のための拠点（人材育成のための研修支援、看護の質の向上のための研修支援） ④　ホームページの充実

看護学教育センター	① 教育課程に関すること(シラバスの活用評価等､新カリキュラムの運用等) ② 卒業時到達目標に関すること（学位授与基準、卒業生評価への継続調査） ③ 4 年次選択の方法の検討（卒業研究、保健師及び助産師の選抜） ④ 適正な成績評価・進級判定と学生指導（GPA の導入・活用） ⑤ 教育環境整備の充実(機器活用評価、セルフトレーニング室) ⑥ FD 企画と実施 ⑦ 医看融合教育の運営と充実（医療人マインド、ゼミ、カンファレンス、地域医療実習、大阪薬科大学学生の参画に関する検討) ⑧ 私立大学等改革総合支援事業の取り組み(タイプ 1)
看護学学生生活支援センター	① 学習環境の整備（整理整頓の支援、学生実態調査の分析と課題の検討、学生生活指導に関する FD の開催） ② 公共性のある奨学金の開示の促進 ③ 保健管理室との連携の緊密化 ④ 学生からの要望に対する対応 ⑤ 学生自治に向けた支援 ⑥ 学外合宿の目的が達成できる組織づくり ⑦ HP の内容充実
予算委員会	① 看護学部年間予算の適正化 ② 平成 29 年度予算執行報告 ③ 平成 30 年度予算案作成（10 月）
実習委員会	① 実習連絡協議会の企画、運営（7 月と 3 月） ② 実習連絡会議のあり方の検討と調整 ③ 看護学実習要綱（共通事項）、各領域実習要項、広域統合看護学実習要項、看護実践発展実習要項等の修正と取り纏め ④ 領域別実習のグループ編成、実習オリエンテーションの企画・運営、実習全般（ワクチン接種状況、感染予防等）に関わる調整 ⑤ 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント等の分析と今後の対策の検討
ウエブサイト委員会	① 看護学部教員・各領域に関する情報更新 ② 学部長あいさつ、トップページ写真等の更新 ③ 各センター・委員会関連ページの更新・充実 ④ 看護学部年報、看護研究雑誌の最新号掲載 ⑤ その他必要な更新及び情報公開（随時）
看護研究雑誌編集委員会	① 第 8 巻発行と投稿への働きかけ ② 2 名の査読体制の維持 ③ 査読者を広く学外に求めるための基盤作り計画

国家試験対策委員会	① 全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 ② 平成 29 年度国家試験対策の模試及び対策講座の実施 ③ 平成 30 年度国家試験対策の企画及び予算案の作成 ④ 国家試験対策活動の保護者への周知 ⑤ 模試成績不良者の対策：講座への出席率を向上させる方策の検討、チューターとの情報共有及びチューターへの学習指導強化の依頼 ⑥ 4 年次を 2 回履修する学生への対応 ⑦ 国家試験に不合格した卒業生への対応
就職支援委員会	① 学生に対する就職情報提供 ② 学生の就職活動力強化のためのサポート ③ 教員の就職活動支援力向上のためのサポート ④ 就職活動及び内定状況の把握 ⑤ 卒業生と在校生の交流の機会を設け、情報提供の充実をはかる ⑥ 来校人事担当者との対応による情報収集 ⑦ 卒業生の動向に関する情報収集のあり方に関する検討 ⑧ HP の更新と内容充実
看護学部年報編集委員会	① 平成 28 年度年報の編集及び冊子での発行 ② 平成 28 年度年報の HP 上での公開 ③ 平成 29 年度年報の取り纏め
物品管理委員会	① 教務関係備品・消耗品の在庫管理と点検 ② 平成 29 年度教務関係物品購入予算案の作成 ③ 教務関係備品の貸し出し管理
看護学部広報委員会	① オープンキャンパスの企画・運営 ② 看護学部案内書の企画・作成 ③ 進学ガイダンス出向の調整・実施 ④ 看護学部の教育・研究活動の学内外への紹介 ⑤ 看護学部案内書サブツールの企画・作成 ⑥ 学校訪問の調整・実施
看護学研究科大学院委員会	① 入学試験での合否基準の更なる検討と受験者増に向けた対策 ② 学位授与基準の検討を反映した学位論文指導の充実 ③ 入試相談会の開催やＨＰの充実等による広報活動の推進 ④ 教育活動に関する自己点検と改善への取り組み ⑤ 教員と事務が一体となった大学院の運営力の強化 ⑥ 学習環境の整備、交流会の開催など学生サービスの充実

２．2017 年度看護学部（看護学研究科を含む）予算執行額

予算執行額　80,730,636 円

【内訳】

看護学部教育経費	48,224,696 円
看護学部奨学金経費	32,500,000 円
看護学部研究活動経費	5,940 円

３．学事一覧

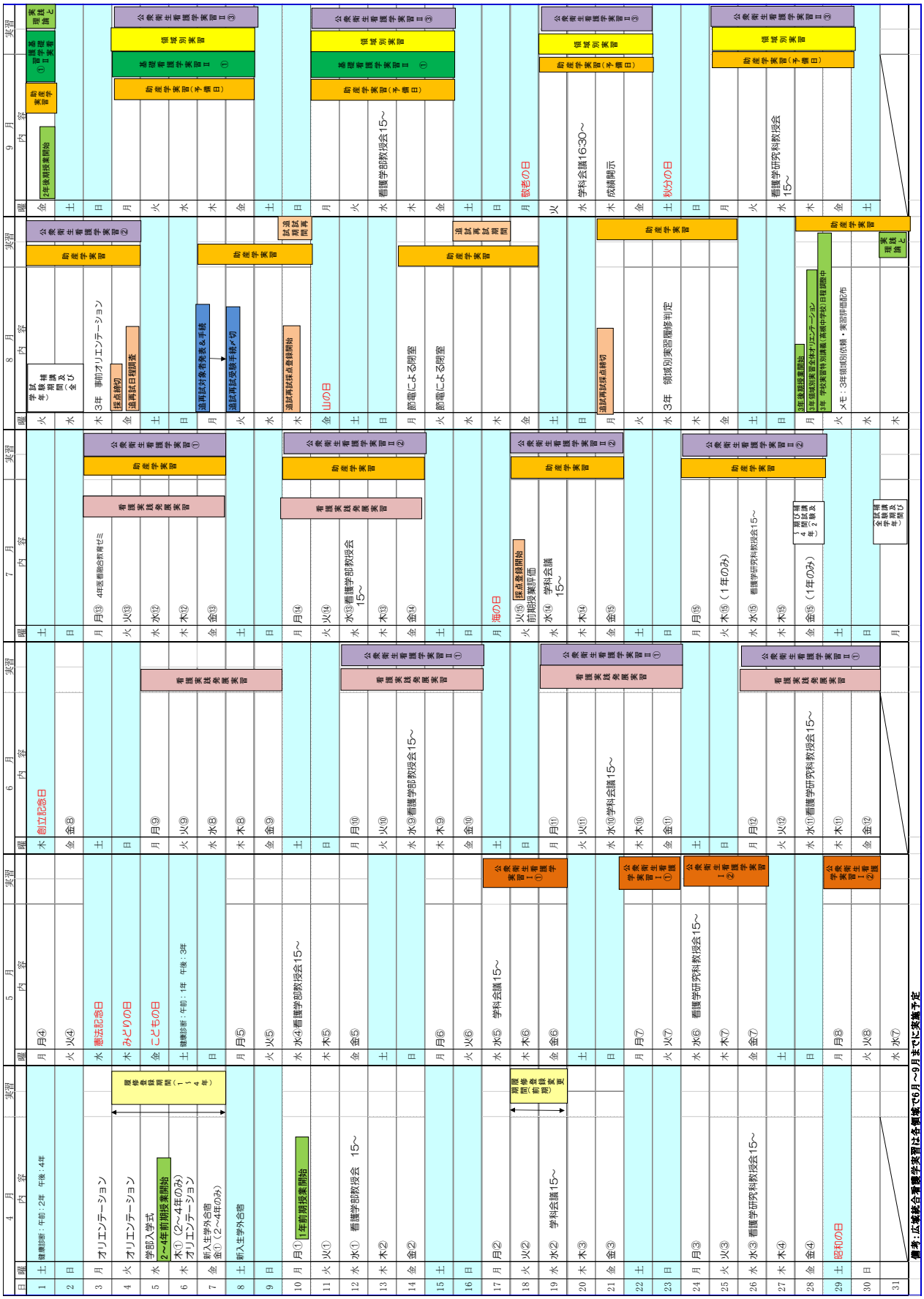
1）看護学部の学事一覧

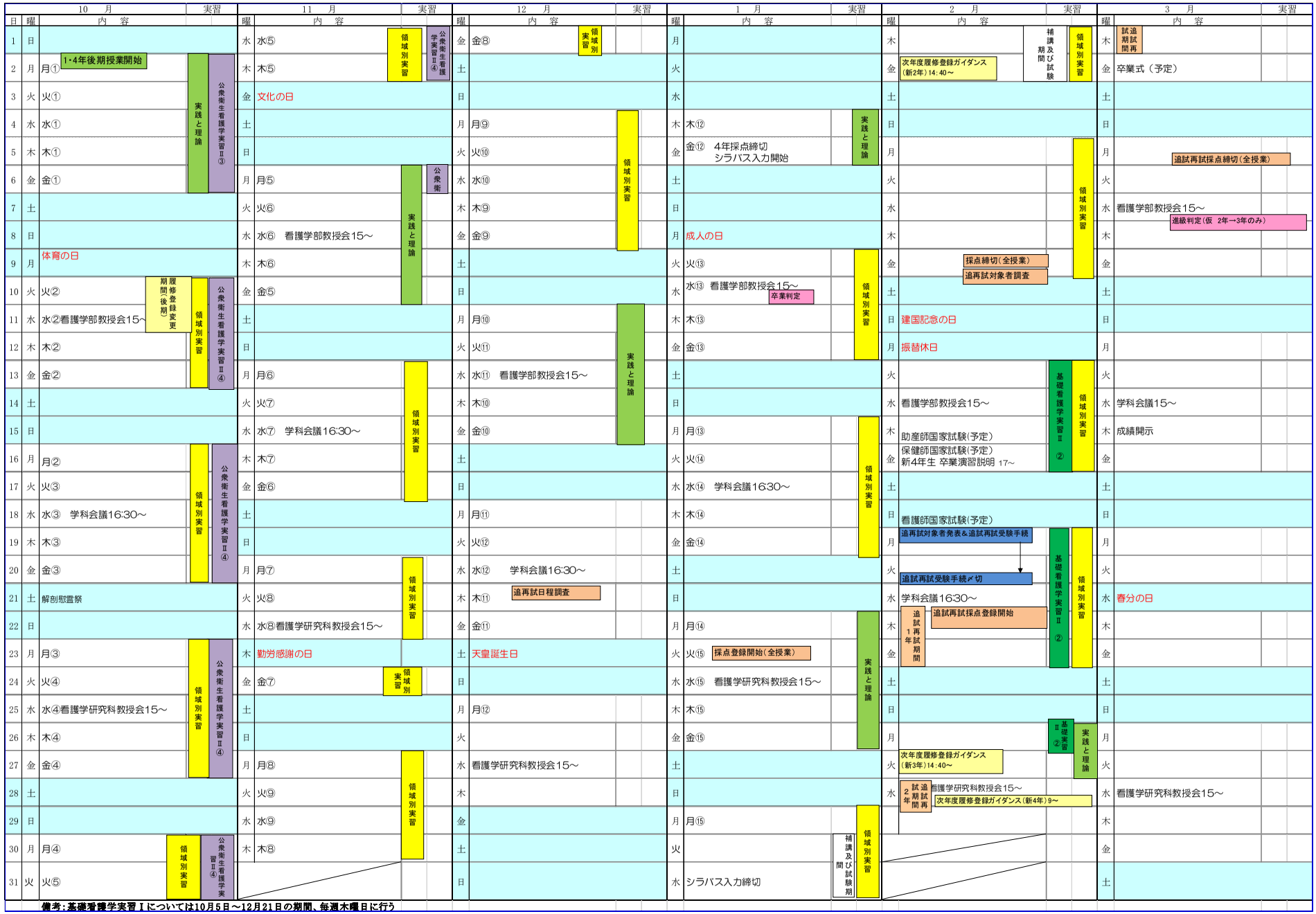
表 1 参照

2）看護学研究科の学事一覧

表 2 参照

表１　看護学部　2017 年度学事一覧





備考：基礎看護学実習Ⅰについては10月5日～12月21日の期間、毎週木曜日に行う

表２　看護学研究科　2017年度学事一覧

4月

日	曜	内容	
1	土	臨時看護学研究科教授会11～	
2	日		
3	月	オリエンテーション 大学院入学式～	履修登録期間（大学院）
4	火		
5	水		
6	木		
7	金		
8	土	(院）土①	
9	日		
10	月	(院)月①	履修登録変更期間（大学院）
11	火	(院)火①	
12	水		
13	木	(院)木①	
14	金	(院)金①	
15	土	(院）土②	
16	日		
17	月	(院)月②	
18	火	(院)火②	
19	水		
20	木	(院)木②	
21	金	(院)金②	
22	土	(院）土③	
23	日		
24	月	(院)月③	
25	火	(院)火③	
26	水	看護学研究科教授会14～	
27	木	(院)木③	
28	金	(院)金③	
29	土	昭和の日　研究計画及び中間発表会（修士・博士）	
30	日		

5月

曜	内容
月	(院)月④
火	(院)火④
水	憲法記念日
木	みどりの日
金	子供の日
土	(院）土④
日	
月	(院)月⑤
火	(院)火⑤
水	
木	(院)木④
金	(院)金④
土	(院）土⑤
日	
月	(院)月⑥
火	(院)火⑥
水	
木	(院)木⑤
金	(院)金⑤
土	(院）土⑥
日	
月	(院)月⑦
火	(院)火⑦
水	
木	(院)木⑥
金	(院)金⑥
土	(院）土⑦
日	
月	(院)月⑧
火	(院)火⑧
水	看護学研究科教授会15～

6月

曜	内容
木	創立記念日
金	(院)金⑦
土	(院）土⑧
日	
月	(院)月⑨
火	(院)火⑨
水	
木	(院)木⑦
金	(院)金⑧
土	(院）土⑨
日	
月	(院)月⑩
火	(院)火⑩
水	
木	(院)木⑧
金	(院)金⑨
土	入試相談会　(院）土⑩
日	
月	(院)月⑪
火	(院)火⑪
水	
木	(院)木⑨
金	(院)金⑩
土	
日	(院）土⑫
月	(院)月⑫
火	(院)火⑫
水	看護学研究科教授会15～
木	(院)木⑩
金	(院)金⑪

7月

日	曜	内容
1	土	(院）土⑫
2	日	
3	月	(院)月⑬
4	火	(院)火⑬
5	水	
6	木	(院)木⑪
7	金	(院)金⑫
8	土	(院）土⑬
9	日	
10	月	(院)月⑭
11	火	(院)火⑭
12	水	
13	木	(院)木⑫
14	金	(院)金⑬
15	土	(院）土⑭
16	日	
17	月	海の日
18	火	(院)火⑮
19	水	
20	木	(院)木⑬
21	金	(院)金⑭
22	土	(院）土⑮
23	日	
24	月	(院)月⑮
25	火	
26	水	看護学研究科教授会15～
27	木	(院)木⑭
28	金	(院)金⑮
29	土	(院）土⑯
30	日	
31	月	

8月

曜	内容
火	
水	
木	(院)木⑮
金	
土	(院）土⑰
日	
月	
火	
水	
木	
金	
土	
日	
月	
火	
水	
木	
金	
土	
日	
月	
火	
水	
木	

9月

曜	内容
金	
土	看護学研究科入学試験 ９：００～
日	
月	
火	
水	
木	
金	
土	
日	
月	敬老の日
火	
水	
木	
金	
土	秋分の日
日	
月	
火	
水	看護学研究科教授会15～
木	
金	
金	

授業日程表の見方

・〇数字は、各曜日授業の回数を示します。

※各授業、特別研究・課題研究については、指導教授と大学院生との調整により、日時を変更することがあります。

※月曜日・火曜日・木曜日・金曜日.
の授業科目については、時間割表を参照してください。

10 月			11 月			12 月			1 月			2 月		3 月	
日	曜	内 容	曜	内 容		曜	内 容		日	曜	内 容	曜	内 容	曜	内 容
1	日		水			金	(院)木⑨		1	月		木	口頭試問期間(続き)	木	
2	月	(院)月①	木			土	(院) 土⑨		2	火		金		金	
3	火	(院)火①	金	(院)金⑤		日			3	水		土	(院) 土⑯	土	
4	水		土	(院) 土⑤		月	(院)月⑨		4	木	(院) 木⑬	日		日	
5	木	(院)木①	日			火	(院)火⑩		5	金	(院) 金⑬	月		月	
6	金	(院)金①	月	(院)月⑤		水			6	土	(院) 土⑫	火		火	
7	土	(院) 土①	火	(院)火⑥		木	(院)木⑨		7	日		水		水	臨時看護学研究科教授会時間未定 (学位授与可否審議・投票)
8	日		水			金	(院)金⑩		8	月	成人の日	木		木	
9	月	体育の日	木	(院)木⑤		土	(院) 土⑩		9	火	(院)火④	金		金	
10	火	(院)火②	金	(院)金⑥		日			10	水		土		土	
11	水		土	(院) 土⑥		月	(院)月⑩		11	木	(院) 木⑭	日		日	
12	木	(院)木②	日			火	(院)火⑪		12	金	(院) 金⑭	月	建国記念の日	月	
13	金	(院)金②	月	(院)月⑥		水			13	土	(院) 土⑬	火		火	
14	土	(院) 土②	火	(院)火⑦		木	(院)木⑩		14	日		水		水	
15	日		水			金	(院)金⑪		15	月	(院)月⑬	木	研究計画発表会	木	
16	月	(院)月②	木	(院)木⑥		土	(院) 土⑪		16	火	(院)火⑮	金	研究計画発表会	金	修士博士論文製本提出17:00
17	火	(院)火③	金	(院)金⑦		日			17	水		土	口頭試問期間・研究計画発表会	土	
18	水		土	(院) 土⑦		月	(院)月⑪		18	木	(院)木⑮	日		日	
19	木	(院)木③	日			火	(院)火⑫		19	金	(院)金⑮	月		月	
20	金	(院)金③	月	(院)月⑦		水			20	土	(院) 土⑭	火		火	
21	土	(院) 土③ 解剖慰霊祭	火	(院)火⑧		木	(院)木⑪		21	日		水		水	春分の日
22	日		水			金	(院)金⑫		22	月	(院)月⑭	木	発表会	木	
23	月	(院)月③	木	勤労感謝の日		土	天皇誕生日		23	火		金	発表会	金	
24	火	(院)火④	金	(院)金⑧		日			24	水		土	発表会	土	
25	水	看護学研究科教授会15～ 博士1年研究計画発表会　17～	土	(院) 土⑧		月	(院)月⑫		25	木		日		日	
26	木	(院)木④	日			火	(院)火⑬		26	金	博士・修士論文提出（正午）	月		月	学位授与式
27	金	(院)金④	月	(院)月⑧		水	看護学研究科教授会15～		27	土	(院) 土⑮	火		火	
28	土	(院) 土④	火	(院)火⑨		木	(院)木⑫		28	日		水	看護学研究科教授会15～ （修正版） 修士博士論文提出締切（17:00迄）	水	看護学研究科教授会15～
29	日		水	看護学研究科教授会15～(主査・副査の決定)		金			29	月	(院)月⑮博士修士口頭試問【最終試験】			木	
30	月	(院)月④	木	(院)木⑦		土			30	火				金	
31	火	(院)火⑤				土			31	水	看護学研究科教授会15～			土	

４．学生在籍数

1）看護学部

（2017 年 5 月 1 日現在）

学年 （入学定員）	1 年 (85)	2 年 (85)	3 年 (85)	4 年 (85)	合計 (340)
男	2	1	3	3	9
女	92	84	86	87	349
計	94	85	89	90	358

＊2017.5 以降 4 名退学者有　2018.3 現在　1 年生　女 91 名、3 年生　女 85 名

2）看護学研究科

【博士前期課程】　（2017 年 5 月末現在）

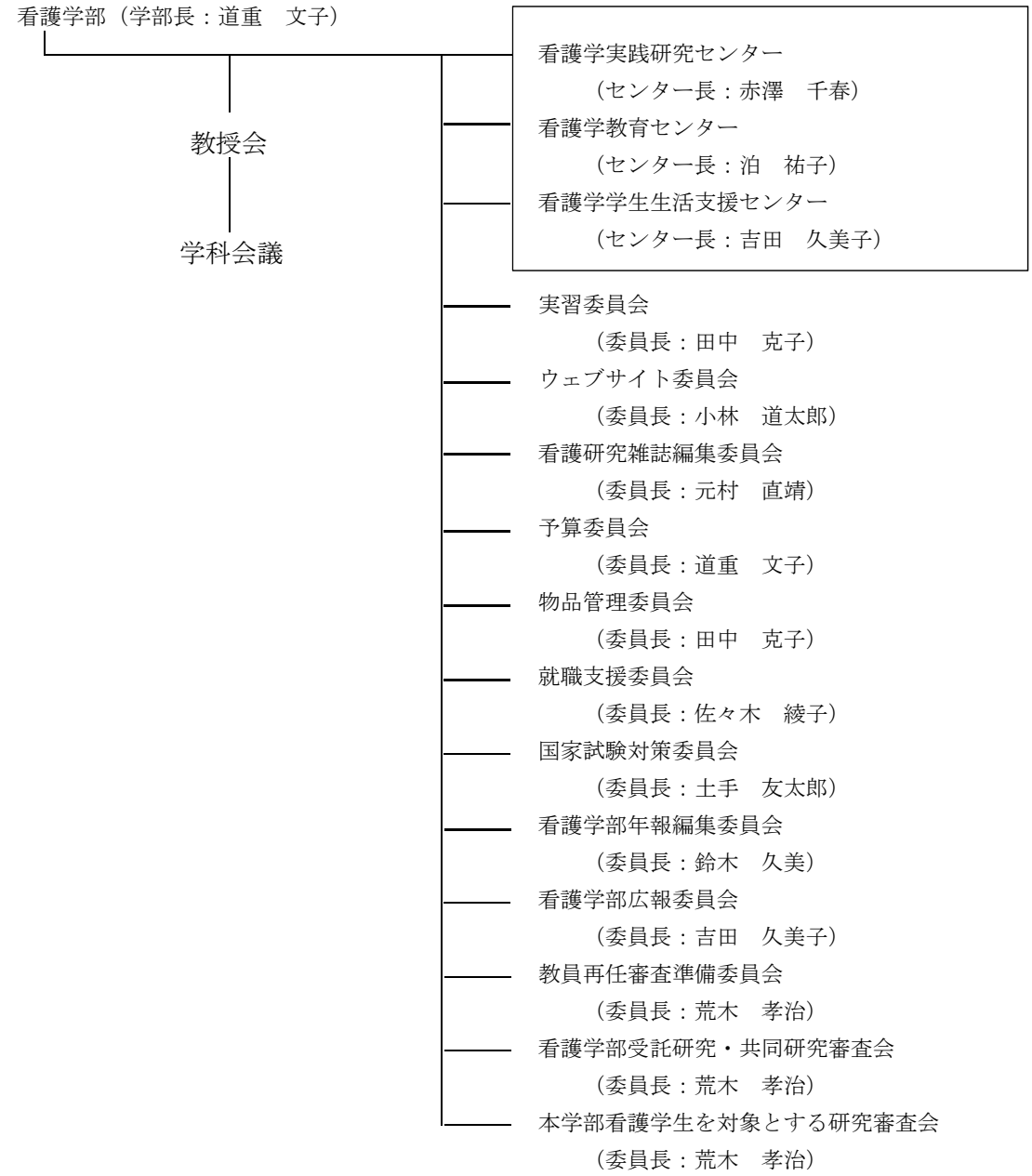
コース	専門分野	1 年	2 年	長期履修他	合計
教育研究コース	看護技術開発学	1	1	0	2
	移植・再生医療看護学	0	1	1	2
	がん看護学	0	1	1	2
	慢性看護学	0	0	0	0
	精神看護学	0	1	0	1
	母性看護学	1	1	0	2
	小児看護学	0	1	1	2
	地域看護学	1	0	1	2
高度実践コース	慢性看護学	1	1	0	2
	精神看護学	1	0	0	1
	母性看護学	0	0	0	0
	小児看護学	0	1	0	1

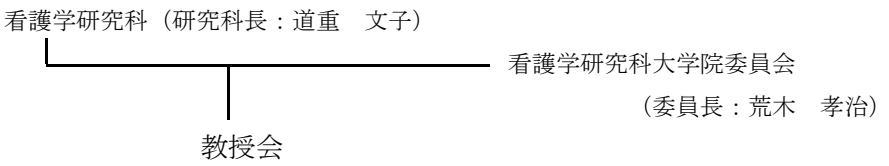
【博士後期課程】　（2017 年 5 月末現在）

領域名	1 年	2 年	3 年	長期履修他	合計
療養生活支援看護学	3	4	4	2	13
地域家族看護学	2	1	4	1	8

Ⅳ.　運営と教育活動

１．運営組織（センター及び委員会組織図）





２．センター

センター名	看護学実践研究センター
目的	本センターは本学部内、大学内をはじめ、外部機関及び地域社会における看護実践の課題に関する研究を推進するとともに、その成果を発信することを使命とする。
構成員	赤澤千春（センター長）　佐々木綾子　真継和子　カルデナス暁東　土肥美子 府川晃子　上山ゆりか　曽我浩美　山埜ふみ恵　藤井智子
活動計画	1. 研究実績の集約及び実践応用の機会に関する事項 2. 看護に関する研究情報の収集と内外への発信に関する事項 3. 看護実践研究の支援に関する事項 4. 看護生涯学習の支援に関する事項 5. 国際交流の支援に関する事項 6. その他、センター長が必要と認める事項
活動概要	1. 委員会の開催 12 回の定例委員会と 1 回の臨時委員会を開催した。 2. 1）第 6 回大阪医科大学市民看護講座の開催 日時：2017 年 11 月 9 日（土）　参加者数：53 名 テーマ：「ハハ歯の笑顔で快適生活～歯の健康を一緒に考えよう～」 講演Ⅰ　講師：寺井陽彦 （大阪医科大学医学部　口腔外科学教室専門教授） 講演Ⅱ　講師：道重文子 （大阪医科大学看護学部　教授） 講演Ⅰでは、歯周病と糖尿病との関係や咀嚼と認知機能との関係など歯や口腔と病気との関係について、講演Ⅱでは日常生活のなかで実践できる正しい歯磨きの方法、口腔内の自己チェック方法、口腔内体操や舌運動の説明があった。終了後は希望者に対し、口腔内の汚染度や乾燥度、歯茎の力など口腔内チェックもあり、参加者の興味・関心を高めた。 アンケート結果（回答者数 39 名、回答率 73.6%）は、「大変よかった」「よかった」と回答した方が大半を占め、「全身の健康の大切がわかった」「口腔がいかに体全体に影響するかがわかった」といった新たな知識提供の場となっており、また「舌の働き、動きに感謝」「毎日、食事ができることに感謝した」など自らの身体への関心と気づきに繋がる感想もあった。更に、「口腔ケアを意識的に実践していきたい」「寝る前に口の手入れをするようにする」などの意見もあった。 テーマへの関心も高く、昨年度より 3 倍近いチラシを配布し広報活動をしたものの、高槻市内で同じようなテーマでの講演が続いていたということが後になって分かり、集客数としては少なかったように思われる。開催時期やテーマの設定など検討を重ねていきたい。 2）高槻フェスタへの参加 日時：2017 年 10 月 21 日（土）　参加人数：83 名

	市民を対象に、健康チェック（血圧測定、体脂肪測定)、足指力測定、体幹バランスチェック、健康相談を実施した。雨天にも関わらず、多くの方々の参加があった。特に、20 歳代など若年層では「自分の体への関心を向ける機会」となった。 3. 1) 大阪医科大学　人材育成教育セミナーの開催 日時：2017 年 11 月 18 日（土）　参加人数：38 名 テーマ:「メンタルヘルス研修　後輩への指導に活用できる！傾聴スキルを高めよう」 講師：山埜ふみ恵 （大阪医科大学看護学部　助教） 臨床経験 3 年以上の看護師を対象とし、附属病院及び地域関連病院 6 ヵ所から参加があった。職場内のメンタルヘルス向上に向け、看護師を取り巻くストレスの現状についての講義と、傾聴演習・ロールプレイを用いたグループワークを実施した。参加者のアンケート結果から、「後輩への指導に役立てる内容だった」「他施設との意見交換ができてよかった」といった感想が得られた。 2) 大阪医科大学三島南病院　中堅看護師研修 第 1 回　2017 年 5 月 27 日（土）　参加人数：10 名 2017 年 6 月 24 日（土）　参加人数：9 名 第 2 回　2018 年 1 月 6 日（土）　参加人数：10 名 2018 年 2 月 10 日（土）　参加人数：9 名 中堅看護師を対象に、アクティブラーニングにより事例の解釈・検証を行った。参加看護師からは自身の思考の傾向や思い込みによるアセスメントの偏りの気づきが得られた。 3) 大阪医科大学三島南病院　認知症ケア講習の開催 第 1 回　2017 年 5 月 26 日（金）　参加人数：16 名 第 2 回　2017 年 6 月 5 日（月）　参加人数：20 名 認知症高齢者のケアの質の向上を目的に、認知症治療の最新の知見や看護ケア方法についての講習を行った。参加者と事例を振り返りながら、認知症高齢者の精神症状への対応を、看護ケアとして実践するための課題を見出す機会となった。 4) 大阪医科大学附属病院　看護研究セミナーの開催（各参加人数 30 名程度） ・看護研究の意義と方法、研究倫理　　2017 年 7 月 ・量的研究の方法（質問紙・統計処理）　　2017 年 9 月 ・質的研究の方法（インタビューと分析）　2017 年 10 月 看護ラダーⅢの看護師を主に対象とし、上記テーマに関する看護研究セミナーを実施した。 4. 国際交流セミナーの開催 2017 年 10 月 24 日に台北医学大学派遣学生 1 名と看護学部学生の交流を行った。

	5. 中山国際センター主催国際交流シンポジウム 2017 年 7 月 31 日に台北医学大学派遣学生 1 名が発表した。 6. 外国人学生及び研修生受け入れ 1) 台北医学大学学生 日時：2017 年 7 月 18～28 日　学生数：9 名 学生の学習ニーズを考慮し、看護学、老年学、異文化看護などに関する学びが中心になるよう各領域とその関連施設、大阪医科大学附属病院看護部の協力を得て「看護学部外国人研修生における研修プログラム」を作成した。具体的には、在学生の授業参加や周産期医療に関する講義と妊婦体験、社会福祉施設や大阪医科大学附属病院、大阪府看護協会などでの見学や講義を通してわが国の医療・看護・福祉の実際を学ぶ構成とした。学生の学びの発表からは、看護学、老年学、異文化看護などに対する学びが得られていた。 2) 山西医科大学研修生 日時：2017 年 9 月 11 日～11 月 24 日　研修生：2 名 研修場所は本学と神戸市北須磨訪問看護・リハビリセンター、大阪医科大学附属病院、三島南病院で、慢性疾患を持つ患者への継続看護について臨床講義と同行見学研修を行った。 7. 台北医学大学への学生派遣関連 看護学部 3 年生 1 名を選抜し、2018 年 3 月 5～16 日に派遣した。 8. 英会話教室（English World）の開催 看護学部の学生を対象に、英会話を楽しめる目的で、ネイティブ教師を招き 2018 年 1 月 11 日、25 日、2 月 8 日、22 日にテーマ別の英会話教室を開催した。延べ 19 名の学生が参加し、参加者の全員から満足との評価が得られた。 9. 第 2 回大阪医科大学看護研究会の開催 日時：2018 年 3 月 10 日（土）13:00～16:00 内容：看護実践研究センター活動報告 講演「楽しい認知症とそのガクジュツ的考察の関係について」 講師：池田光穂（大阪大学コミュニケーションデザインセンター） 研究活動報告（口演 3 題、示説 10 題） 参加人数：47 名（学内 27 名、学外 20 名） 学外参加者のほとんどが看護職であり、近隣の病院などからの参加もみられた。講演、演題発表とも「大変わかりやすかった」「わかりやすかった」が大半を占めた。示説会場では参加者による活発な意見交換が行われていた。 10. 教員の発表済ポスターの常設掲示を行った。計 3 題のポスターを掲示した。
評価	1. 効果が上がっている事項 今年度は台北医学大学からの学生派遣が 9 名であった。山西医科大学からの研修生も昨年から引き続き受け入れができた。 市民看護講座は同じテーマの講演と重なってはしまったものの、50 名以上の参加者数の確保ができており、アンケート結果でも参加者から好評を得ている。 市民看護講座の運営にあたって看護学事務課及び大学保安課との連携により

	円滑に進められてきており、来場者の安全確保ができている。 大阪医科大学看護研究会を発足し 2 年目を迎えた。卒業生なども多数参加できるよう開催日時の検討や早めの広報を検討する必要がある。 人材育成グループでは大阪医科大学三島南病院の看護部とコラボしての研修支援を開始した。 2. 改善すべき事項 海外からの学生及び研修生のプログラムの作成とホームページ上への掲載、英文でのホームページの作成の必要性がある。 台北医学大学以外の海外大学との交流活動を進めていくため、中山国際医学医療交流センターとより円滑に連携を図っていく。 看護実践研究の支援に対しても具体的な計画を立てて進めていく。 台北医学大学派遣については、2017 年度の応募者は 3 年生 1 名のみであった。一定の英語力が求められることが応募者減少の一因と考えられた。1 年生から英語力向上のためのサポートが必要であり、2017 年度に行った英会話力支援や TOEIC などの検定試験支援が改善策としてあげられる。 学生の国際交流活動への関心を高めるため、海外大学での研修派遣を既存科目あるいは新規科目の単位として認定することも方策の一つとして考えられる。 市民看護講座の開催時期やテーマは、市内における講演会情報を入手し、可能な限り重複しない内容で検討していく。更に、会場（看護学部講堂）の確保が難しくなってきたため、日程だけでも押さえておく必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	看護学実践研究センターは地域の看護の質の向上のために活動をし続けていくことが重要であるので、地域の特色を十分に考慮し、大小の施設に限らず多くの施設へ、実践研究に関する支援を継続していく。また、国際交流もアジアだけでなく欧米も視野に入れた取り組みをしていく。

センター名	教育センター
目的	看護学部の教育課程の円滑な遂行のために教育計画、教育環境整備、医看融合教育、授業評価、FD（Faculty Development）等に関する事項の企画・調整・実施・評価を行うことを活動の目的とする。
構成員	泊祐子（センター長）　荒木孝治　鈴木久美　土手友太郎　小林道太郎 仲下祐美子　竹明美　寺口佐與子　北尾里江　星加圭子
活動計画	1. 教育課程に関すること（シラバスの評価等、新カリキュラムの運用等） 2. 卒業時到達目標に関すること（学位授与基準、卒業生評価への継続調査） 3. 4 年次選択の方法の検討（卒業研究、保健師及び助産師の選抜） 4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導（GPA の導入・活用） 5. 教育環境整備の充実（機器活用評価、自主学習促進のセルフトレーニングコーナーの活用） 6. 院生の教育実践力を高める FD 企画と実施 7. 医看融合教育の運営と充実（医療人マインド、専門職連携医療論、ゼミ、カンファレンス教員及び、地域医療実習、大阪薬科大学学生の参画に関する検討） 8. 私立大学等改革総合支援事業の取り組み（タイプ 1）
活動概要	1. 会議の回数と新たに出た議題 全 15 回（4/12、5/17、6/16、7/11、8/23、9/26、10/20、11/6、11/15、12/6、1/5、2/1、2/23、2/28、3/16）であった。 新たに出た議題は、新カリキュラムにおける老年看護学実習Ⅰ・Ⅱの変更申請、医療総合研修センター会議委員の選出、ベストティーチャー賞、再試願、追試願の様式、留学単位認定、タイプ 4「グローバル化への対応」、看護学部履修規程の見直し（休学中及び復学中の学生への聴講支援）、助産学実習履修予定者の附属病院での分娩見学の位置づけ、カリキュラム調査、英語の学習効果、2018 年度「異文化看護入門」の海外でのフィールドワーク導入における課題の検討、3 年次前期の事例ワークの効果的な学習支援の検討であった。 2. 教育課程に関すること：学習上の新たな課題への取り組み 1) 実習ポートフォリオ 実習指導に関する FD のディスカッションから、個々の学生に関する情報の共有が不十分である等の課題が認識されたため、方策の一つとして、実習ポートフォリオの導入について検討した。学生に自分の課題と成長を継続的に把握してもらうこと、教員も面談等でこれを確認することを目的として、ポートフォリオの概要と基本的な利用法を提案した。更に次年度より導入することを目標に実施における課題の検討を実習委員会に依頼した。 2) 基礎医学の知識不足に起因すると思われる実習での問題への対策案の検討 実習指導において出てきた領域別実習での学生の学習上の問題（基礎知識を応用して受け持ち患者のアセスメントに活用できない等）を検討し、生理学から病態の理解につなげる思考の育成の必要性から 2 年次終了時において「総合試験」を設ける提案をした。 3) 実習指導の充実に向けての実習補助員の雇用条件に関する検討

	指導困難学生に対する実習指導の充実を図るために実習補助員の雇用条件を整備した。 4) 3 年次前期の多重課題に対する改善策の検討 「多重課題の疲弊を防ぐ一案」として看護過程の展開事例の背景をそろえ効果的な学習ができるように共通事例を作成し提案した。 次年度の活用に関して評価する必要がある。 5) 授業評価 回収箱管理の問題から、評価表の提出方法（回収場所）を講義室内から 1 階レポートボックスに変更したことを契機に回収率が低下している。また、学年進行とともに回収率が低下しているため、現状の問題提起と検討を行った。他大学の授業評価項目との比較検討を行い、概ね一般に通用されている項目で構成されていることが確認された。しかし、回収率からすると、改善の余地のあることが共通理解され、再度講義室での回収とすることも検討されたが、公正性の観点から教員以外の人員配置が必要であるが現状では困難であるため、教員が関与しない現行の方法が最良であるとの結論に至った。評価表については、記入の負担を軽減する目的と授業評価の目的・目標との整合性から評価項目を見直した。授業評価表の講義・演習版は、18 項目から 12 項目に、実習版は 13 項目から 15 項目に修正を加え、次年度より使用する運びとなった。 6) シラバスの活用評価について シラバスのペーパーレス化の際、学生がシラバスを確認して授業に臨めていない等の問題が出てきたため、2016 年度から学年単位の A4 サイズのシラバスを印刷して配布していた。今年度からは学生の意見を踏まえて携帯に便利な A5 サイズに変更した。シラバス活用について学生評価をしたところ、概ね持ち運びに便利という感想があり、80%以上の学生が次年度も同様のシラバスの配布を希望していた。また、前後期の区別がわかるようにという希望があったので、もくじを前後期別に分けてわかりやすいように編集した。シラバス活用については、1～3 年次までの学生は 60%以上、4 年次は 50%程度が有効活用できていると回答していた。 3. 卒業時到達目標に関すること 例年、卒業間近の 4 年次 1 月に卒業時到達目標の自己評価を実施していたが、今年度は 4 年次 4 月上旬と 1 月の 2 回に学生の自己評価を実施し、最終学年の 1 年間での成長がみられるか比較検討を行った。その結果、4 月の学生の自己評価はかなり低かったが、1 月になると例年の学生の自己評価と同レベルまで上昇し、最終学年の 1 年間で大きく成長したという自己評価が示された。 4. 4 年次選択の方法の検討（卒業研究、保健師及び助産師の選抜） 1) 卒業演習学生配置 昨年度、学生間の公平性を担保する目的で、クリッカーナノを利用した卒演配置を実施した。その結果、実施方法には時間がかかるなどの問題があっ

たが、学生間の公平性については担保されたとの意見がある一方で、教員側が学生の関心を考慮せずに配置されることに懸念を示す意見もあった。そのため、今年度は全教員を対象に卒演配置に関する意見（無記名自記式質問紙）を求めた。その結果、多数により昨年の方法が支持された。昨年人数調整に時間を要した点への工夫のために、くじ引き機能のあるターニングポイントを利用することにした。その結果、配置調整に要した時間も短縮された。学生の反応はおおむね良好であった。

2) 卒業演習報告会

昨年度より、教育センター主導の報告会から領域別報告会に変更したため、各領域の裁量に幅が出て、発表形式の選択や開催日程に幅がもてるようになった。各領域で設定した報告会開催日は 12 月中であり、全ての領域の発表会が滞りなく終了した。

3) 保健師及び助産師受験資格コースの選抜

(1) 保健師選抜

例年通り 8 月下旬に選抜要件を満たす学生を対象にオリエンテーションをし、10 月初旬に 32 名の出願者全員が合格となった。昨年度は領域別実習を病欠により未修得であった学生がいたため、今年度は 3 月に公衆衛生看護学実習Ⅱの履修条件を満たしているか確認し、次年度の履修学生を最終確定した。

(2) 助産師選抜

12 月中旬に選抜要件を満たす学生を対象にオリエンテーションを実施した。8 名の出願者があり 1 月末に面接と選抜判定会議を行い 6 名を選抜した。

5. 適正な成績評価・進級判定と学生指導（GPA の導入・活用）

学生の学修状況をより明確にし、学修を一層有益にすることを目的として、昨年度より準備した GPA 制度を導入した。GPA は学業成績通知書に記載するように医学部と統一した。GPA の低い学生に対する指導に用いるように教員にアナウンスした。また今後の進級判定に利用するように検討し教授会に提案した。

6. 教育環境整備の充実

1) 看護学部の個人使用以外の PC のセキュリティ及び保守管理

看護学部の個人使用以外の PC の保守管理は、使用者が不具合を関係者に申告した場合のみ実施されてきた。開設当初より、学部としての全体的かつ継続的な管理体制がない。2018 年 3 月中旬における看護学部の場所別の個人使用以外の PC（デスクトップ型：D、ノート型：N）台数を示す。学部棟 1F には院生室博士（N-3）、修士（N-2）、実践研究センター（D-2）、中会議室（N-1）、キャリアサポートルーム（D-2）、講堂下の A3 ポスター印刷用（D-1）がある。学部棟 2F には講堂（N-1）、情報処理室の学生用（D-46）及び教壇（N-1）、講義室 1（N-1）、3D 用（D-1）、講義室 2（N-1）がある。学部棟 3F には講義室 3（N-1）、講義室 4（N-1）、講義室 5（N-2：前後教

	壇)、演習室（Big Pad-9）がある。学部棟 4F には実習室（N-2）がある。研究棟 108 室には非常勤・実習補助員室用（D-4）がある。さらに貸出用 PC（N-8）がある。これらの情報を一覧にして学部長に報告し、今後の管理体制の整備を進言した。 2) 自主学習促進のセルフトレーニングコーナー（セルトレコーナー）の活用 学生のセルトレコーナー活用促進のために、センター企画の演習を 7 回開催し、延べ 58 人が参加した。1 年生には、セルトレコーナーのオリエンテーションを実施した。しかし、自主学習として比較的医療的要素のあるケアができるセルトレコーナーの活用はなかった。原因として、例年であれば領域別実習前、あるいは実習中の 3 年生の活用が増加するが、今年度は 3 年生の活用がほとんどなかったことによると思われる。また、学生のセルトレコーナー活用促進のために教員を対象に、学生に薦めたい看護技術を募集した。その結果、5 領域より計 8 つの技術が寄せられ、次年度の企画へ反映させていく。セルトレコーナー管理としては、定期点検を実施し、故障モデルやモニターの修理と物品整備を行った。 7. 教員及び院生の教育実践力を高める FD 企画と実施 1) 実習に関する学内交流会 テーマは「実習における教育実践の“見える化”」として、昨年度実施の「実習に関する学内交流会」での指導上対応が困難な事柄等の現況を踏まえて看護職としての基本的姿勢の育成や看護実践能力の向上を目指した教育実践を“見える化”し共有することで、今後の実習や演習などの学生指導に役立てることを目的とした学内交流会を実施した。開催日時は 8 月 28 日（月）14:00～15:40、対象を看護学部非常勤教員及び実習補助員にも広げた。参加者は 30 名（教授 10 名、准教授 7 名、講師 6 名、助教 5 名、非常勤教員 2 名）であった。学内交流会では、昨年度実施の「実習に関する学内交流会」で出された意見を振り返り、今年度 4 月に実施した「学士課程版看護実践能力と到達度」の調査結果を共通理解した。次に、グループワークによって実習の指導でどのような工夫をしてきたか、どのようにすれば学生の成長を促せるかに関して議論した後、グループ発表を行って共有した。議論では、学生の様子や実習指導の工夫が話し合われた他、看護学部としての今後の方策についても示唆や提案がなされた。 昨年度から継続して看護学部教員全体で実習における教育実践に関して検討し、課題の明確化や工夫を可視化した。それにより今後の方策として、比較的導入しやすく効果が期待できそうなものとして実習ポートフォリオの導入案を作成し（前述：2. 1)）実習委員会に申し送った。今後も学生の看護実践能力の向上にむけた教育の質の担保を図るための方策を検討する。 2) 教育講演会 テーマは「アクティブ・ラーニングの導入背景と具体的実践法」であり、アクティブ・ラーニングとは何かを正しく理解し、講義等で取り入れるための具体的な実践方法を学ぶことを目的とした。医学教育センターと相談し大

	阪医科大学 FD 講演会とした。講演会の講師は、大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部講師　家島明彦氏、開催日時は 3 月 5 日（月）17:00～18:30、参加者は 67 名（看護学部及び医学部教職員、大学院生、附属病院医師、事務職員等）であった。講演会後のアンケート（回収率 51%）では、91%が「今後の教育等に役に立つ機会となった」、71%が「講演時間は適切であった」と回答した。 本講演会は大学教育現場における学生及び教員の変化、時代の変化をふまえた講演テーマを設定しており、能動的な学修を促進するための方策を学ぶ機会となったと思われる。アンケートの自由記載では「質問ももっと気軽にできる雰囲気で複数回開催してほしい」「続編で評価の講演を聞きたい」などの意見があったため、継続的に教授法のレベルアップを図る講演を検討する。 8. 医看融合教育の運営と充実→多職種連携教育 「医療人マインド」及び「専門職連携医療論」の次年度シラバスの検討に際し、三学部学生が、少しでも意見交換ができる方法を提示した。 「医看融合カンファレンス」では、看護学部 3 年生が母性領域、精神領域のいずれかの領域別実習において、同時期にクリニカル・クラークシップ実習に参加している医学部 5 年生とともにケースの話し合いを行った。9 月 14 日以降、母性看護学、精神看護学で各々7 回実施した。母性領域では医学部 5 年生 54 名、看護学部 3 年生 40 名、精神領域では医学部 5 年生 26 名、看護学部 3 年生 33 名が参加した。医学部生が全員参加できない問題は継続している。 「医看融合ゼミ」は、医学部 6 年生全員と看護学部 4 年生全員を対象とし、大阪薬科大学（以下、「薬学部」と略す）から 20 名の学生も参加して、7 月 3 日に開催された。あらかじめ医看融合カリキュラム小委員会で作成した医療安全等に関する 5 事例を資料として、三学部数名で構成する小グループを 21 組編成し、資料について共同討議し、医師、看護師の連携のあり方等について話し合った。薬学部の学生は 2 人ずつに分かれ、上記のグループに入って討議に加わった。ゼミの後、発表会を行い、グループで話し合われた内容を紹介した。 「地域医療実習」は、高知県への医師派遣協定がある関係から、2016 年度より高知県本山町での「地域医療実習」を企画・開始した。医学部・看護学部の学生に加え薬学部の学生も参加し、医看薬の多職種連携教育に拡がった。そのことを契機に薬学部が「医療人マインド」、「専門職連携医療論」にも参加することになり、多職種連携教育の協定を両大学で結んだ。そのためこれまで「医看融合教育」と呼んでいたが今後は「多職種連携教育」と変更になると考えられる。 9. ベストティーチャー賞選出方法の決定 回収率が 25%以上の科目を対象に授業評価の数値を基に本年度初めて、ベストティーチャー賞候補科目を選出した。 10. 私立大学等改革総合支援事業の取り組み（タイプ 4） タイプ 4 の項目に取り組みができる可能性について検討した。

評価	1. 効果が上がっている事項 学年単位のシラバスを A5 サイズにしたことで、学生からは持ち運びが便利になり活用しているという回答が見られ、一定の成果がみられた。 卒業時到達目標を 4 年次の始めと終わりに自己評価したことにより、最終学年で大きな成長がみられていることが明らかになった。 自主学習促進：学生全員にセルトレコーナーの存在・利用方法について周知できた。また、セルトレ企画として、昨年度からの継続企画に加え新企画を行い、参加した学生からは、授業で一度しか経験しなかったものを再実施できたことや説明のみの項目を実施できた等良い評価を得た。 FD では、昨年度から継続して看護学部教員全体で実習における教育実践に関して、課題を明確化した。その課題について、教育講演会（昨年度：ポートフォリオ・プロジェクト学習、今年度：アクティブ・ラーニング）を通して得た方法論を活用して、“実習ポートフォリオ” という具体的な方策を提言した。 卒業演習学生配置方法として学生間の公平性を担保する目的で、昨年度より公開制のクリッカーナノを利用したが、手順の問題から時間を要した。今年度は、事後評価を基に手順を見直し、くじ引き機能のあるターニングポイントを使用したことにより、時間の短縮が図れ、学生の反応はおおむね良好であった。 授業評価については、授業評価表の改訂を行った。 教育環境の充実に関して、情報処理室の学生用 PC 及び貸出用 PC には使用者による残存ファイルを自動削除する状態にあったが、セキュリティやウイルス対策のため Windows update 及びウイルスバスターの更新ができないため解除した。解除後、Windows update 及びウイルスバスターを更新した。使用頻度の高い講義室 1 から 5 までの PC も同様に更新できた。 2. 改善すべき事項 これまでの FD 企画（学内交流会や教育講演会の内容）が講義や演習等にどう活かされているか実態把握と評価が必要と考えられる。また、学部内教員が実施している講義や演習等の好事例を教員全体で共有し、互いに活性化する機会を設けるなどの検討も必要と考えられる。 自主学習促進：セルトレコーナーの活用者数が昨年に比べ減少した。自主学習の動機づけとして、教員アンケート結果を学生に周知し、2 年生の復習としての活用、領域別実習前の 3 年生の活用を促進していく必要がある。 卒業演習報告会：領域別の報告会を開催し 2 年目となるが、運営上の効果、発表者の満足度、下級生や指導者等の参加度についての評価を行う必要がある。 授業評価の回収率を上げるために、改訂した授業評価表の回収率、回収方法の改善（Web を利用する方法なども視野に入れる）について検討する必要がある。 上記の PC にはセキュリティやウイルス対策のため Windows update 及びウイルスバスターを継続的に更新する必要がある。 医看融合教育に大阪薬科大学薬学部が参加したことから多職種連携教育に

	衣替えになったが、IPE として全学的な取り組みになっていないので、全学教員が IPE の主旨を共通理解する必要性がある。 医看融合カンファレンスに医学部学生が全員参加できていない状況が続いている問題があるが、このカンファレンスが始まった当初と異なり、新たに「医療人マインド」「専門職連携医療論」が開設されているので、このカンファレンスの意義や位置づけを見直す必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	実習ポートフォリオについて、実習委員会と協力して詳細化し実施する。 進級要件に GPA を含めるかどうかについて、カリキュラムとの整合性をみながら引き続き検討する。 FD 企画は、看護学部全体として学生の能動的な学修を促進する教育実践力を高める内容となるよう検討する。 FD を通してアクティブ・ラーニングには様々な方法があり、場面に応じて適切な方法を選べば学生の潜在力を引き出し、卒業時達成目標の向上に寄与できると考えられるので、教育内容と緊密にリンクさせながら、継続的にアクティブ・ラーニングに関する研修を続けていくことが望ましいと考える。 実習における学生の課題に関して、学内交流会の実施内容から次年度からの実習前の基礎医学知識の定着や思考をつなげる学習等の試験（総合試験等）の必要性を提案した。 3 年次前期の実習前の教育における各領域資料事例の家族や地域背景を統一し、学生が領域特性に集中して学習ができる共通事例を提案したが、使用方法と効果をみることが課題である。 セキュリティやウイルス対策だけでなく、OS の Version Up（Windows 10）や最新機種（solid state disk drive）等への買い替え等、これら PC の保守管理運用体制について十分な検討が早急に必要である。 医看融合教育として行ってきた授業を全学教員が共通理解する必要があるため、現在、教育センターが取り組んでいるプロフェッショナリズムの授業を理解してもらうための FD を企画する。

センター名	学生生活支援センター
目的	本センターは、看護学部における円滑な学生生活の提供をめざし、学生生活の中で学生が抱える諸問題（修学、大学生活への悩み、経済的事由に起因する悩み等）に組織的に対応し、学生の主体的な大学教育への適応を図り修学効果を高められるよう厚生補導の一役を担う。
構成員	吉田久美子（センター長）　津田泰宏　瓜﨑貴雄　久保田正和　山﨑歩 西頭知子　肥後雅子　古川亜衣美　川上将弘　塚本文代
活動計画	2017 年度の年間計画 1. 総代・副総代の連絡会 2.（チューター制度）チューターが活動しやすい、学生が相談しやすい環境づくり（継続） 3.（奨学金）学内制度の見直し 4.（健康管理）保健管理室との連携の一層の緊密化（継続） 5.（学生からの要望に対する対応）意見箱の運用 6.（学生自治）学生が自ら話し合い、学生生活の問題を解決していくことの支援、学友会役員選考支援、謝恩会準備の支援 7.（学外合宿）参加者の安全、学生の課題達成を促進できる組織作り 8. ホームページの内容の充実 9. 学習環境の整備
活動概要	1. 各月の活動概要 月 1 回の定例会議を開催し、必要事項の確認と検討を行った。各回の会議については議事録を作成し保存している。また、医学部及び看護学部両センター長及び、両学部事務員による連絡会議を月 1 回定例に開催している。学生支援上の課題を両学部で共有し、大学としての統一方針に則った対応を行うよう努めている。 以下、各月の主な活動である。 4 月：センター委員の役割分担、新年度チューターグループへの移行、新入生学外合宿実施、新年度各学年総代・副総代の決定、総代連絡会実施 5 月：奨学金応募者選考面談審査、看護学部給付奨学金の選考審査、保健管理室との連携の一層の緊密化、ホームページ更新 6 月：看護学部給付奨学金の選考審査、チューター活動に関するアンケート、学友会役員の選考 7 月：休養室の運営方法の見直し 9 月：「第 15 回学生生活実態調査」（私立大学連盟）実施依頼 10 月：医・看合同新入生学外合宿の検討、本年度の学生生活実態調査内容検討、学生生活ガイドの見直し、学園祭支援 11 月：新入生オリエンテーションの検討 12 月：学生・教員懇談会の実施 1 月：学生・教員懇談会での学生意見の集約・回答検討、卒業記念品に対する助言、学生生活ガイドの検討、学生生活実態調査の実施（1～4 年生）

2 月：チューター制度のアンケート実施検討、年報作成準備

3 月：年報の報告

2. 担当ごとの活動内容

1) 奨学金関連

2017 年度奨学金希望学生に対して、募集説明会を開催した。本学入学後の奨学金申込学生に対しては、応募書類を記載し提出させた。その後、センター教員による面接を行い、家庭の経済状況、奨学金の必要性の度合いや、受給後返済の重要性の理解度等について面接を実施し、センター教員による選考を行った。

2017 年度日本学生支援機構奨学金の新規採用者は次の通りである。家族所得が一定水準以下の方が対象になる第一種（無利子）は、1 年生 13 名・2 年生 1 名であった。家族所得に関わらず申請可能である第二種（有利子）は、1 年生 18 名、3 年生 1 名であった。本学看護学部独自の奨学金は、次のものが準備されている。大阪医科大学看護学部入学時特待生規程として、1 年生の入学時成績優秀者上位 4 名に給付奨学金、大阪医科大学看護学部奨学金給付規程として 2～4 年生の成績優秀者上位 4 名に給付奨学金がある。大阪医科大学看護学部特別奨学金貸与規程として、専願入学者（本学入職希望者）に貸与奨学金があり、2014 年度入学生 10 名、2015・2016・2017 年度入学生 5 名であった。その他、大阪医科大学総務部人事企画研修課が窓口になる、大阪医科大学看護奨学金がある。大阪医科大学入職希望者が対象であり、看護学部 2～4 年生の希望者が申請手続きする事により、窓口担当部門で採否を決定する貸与奨学金である。一定期間就労する事により返済が免除される制度がある。

外部資金の奨学金として、本年度受給実績の奨学金は、次の 2 組織である。小野奨学会は、1 年生 2 名、2 年生 3 名、3 年生 2 名、4 年生 2 名の合計 9 名で、奥村奨学会は、2 年生 1 名である。

その他、外部資金の奨学金については、募集の都度掲示板等に周知したが希望者や該当者が無く申請していない。

2) チューター制度の実施

チューターグループの編成：チューター教員の組み合わせは、下記の通りであった。4 年生は例年通り卒業演習担当教員とした。

教員 2～3 名で 1～3 学年の学生 17～18 名を担当した。面談は集団面談、個人面談を含め、各担当教員の判断による実施とした。

表 1. 2017 年度チューターグループ（1～3 年生担当）

No	担当教員	No	担当教員	No	担当教員
1	久保田、川北	6	元村、西頭	11	佐々木、山埜
2	田中、竹	7	赤澤、上山	12	鈴木、仲下、林
3	泊、大橋	8	津田、肥後、宇多	13	山﨑、土肥
4	荒木、佐野	9	小林、府川	14	真継、瓜﨑
5	土手、寺口	10	吉田、曽我	15	カルデナス、草野

3) 学生意見箱の設置

月 1 回の開箱とした。今年度の投書は 0 件であった。

4) ホームページ

センター長の変更に伴い、ホームページの改変を行った。また、学習環境の整備、奨学金、健康管理、チューター等の活動の具体的内容を掲載するように修正を行った。

5) 学生と教員との懇談会の開催

12 月 14 日（木）昼休みの時間帯を利用してランチョン交流会を開催した。参加者は、学生 7 名（1～3 年生各 2 名、4 年生 1 名）、教員 16 名（学部長、教育センター長、学生生活支援センター長・委員、有志教員）、学務部 2 名であった。事前に、学生からの意見・要望を集約したものを学年総代・副総代から提出してもらい、センター委員間で検討した結果を当日説明し、意見交換を行った。学生からは重複するものも含めて 18 件の要望が出された。意見交換の結果に関しては『学生からの要望に対する回答書』として、後日学生に掲示した（1 月）。以下に関しては、今後の検討や対策が必要である。

(1) ユニバーサルパスポートについて

休講連絡が遅かったこと（授業開始予定時間を過ぎてからの連絡）、表示されている情報が確実でなかったこと（ユニバーサルパスポートに表示されている時間割と実際の時間割が異なっていた）については、事実確認を行い対策を検討する。

(2) クラブ・サークル活動について

新歓コンパでの飲酒の誘いやクラブ活動において学部間の差別があるとの意見については、“医学部看護学部学生生活支援センター連絡会”にて報告し、今後の対策が検討された。

6) 健康管理について

今年度も保健管理室と連携して学生の健康管理を行った。看護学部生の保健管理室の年間利用件数は 59 件であり、理由は感冒様症状、打撲・捻挫、頭痛、消化器症状等（多かった順に記載）であった。今年度は健康面やメンタル面で実習の出席が心配された学生が数名存在した。特にメンタル面に障がいをもつ学生が増加している傾向にあり、それらの学生に対しての配慮に対するシステムの構築が早急に必要であると考えられた。注意が必要な学生はセンター会議で報告され、委員で情報を共有するとともに必要があればチューターに連絡して面接等の対応をお願いした。実習前の予防接種や健康診断の状況も保健管理室と情報を共有して不備のある学生に対してチューターを通して連絡し、指導した。また北キャンパスの休養室に関して、今年度から SpO_2 モニターを設置した。年間利用数は 11 件であった。

7) 学生自治支援について

学生が学生生活の様々な課題に主体的に取り組むことができるように、学生の相談の窓口となって対応した。

各学年の総代・副総代について、今年度から学友会で看護学部生代表として意見を述べる必要があるため、毎年総代を交代し、再選不可とすることと

	なった。ただし 4 年生は卒業式の各種行事があるので継続とした。 講義室内及び個人ロッカー内に私物が散見されることについて、担当教員が私物の放置の状況を毎月チェックし、注意喚起及び私物の回収を実施した。 4 年生の謝恩会担当委員からの質問に対し一緒に検討した。また、このような最終学年次に必要な事柄の準備等の内容の継承ができるように、4 年生が 1～3 年生に協力を募れるようにアドバイスした。 8) 「学生生活ガイド」作成 学生生活の現状と合致していない箇所や、学生が生活しやすくなるように記載する必要性がある内容について検討し、次年度の学生生活ガイドを作成した。 9) 医学部・看護学部合同新入生学外合宿 淡路夢舞台にて、4 月 7～8 日の 1 泊 2 日で行った。看護学部は、学生 94 名、教員 9 名が参加した。グループワークでは、将来どんな医療者になりたいか、そのために学生生活をどう過ごすかを主題にし、発表討論会を行った。合宿後のアンケートでは、医療人を目指す学生としての自覚が湧いた、グループ討論が有意義だった、両学部に友達ができた等といった意見がみられた。また、調査では、すべての学生が次年度以降も継続したほうが良いと合宿を肯定的に捉え、グループ討議課題に対しても 38%が非常に良かった、61%がまあまあ良かったとの回答がみられていた。
評価	1. 効果が上がっている事項 奨学金関連では、公共性のある日本学生支援機構並びに各種財団、その他、各地の病院等施設からの奨学生募集の情報開示が促進されている。また、面接を行うことで奨学金の内容について学生に理解を促している。 特別奨学金制度（貸与）の規定を見直し、毎年度、所定の適格認定を行うこと、学校法人大阪医科薬科大学が設置する医療機関の就職試験に合格し、卒業後 4 年以上勤務した場合は、奨学金の返還が全額免除されることとなった。 各学年の総代・副総代が学友会に参加するようになり、学友会の参集や懇談会を開催し、学年の枠を超えて関係が築ける場を設け連携を促進している。 保健管理室とのタイムリーな情報共有と対応により、早期に関係委員会や学生に関わることができるようになった。特に、メンタル面に障がいをもつ学生の対応について、大阪医科大学附属病院等の連携を含めた対応表の作成を行った。 医学部・看護学部の連絡会議の定例化によって、両学部の学生生活支援に関する情報共有と新入生合同学外合宿や学友会の運営を円滑に行うことができ、大学の学生生活支援の連携が図られている。 教員と事務職員とが連携し、学生生活支援に関する 3 つの研修会に参加した。研修内容については学会会議でも報告し、学生支援についての情報を共有することができている。 2. 改善すべき事項 外部各種団体の奨学金に関して選考基準が厳しくなっており、選考時の審査

	内容の検討が必要である。 インフルエンザ予防接種に関して多くの未接種者がいたため、保健管理室と連携し、積極的勧奨を図る。 障がいをもつ学生に対して、学校医や保健管理室を中心として附属病院等との連携調整を図り、学生生活が円滑に行われる支援システムの構築が必要である。 学生との懇談会等を活用した意見交換が行われているが、縦断的な学年間の交流が不十分であり、学友会活動への参加も含め、学生が主体的に快適な学生生活を送ることができる支援体制づくりの推進が重要な課題となる。
将来に向けた発展方策・課題	外部各種団体の奨学金の推薦者の選考に関して、獲得を目指して吟味する。 保健管理室と情報共有を図り、学生の感染症予防対策を強化する。 障がいをもつ学生の支援システムの構築が重要な課題であり、そのための相談室の設置が必要となる。 学生の自治活動推進のため、学友会活動への参加や懇親会への参加者の増加を図る運営ができるように支援する。

３．委員会

委員会名	予算委員会
目的	看護学部における適正な年間予算案を要望することを目的とする。
構成員	道重文子（学部長）　泊祐子　田中克子　元村直靖　北尾里江　中野恵梨子
活動計画	各部署等より提出された予算案を基に作成された2018年度看護学部予算案の審議を行い、教授会で承認を得た。 1. 学生の教育、学生の実習に係る備品等 2. 各センター及び各委員会に係る活動費 3. 教員の研修等に係る活動費 4. 教員の交通費 5. 実習補助員に係る諸経費 6. 看護学事務課に係る諸経費 7. その他、学部長が必要と認めたもの
活動概要	予算案を作成するために、看護学部消耗品等できるだけ削減するように努め、2018年度には看護学部として以下の新規購入を要望した。 1. 術後ケアスーツ4体（急性期成人看護学） 2. 電動ベッド購入3台（物品管理委員会） 3. 吸引シミュレーター 2台（基礎看護学） 4. Mouse14型ノートPC（公衆衛生看護学） 5. 看護学部研究棟教員用無線LAN環境構築工事（看護学教育センター） 6. 研究棟ロールスクリーン設置工事（看護学部） 7. 看護学部講堂棟1F多目的室2室新設工事（看護学部） 8. デスクセット等の一式（教員用）購入（看護学部） 9. 北キャンパスジェットタオル取付工事9台（看護学学生生活支援センター）
評価	1. 効果が上がっている事項 予算委員会で審議し、教授会で最終確認することによって適正な予算要望を推進することができた。 2. 改善すべき事項 予算委員会では予算案作成のみでなく、年度の予算決定の確認と執行状況をチェックしていく必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	2018年度予算の執行状況を確認しながら、看護学部にとって適正な予算要望を検討することが重要である。

委員会名	実習委員会
目的	看護学実習に関わる事項（年間計画の立案、実習要項の作成、実習連絡協議会の運営、実習中のインシデント等に関する検討等）の調整を目的とする。
構成員	田中克子（委員長）　瓜﨑貴雄　草野恵美子　久保田正和　佐野かおり　竹明美寺口佐與子　土肥美子　府川晃子　曽我浩美　北尾里江　星加圭子　塚本文代
活動計画	1. 実習連絡協議会の企画・運営、今後の実習連絡会議のあり方の検討と調整 2. 看護学実習要綱（共通事項）、各領域別実習要項、広域統合看護学実習要項、看護実践発展実習要項等の修正と取りまとめ 3. 領域別実習の学生のグループ編成、実習オリエンテーションの企画・運営、本年度の実習全体に関わる調整 4. 実習中のインシデント・アクシデント等の分析と今後の対策の検討
活動概要	1. 7月5日に第1回実習連絡協議会、3月6日に第2回実習連絡協議会を開催した。第1回は附属病院看護部から25名、外部施設から8名の参加があった。各領域より本年度の実習概要に関する説明等を行った。第2回は附属病院看護部から26名、外部施設から19名の参加があった。本年度の実習を終え、その報告等を行った。実習科目の学年進行に沿って報告を行い、全体像が見えるように運営した。 2. 看護学実習要綱をはじめ各実習の要項を作成した。 3. 各実習の運営に関する調整を行った。 4. 実習中のインシデント等の報告書は、合計9件あった。学生自身の体調管理不足、注意不足によるものが多かった。実習オリエンテーションも含めて、普段から体調管理等できるように教育した。 5. インフルエンザの感染による臨地実習欠席は、3名であった。予防接種を未接種の学生もいるので、感染予防への注意喚起を1月、2月は特に行った。 6. 学習態度・成績不良者に対する効果的な教育への対策に関しては、各領域とも工夫をしているが特効薬がない状況でもあった。
評価	1. 効果が上がっている事項 実習運営の調整の議論に加え実習学生に関する情報交換を定期的に行った。 実習のインシデント等に関する分析が深まり問題点が共有しやすくなった。 2. 改善すべき事項 感染予防行動に関しては、保健管理室、感染対策室と連携を取り教育していく必要がある。例えばインフルエンザ予防接種に関しても特別な事情がない限り接種する等、感染予防に関する意識を高める必要がある。実習の指導の工夫、さらに成績不良者に対しては、入学時の基礎学習の習熟度に関連するので教育センターと連携し検討していく必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	学生の精神的健康が悪化したときの対応や支援体制の検討 実習にまつわる情報管理、危機管理の対策の検討 インフルエンザ等に対する感染予防行動の強化 教育センターから提案された実習ポートフォリオの活用に関する検討

委員会名	ウェブサイト委員会
目的	看護学部のウェブサイトを円滑に管理運用する。
構成員	小林道太郎（委員長）　川北敬美　山埜ふみ恵　川上将弘
活動計画	1. 看護学部教員・各領域に関する情報更新 2. 学部長あいさつ、トップページ写真等の更新 3. 各センター・委員会関連ページの更新・充実 4. 看護学部年報、看護研究雑誌の最新号掲載 5. その他必要な更新及び情報公開（随時）
活動概要	1. 委員会の開催 委員会（8 回）を開催し、サイト更新に関する検討・準備と確認を行った。 2. サイト更新 1) 教員一覧、各教員情報、教員からのメッセージ、領域ページの更新 2) 学部長あいさつの更新、その他年次情報更新 3) 看護実践研究センター・教育センター・学生生活支援センター更新、国家試験合格情報、就職・進路状況の更新 4) 2016 年度看護学部年報、看護研究雑誌第 8 巻掲載 5) 各種告知事項、実施報告等の更新 3. 全学サイト更新への協力 大学 HP 委員会を中心に行われた大学&法人サイト全面更新に際して、看護学部関連部分等について確認し、必要と思われる点について意見を述べた。
評価	1. 効果が上がっている事項 今年度必要な情報更新を行うことができた。大学サイト更新により、看護学部サイトもデザインが変わり、一部内容等を調整した。 2. 改善すべき事項 教員情報等の更新は、業者依頼等の都合により、当初見込みよりも遅くなった。次年度以降は、全学サイト更新に伴って導入された CMS（Contents Management System）を利用することにより、より早い更新が可能であると見込まれる。
将来に向けた発展方策・課題	より柔軟なページ作成が可能な新デザインとなったことを受けて、学部サイトの構成・コンテンツを見直し、さらに充実させることが求められる。 ニュースエリアを今まで以上に活用し、タイムリーな情報発信を拡充していくことが望ましい。 CMS が導入されたため、更新依頼等の手続きについて再度整備する。

委員会名	看護研究雑誌編集委員会
目的	主に大阪医科大学看護学部の教員がその研究業績を発表する雑誌である「大阪医科大学看護研究雑誌」の論文受稿・査読、編集、出版等に関わる業務を行う。
構成員	元村直靖（委員長）　真継和子　小林道太郎　竹明美
活動計画	1. 投稿規定の変更 2. 研修会の企画として FD の開催 3.「大阪医科大学看護研究雑誌」第 8 巻の発刊
活動概要	1. 計 6 回の委員会を開催し、下記活動についての審議・調整等を行った。 2. 投稿規定の変更 3.「大阪医科大学看護研究雑誌」第 8 巻の発行：原著 1 編、実践報告 1 編、資料 12 編の計 14 編の論文と特別寄稿 1 編を掲載した。3 件の辞退があった。 4. 研修会の企画として FD の開催 5. 投稿のチェックリスト
評価	1. 効果が上がっている事項 今年度は、題目登録と論文投稿の期限を投稿規定に沿ってほぼ順守することができた。査読体制の改良も行い、編集業務もスムーズになった。 2. 改善すべき事項 今までにおいても指摘されるように適切な査読者を確保することが今後の課題である。
将来に向けた発展方策・課題	論文 17 編の内、3 編が査読中に取り下げられた。昨年度までにも指摘されていたが、題目登録の際に期限内での論文作成が可能かどうか十分な検討を要する。査読者に対する負担も考えて、編集者のほうで検討する必要もある。 今回は、最終的に原稿制限枚数が守られた。また、査読者は、出されてきた論文を理解できる人が好ましいが、学内のスタッフでは対応できないケースもあり、問題を積み残した。

委員会名	物品管理委員会
目的	看護学部の授業運営に必要となる物品の管理を行う。
構成員	田中克子（委員長）　川北敬美　林文子　中野恵梨子
活動計画	1.授業運営にかかる教育教材が有効に効果的に活用できるよう物品管理を行う。各領域が管理台帳に基づき物品管理を行う。 2. モデル人形、ベッド、車いす、ストレッチャーの点検を行う。 3. 実習室で使用する共通経費を概算し、限られた学校経費を有効に活用するための基礎資料とする。 4. 安全に配慮した物品管理の方法の見直しを行う。
活動概要	1. 5月から3月まで、計5回の委員会を行った。 2. 本学物流センターの定数化運用システム（SPD）を活用し、共通物品の定数化運用から、1年間の経費として今年度は約8万円であった。昨年より約1万円減額であったが問題もなかったので、定数の見直しはしないとした。 3. モデル人形の点検を行い、有効に物品管理ができるようにした。車いすは老朽化が進んでいる物もあるので、修理が必要な時点でその都度、修理か買い替えを検討する。老朽化のベッド3台の買い替えの予算化を行った。 4. 災害等の安全対策として、ガラスの掲示に関してはモデルを下の段に移動した。安全対策に関しては、本学の大学教育研究環境小委員会の指導の下に改善していく予定である。 5. 入館システム導入によって把握した実習室 1・2 の学生の実習室自己学習の利用状況は延べ2,739人であった。また、実習室3は298人であった。
評価	1. 効果が上がっている事項 昨年度のラベル付物品による定数化運用によって、デッドストックは減量し、適正に予算化ができた。 ベッド､モデル類等の点検を行うことによって教育教材を活用した授業が効率良く運営できるようになった。 2. 改善すべき事項 共通に使用する物品であるベッド、マットレス、ストレッチャー、車椅子等に関しては委員会で管理するが、老朽化が進んでいるため新規購入、補修に関しても予算化が必要である。 安全面から物品の移動や収納方法の改修も随時必要になると予想される。
将来に向けた発展方策・課題	教育の内容を踏まえて、物品の保守点検、物品の購入に関して適正に行われるように更に運用方法の見直しが必要と考える。 老朽化に伴いベッドの補修､新規購入に関して､計画的な予算化の必要がある。 学生の実習室の自己学習の使用状況に応じた実習室の整備を行っていきたいと考える。 看護学部内の物品の危機管理対策に関しては継続してその対策を行う。

委員会名	就職支援委員会
目的	大阪医科大学看護学部の学生の就職や進路の支援。
構成員	佐々木綾子（委員長）　土肥美子　府川晃子　宇多雅　曽我浩美　大屋祐里恵
活動計画	1. 学生に対する就職情報提供 2. 学生の就職活動力強化のためのサポート 3. 教員の就職活動支援力向上のためのサポート 4. 就職活動及び内定状況の把握 5. 卒業生と在校生の交流の機会を設け、情報提供の充実をはかる 6. 来校人事担当者との対応による情報収集 7. 卒業生の動向に関する情報収集のあり方に関する検討 8. HP の更新
活動概要	1. 学生に対する就職情報提供の一環として、キャリアサポートルームの利用促進（学生への啓発、季節毎のポスターの入れ替え)、看護職員募集情報、パンフレット等をキャリアサポートルーム内外に設置したパネルに掲示した。 2. 学生の就職活動力強化のためのサポートとして就職ガイダンスを実施した。第 1 回目は 2017 年 6 月 7 日（水)、8 日（木）に本学附属病院人事企画研修課担当者、就職支援業者による「看護学生のための就職活動講座～入門編」を開催した。看護学部 3 年生 87 名が参加した。第 2 回目は、2018 年 1 月 20 日（土)、本学附属病院担当者、第 3 期卒業生の看護師、保健師、助産師による講演及び質疑応答を開催した。看護学部 3 年生 84 名、2 年生 3 名、卒業生約 45 名、更に同日の午後には卒業生との合同昼食会、就職支援業者による履歴書及び面接対策の講演を実施した。 3. 教員の就職活動支援力向上のためのサポートでは、2017 年 6 月 22 日（金）「就職支援業者による履歴書の書き方、就職試験・面接対策（担当マイナビ)」の講演を実施した。参加者は 7 名であった。2017 年 12 月 20 日（水）「関西地区看護系大学の就職を取り巻く現状と課題、Q&A」のミニセミナー（担当ナースナビ）を実施した。参加者は 15 名であった。 4. 就職活動及び内定状況の把握：就業調査票により内定状況を把握し、2018 年 1 月の学科会議で報告した。 5. 2018 年 3 月 6 日（水)、9 日（金)、12 日（月)、13 日（火）業者による履歴書添削セミナーを開催した。 6. 来校人事担当者との対応による情報収集応接録は委員が記載し、閲覧用に同室に保管した。来訪者は 9 施設であった。 7. 卒業生の動向に関する情報収集のあり方について検討した。 8. HP の更新。看護学部 HP にバナーを作成し、卒業生の就職状況（主な就職先）を掲載した。

評価	1. 効果が上がっている事項 キャリアサポートルームの利用者は 2017 年度 37 名であり前年度より増加した。第 1 回就職ガイダンスは、学生が就職活動及びインターンシップや実際の就職活動に臨む前の準備や心構えについて知ることのできる貴重な機会となっていた。2 日目の出席学生が少なかったことから、次年度は 1 日の開催を検討する。第 2 回就職ガイダンスは、初めての就職活動に不安を抱く学生にとり、現状把握や就職活動に必要な知識・技術・心構えを学ぶ有意義な機会となっていた。合同昼食会は在校生と卒業生との活発な交流の場となった。教員の就職活動支援力向上のためのサポートでは、「履歴書添削のポイントがわかった」「具体的に履歴書・面接対策などの学生指導にいかせる」等の意見があったことから概ねよい評価であった。学生を対象とした履歴書添削セミナーでは、3 年生 66 名の希望者があり添削を受けることで就職活動の安心につながっていた。 2. 改善すべき事項 キャリアサポートルーム利用者が増加中だが、低学年からの一層の活用が望まれる。第 1 回就職ガイダンスは必須にはなっていないが 3 年生は全員出席するよう事前の動機づけが必要である。第 2 回就職ガイダンス時の昼食会は、卒業生の数が年々増加していくことから、今後開催場所の検討が必要である。また、講堂他、教室が他のセミナー等で先約されている。3 年分予約できるため、数年分早めに予約しておく必要がある。卒業生の動向に関する情報収集のあり方に関する検討は、カリキュラム評価とも関連するため、他委員会と連携し進める。
将来に向けた発展方策・課題	採用試験の時期が早まっており低学年から学生の就活に対する意識を高める必要がある。キャリアサポートルームの更なる活用推進、教員の就活支援力や個別指導力を更に充実させる。

委員会名	国家試験対策委員会
目的	大阪医科大学看護学部学生の看護師・保健師・助産師の国家試験受験をサポートして合格率向上を目指す。
構成員	土手友太郎（委員長）　カルデナス暁東　仲下祐美子　西頭知子　上山ゆりか 大橋尚弘
活動計画	1．4 年生全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2．2017 年度国家試験対策の模試や対策講座の実施 3．2 年生及び 3 年生を対象とした講座及び模試の実施 4．成績不振者対策、チューターへの学習指導の依頼 5．2018 年度国家試験対策の企画及び予算案の作成
活動概要	1．役割分担 1）全体総括、教授会審議・学科会議協議・報告関係、予算関連：土手委員長 2）看護師対策講座、東京アカデミー窓口：カルデナス委員、上山委員 3）看護師模試：大橋委員、西頭委員 4）保健師対策講座・模試：仲下委員 5）助産師対策講座・模試：西頭委員 2．委員会の開催（計 10 回）と主要議題 国家試験対策のスケジュールと運用について確認と徹底を図った。模試の結果が返却される度に成績の分析、要支援学生の選定をした。要支援学生への面談や口頭試問により学生の学習状況を把握し、チューターと協働して学習指導を強化した。 3．模擬試験、対策講座等の年間実施状況 看護師対策としては、主として東京アカデミーに依頼して、模試 5 回、講座・傾向分析 42 回を実施した。また、保健師対策としては、模試 3 回、講座 18 回、助産師対策としては、模試 2 回、セミナー2 回を実施した。成績不良者多数につき、1 月に東京アカデミーによる補講を追加した（全員対象、主に要支援学生のための必修問題対策）。
評価	1．効果が上がっている事項 東京アカデミーの全模試結果から要支援学生 25 名を抽出し、1 月以降の対策講座は前方座席指定とした。特別要支援学生 11 名に対する委員による個人面談（1/5）、必修問題テスト会を要支援学生に実施した（1/9）。東京アカデミー担当者 3 名との意見交換に基づき要支援学生を 39 名選出した（1/17）。うち希望者（ほぼ全員）には、直前勉強会を講義室 1 において座席指定で全 17 回行った（1/22～2/14）。内容は全教員日替わりで出席確認、必修問題の実施（月曜日～木曜日 25 問、金曜日 100 問）、勉強会時間内の教室見回り、質問対応をした。 第 107 回看護師国家試験は受験者 90 名（既卒 1 名を含む）が全員合格した（全国平均 91.0%）。第 104 回保健師国家試験は受験者 34 名（既卒 1 名を含む）が全員合格した（全国平均 81.6%）第 101 回助産師国家試験は受験者 6 名が全員合格した。成績不良な学生に対し、全教員が熱心に指導に取り組んだことが功を奏したと思われた。

	2. 改善すべき事項 　今年度は会場を殆ど本学とした。また成績不良な学生に対し、受講時の座席指定をしなかった。これらのことが学生の受験対策への動機づけとして有効ではなかった可能性もあるので再検討が必要である。
将来に向けた発展方策・課題	今年度まで８月中の対策イベントはなかったが、中だるみを防ぐため模試及び講座を各一回ずつ追加する。

委員会名	年報編集委員会
目的	看護学部・看護学研究科の年報編集・印刷に関わる事項を調整する。
構成員	鈴木久美（委員長）　津田泰宏　草野恵美子　大橋尚弘　杉山恵美子
活動計画	1．2016 年度年報の取り纏め・発行 2．2016 年度年報の HP 上での公開 3．2017 年度年報作成のための原稿依頼
活動概要	1．委員会の開催 4 回の委員会を開催した。 2．2016 年度年報の発行 1）年報表紙の見直しを行った。 2）2017 年 7 月 31 日に年報を発行した。 3）冊子は 30 部作成し関連部署に配布した。 4）看護学部教員へは HP 上で PDF を公開した。 3．2017 年度年報作成について 1）原稿の目次や執筆要領の見直しを行い、見本を呈示した。 2）2017 年度年報作成のための原稿を依頼した。 3）各センター・委員会・領域・部署及び各教員から原稿を集めた。
評価	1．効果が上がっている事項 年報の PDF を HP に掲載したことにより、本学看護学部及び看護学研究科の教育研究活動について公開することができた。 2．改善すべき事項 特になし。
将来に向けた発展方策・課題	2017 年度年報の発行 2018 年度年報作成の準備 2018 年度年報の印刷部数及び予算の見直し

委員会名	広報委員会
目的	大阪医科大学看護学部の広報活動のビジョンを示しながら、大阪医科大学入試広報部、本学部各種委員会と連携を図り、本学部の受験者を募集する。
構成員	吉田久美子（委員長）　川北敬美　佐野かおり　上山ゆりか　林文子 山埜ふみ恵
活動計画	1. オープンキャンパス企画・運営 2. 看護学部案内書の企画・作製 3. 進学ガイダンス出向の調整・実施 4. 看護学部案内書サブツールの企画・作製 5. 学校訪問の調整と実施
活動概要	1. 委員会の開催：定例会 3 回を開催した。 2. オープンキャンパス企画・運営 オープンキャンパス 3 回・入試相談会 1 回を企画運営した。学部説明、入試説明、模擬講義、体験実習、対策ゼミ、個別相談、奨学金ブース、在学生交流、学生プレゼン（1 年生：入試対策、2～4 年生：学生生活）、看護キャンパスツアー、今年から図書館・歴史探訪ツアーと附属病院ツアーを増やした。入試説明にて、来年度 2 科目入試の追加を公表した。 3. 看護学部案内書の企画・作製 本学では、高度なチーム医療、地域包括ケアシステムが学生から体験できること、カリキュラムマップを示し、これからの時代に求められる最新の看護が学べること、研究において産官学が連携し進める「たかつきモデル」に医看融合で取り組んでいること等の内容を企画、作製した。 4. 進学ガイダンス出向の調整・実施 各種進学相談会 56 会場に参加した。高等学校内相談会 13 施設、会場相談会 42 施設、教員出向 7 会場（内高等学校 1 校）以上に、10 名が出向しガイダンス及び講演を実施した。 5. 看護学部案内書サブツールの企画・作製 学生生活の紹介を主としたサブツールを作製した。 6. 学校訪問の調整・実施の計画 今年度は入試広報部職員が進学校に絞って訪問し、教員の訪問はなしとした。
評価	1. 効果が上がっている事項 オープンキャンパスと入試説明会の参加者が大幅に増加した。参加者が多かったのは、対策ゼミとキャンパスツアーや附属病院ツアーであった。学生プレゼンや学生交流は好評で、ボランティア学生の積極性や態度のよさが評価を受けた。 2. 改善すべき事項 学生プレゼンテーションや交流のみならず、体験実習等の企画から学生が参画し、運営できるとさらによいものができると考える。

将来に向けた発展方策・課題	学生からみた看護学部の魅力を伝えるため、看護学部の全学生がオープンキャンパスの企画運営に主体的に継続参加できるしくみづくりを行う。 本学の幅広く地域に根ざした医療人教育と研究活動を積極的に広報する。

４．大学院委員会

委員会名	大学院委員会
目的	本委員会は，看護学研究科の管理・運営を円滑に進めるために設けられ、大学院生の教育、研究、学位審査、学生生活に関する事柄、また、入学試験等に関する協議を行い、必要事項を審議事項、報告事項として教授会に提議する。
構成員	荒木孝治（委員長）　泊祐子　赤澤千春　鈴木久美　佐々木綾子
活動計画	1. 学位を授与する基準について議論を深める 2. 入試相談会の開催や HP の充実等による本研究科の広報活動を推進する 3. 教員と事務が一体となって大学院の運営力の強化する 4. 高度実践コースの分野を増設する
活動概要	1. 高度実践コースのがん看護分野の認可に向けた活動（1 月に認可される） 2. 2017 年度入試説明・個別相談会の実施（6 月、3 月） 3. 本研究科 HP の改訂作業（7 月～）と新 HP のアップ（3 月） 4. リーフレットに代わる本研究科の新パンフレットの作成（1 月） 5. 学院生との交流会の実施（6 月） 6. 高度実践コース発表会の実施（6 月） 7. 計画発表会（修士・博士）、中間発表会（博士）の実施（4 月、10 月、2 月） 8. 修士論文発表会、博士論文発表会の実施（2 月） 9. 2018 年度入学生に対する補習授業の実施（2 月、3 月） 10. 本研究科主催の FD の開催（内容は「ベイズ統計入門」）（12 月） 11. 前期課程の学生が後期課程に進学する場合の入学金免除規定の改良（1 月） 12. 科目等履修生が実習科目を履修する場合の実習費の策定（1 月） 13. 長期履修制度を博士後期課程においても運用可能とすることの決定（1 月） 14. 学生生活ガイドの改訂（11 月） 15. 主査・副査の決定方法の検討開始（3 月）
評価	1. 効果が上がっている事項 研究計画発表会や中間発表会等の回数を増やし、学生が優れた学位論文を作成するための環境を充実させつつあること 2. 改善すべき事項 学位を授与する基準を一層明確化する必要性があること
将来に向けた発展方策・課題	本研究科の学位論文の水準を上げるための継続的な議論の必要性 開学して 5 年目を迎えることからカリキュラム等の評価を行う必要性 口頭試問等のあり方の検討の必要性 社会のニーズを反映した新しい分野（高度実践コース等）の増設

5．看護学部教育活動

1）授業科目一覧

2017年度入学生（1年生）用

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件 単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●								↑ 20単位以上 ●必修科目13単位 ○選択科目7単位以上（社会理解から2単位以上含まれていること）
		生物学		講義	2	○								
		化学		講義	2	○								
		物理学		講義	1		○							
		くらしの中の倫理		講義	1		○							
		大阪を学ぶ		講義	1		○							
		哲学		講義	1		○							
		くらしと文学		講義	2	○								
		教育学		講義	2	○								
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○								
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○							
		人間関係論		講義	1	●								
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●								
		健康科学概論		講義	1	●								
		情報リテラシー		演習	1	●								
		データ処理演習	＊	演習	1				○					
		統計学		講義	2		●							
		日本国憲法と法律	＊	講義	2	○								
		くらしと社会・環境		講義	2	○								
		くらしと経済		講義	2	○								
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○								
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●								
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
		医療英語		演習	1					●				
		国際言語文化		講義	2	○								↓
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	―	◇								
基礎科目必修単位数					13	7	3	1	1	1	0	0	0	
専門基礎科目	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								↑ 28単位以上 ●必修科目25単位 ○選択科目3単位以上
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●							
		感染と免疫		講義	1	●								
		からだと栄養		講義	2		●							
		こころの仕組みと働き		講義	1		●							
		フィジカルイグザミネーション		演習	1			●						
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○						
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○						
	病気と治療	からだとくすりの働き		講義	2			●						
		病気の成り立ち		講義	2			●						
		病気の診断・治療Ⅰ		講義	2			●						
		病気の診断・治療Ⅱ		講義	2				●					
		食生活論		講義	1					○				

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	保健と医療	医学概論		講義	1		○							28単位以上 ●必修科目25単位 ○選択科目3単位以上
		医療人マインド		講義	1	●								
		専門職連携医療論		講義	1				●					
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
		医療倫理学		講義	1				●					
		リスクマネージメント		講義	1					●				
		異文化看護入門		演習	1					○				
専門基礎科目必修単位数					25	4	7	9	4	1	0	0	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 79単位以上 ●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2			●						
		看護管理		講義	1								●	
		看護教育		講義	1							●		
	療養生活支援	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	3						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	3						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年看護学実習Ⅰ		実習	2						●			
		老年看護学実習Ⅱ		実習	2						●			
	地域家族支援	母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		在宅看護学概論		講義	2			●						
		在宅看護学援助論		演習	1				●					

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	地域家族支援	在宅看護学援助方法		演習	1					●				79単位以上 ●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること） ↓
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●					
	看護実践発展科目	地域救命救急		講義	1					○				
		看護と生体診断法		演習	1							○		
		医療カウンセリング		演習	1							○		
		看護実践発展総合演習		演習	1							○		
		看護実践発展実習		実習	2							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学活動方法	◎	演習	1					○				
		公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1								◇	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	◎	実習	1							○		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4								◇	
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8								◇	
	統合	がん看護学総論		講義	1				●					
		家族看護学		講義	1					●				
		チーム医療論		講義	1					●				
		災害看護論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		看護実践と理論の統合		演習	3						●			
		看護研究法		講義	1							●		
		原著講読		演習	1							●		
		卒業演習		演習	3								●	
		統合看護学実習		実習	2								●	
専門科目必修単位数					74	2	8	16	10	8	21	8	1	
必修単位数合計					112	13	18	26	15	10	21	8	1	
履修登録できる単位数の上限					167	48		46		40		33		

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

2016･2015 年度入学生（2・3 年生）用

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件 単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127 単位以上
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●								↑ 19単位以上 ●必修科目12単位 ○選択科目7単位以上（社会理解から2単位以上含まれていること）
		生物学		講義	2	○								
		化学		講義	2	○								
		物理学		講義	1		○							
		くらしの中の倫理と法律		講義	1	○								
		大阪を学ぶ		講義	1		○							
		哲学		講義	1		○							
		くらしと文学		講義	2	○								
		教育学		講義	2	○								
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○								
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○							
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○						
		医学概論		講義	1		○							
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●								
		健康科学概論		講義	2	●								
		情報リテラシー		演習	1	●								
		データ処理演習	＊	演習	1				○					
		統計学		講義	2		●							
		日本国憲法	＊	講義	2	○								
		くらしと社会・環境		講義	2	○								
		くらしと経済		講義	2	○								
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○								
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●								
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
		国際言語文化		講義	2	○								↓
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	―	◇								
基礎科目必修単位数					12	7	3	1	1	0	0	0	0	
専門基礎科目	人間理解	人間関係論		講義	1	●								↑ 30単位以上 ●必修科目27単位 ○選択科目3単位以上
		からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								
		感染と免疫		講義	1	●								
		からだと栄養		講義	2		●							
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●							
		こころの仕組みと働き		講義	1		●							
		フィジカルエグザミネーション		演習	1		●							
		からだとくすりの働き		講義	2			●						
		病気の成り立ち		講義	2			●						
		病気の診断		講義	2			●						
		病気の治療		講義	2				●					
		食生活論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○						

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	社会理解	医療人マインド		演習	1	●								30単位以上
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		地域救命救急		講義	1					○				
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
		医療倫理学		講義	1					●				
		リスクマネージメント		講義	1					●				
	異文化理解	医療英語		演習	1					●				
		原著講読		演習	1							●		
		異文化看護入門		演習	1					○				
専門基礎科目必修単位数					27	5	8	8	2	3	0	1	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 78単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目6単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2			●						
		看護管理		講義	1								●	
		看護教育		講義	1							●		
	生活支援	老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年保健看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学実習		実習	2						●			
		母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
	療養支援	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	2						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	2						●			
		成人保健看護学実習		実習	1						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	地域支援	在宅看護学概論		講義	2			●						78単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目6単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること） ↓
		在宅看護学援助論		演習	1				●					
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●					
		公衆衛生看護学活動方法	◎	講義	1					○				
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		実習	1							●		
	看護実践発展科目	看護と生体診断法		演習	1							○		
		先端医療に伴う看護技術		演習	1							○		
		医療カウンセリング		演習	1							○		
		緩和ケアと代替・補完療法		演習	1							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1								◇	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4								◇	
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8								◇	
	統合	家族看護学		講義	2					●				
		チーム医療論		講義	1							●		
		看護実践と理論の統合		演習	2						●			
		看護研究法		講義	1							●		
		卒業演習		演習	3								●	
		災害看護論		講義	1					○				
		広域統合看護学実習		実習	2								●	
		看護実践発展実習		実習	2							○		
専門科目必修単位数					72	2	8	16	9	8	19	4	6	
必修単位数合計					111	14	19	25	12	11	19	5	6	
履修登録できる単位数の上限					166	50		42		39		35		

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

2014年度入学生（4年生）用

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●								↑ 19単位以上 ●必修科目12単位 ○選択科目7単位以上（社会理解から2単位以上含まれていること）
		生物学		講義	2	○								
		化学		講義	2	○								
		物理学		講義	1		○							
		くらしの中の倫理と法律		講義	1	○								
		大阪を学ぶ		講義	1		○							
		哲学		講義	1		○							
		くらしと文学		講義	2	○								
		教育学		講義	2			○						
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○								
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○							
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○						
		医学概論		講義	2		○							
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●								
		健康科学概論		講義	2	●								
		情報リテラシー		演習	1	●								
		データ処理演習	＊	演習	1				○					
		統計学		講義	2		●							
		日本国憲法	＊	講義	2	○								
		くらしと社会・環境		講義	2	○								
		くらしと経済		講義	2	○								
		くらしと安全・危機管理		講義	2			○						
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●								
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
		国際言語文化		講義	2	○								
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	―	◇								↓
基礎科目必修単位数					12	7	3	1	1	0	0	0	0	
専門基礎科目	人間理解	人間関係論		講義	1	●								↑ 29単位以上 ●必修科目26単位 ○選択科目3単位以上
		からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								
		感染と免疫		講義	1	●								
		からだと栄養		講義	2		●							
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●							
		こころの仕組みと働き		講義	1		●							
		フィジカルエグザミネーション		演習	1		●							
		からだとくすりの働き		講義	2			●						
		病気の成り立ち		講義	2			●						
		病気の診断		講義	2			●						
		病気の治療		講義	2				●					
		食生活論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○						

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	社会理解	保健医療福祉概論		講義	2		●							29単位以上
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		地域救命救急		講義	1					○				●必修科目26単位
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○				○選択科目3単位以上
		医療倫理学		講義	1					●				
		リスクマネージメント		講義	1					●				
	異文化理解	医療英語		演習	1					●				
		原著講読		演習	1							●		
専門基礎科目必修単位数					26	4	8	8	2	3	0	1	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 79単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目7単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2			●						
		看護管理		講義	1								●	
		看護教育		講義	1							●		
	生活支援	老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年保健看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学実習		実習	2						●			
		母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
	療養支援	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	2						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	2						●			
		成人保健看護学実習		実習	1						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	地域支援	在宅看護学概論		講義	2			●						79単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目7単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること） ↓
		在宅看護学援助論		演習	1				●					
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●					
		公衆衛生看護学活動方法	◎	講義	1					○				
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		実習	1							●		
	看護実践発展科目	看護と生体診断法		演習	1							○		
		先端医療に伴う看護技術		演習	1							○		
		医療カウンセリング		演習	1							○		
		緩和ケアと代替・補完療法		演習	1							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1							◇		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4							◇		
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8								◇	
	統合	家族看護学		講義	2					●				
		チーム医療論		講義	1							●		
		看護実践と理論の統合		演習	2						●			
		看護研究法		講義	1							●		
		卒業演習		演習	3								●	
		災害看護論		講義	1					○				
		異文化看護入門		演習	1					○				
		広域統合看護学実習		実習	2								●	
		看護実践発展実習		実習	2							○		
専門科目必修単位数					72	2	8	16	9	8	19	4	6	
必修単位数合計					110	13	19	25	12	11	19	5	6	
履修登録できる単位数の上限					168	50		44		39		35		

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

2）各領域の教育活動

領域名	基礎看護学
担当教員	道重文子、小林道太郎、川北敬美、土肥美子、原明子（海外出張中）、古川亜衣美
担当科目	くらしの中の倫理、哲学、キャリアマネジメント、国際言語文化、情報リテラシー、原著講読、看護学概論、日常生活援助技術、看護アセスメント、治療過程に伴う援助技術、看護管理、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、卒業演習、広域統合看護学実習
現状の説明	くらしの中の倫理、哲学では、基本的な事項を講義した。国際言語文化では、ドイツ語の入門と歴史・文化について論じた。原著講読では英語論文を読んだ。情報リテラシーは前半の大学で学ぶことに関する導入と PC 操作を担当した。 看護学概論では、看護の歴史、看護の基本概念である「人間」「環境」「健康」「看護」の関係性、看護活動の場、看護倫理等について教授した。 看護アセスメントでは、アキレス腱断裂にて経皮的アキレス腱縫合術を受けた事例を用いて NANDA-I の枠組みを使い看護過程の展開方法を教授した。 日常生活援助技術（1 年）及び治療過程に伴う援助技術（2 年）では、附属病院看護部の教育指導者（各演習 1 ～2 名の参加）の協力のもと演習を行った。 基礎看護学実習Ⅰでは、附属病院外来、中央診療部、検査部門、病棟において見学実習を行った。5 名の教員と TA1 名で指導を行った。 基礎看護学実習Ⅱでは、前半・後半に分かれ附属病院 6～7 病棟において実習（看護過程の展開）を行った。3 名の教員と TA1 名で指導を行った。 卒業演習では教員 1 名が 3～4 名の学生を担当し卒業論文を作成した。12 月の発表会では、作成したポスターを用いてプレゼンを行った。 広域統合看護学実習では、彩都友紘会病院及び東住吉森本病院の緩和ケア病棟にて、第二東和会病院では地域包括ケア及び回復期リハ病棟にて実習を行った。実習終了後に各病院の特徴を踏まえた事例を設定し OSCE を行った。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 くらしの中の倫理、哲学、国際言語文化では、関連事項への学生の関心を喚起することができた。原著講読では英語論文を読むための基礎ができた。 技術演習では、看護部の指導者の参加により学生の取り組みが熱心になった。 広域看護学実習終了後の OSCE により、学生自らの臨床技術の習得度について確認できていた（課題が明確になった）。 2. 改善すべき事項 基礎看護学実習Ⅱでは、アセスメント力や看護ケアの実践で個人差がみられた。アセスメントに対する指導を丁寧に行うことが必要である。
将来に向けた発展方策・課題	ユニフィケーション体制のもと教育指導者とともに学生の臨床技術の習得に尽力する。また、学生の臨床技術の習得度を評価するため、2 年生においても OSCE 導入を検討する。

領域名	急性期成人看護学
担当教員	赤澤千春、寺口佐與子、肥後雅子（8 月まで）
担当科目	成人看護学概論、急性期成人看護援助論、急性期成人看護学援助方法、急性期成人看護学実習、広域統合看護学実習、卒業演習、災害看護論
現状の説明	学生たちは 1 回生時に成人看護概論で成人看護一般の対象者と成人看護の特徴を学ぶ。急性期に関する内容は健康破綻をする対象、それに伴う心理的社会的特徴を学び、2 回生の急性期成人看護援助論で「生命の危機的状況にある対象」の身体的心理的社会的な看護問題とその介入について学ぶ。3 回生前期に急性期成人看護学援助方法で、これまでの既習の知識を活用し、事例をもとに急性期にある患者(手術を受ける患者)の看護計画を立案し、周術期に沿ってロールプレイ演習を行いながら、具体的な看護介入方法を学ぶ。後期に急性期看護学実習で実際手術を受ける患者を通して、生命の危機的状況にある対象についての看護計画を立案し、実行し、評価するために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。4 回生の統合実習では 1～3 回生までの知識と技術を統合させるために学生自身が実習計画を立て、救急看護について学んだ。興味のあるテーマについて卒業演習に取り組み、まとめて論文とし、発表まで実施できた。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 急性期領域の核となる「生命の危機的状況」にある対象について、講義、演習、実習と一貫した内容を教授することで、学生も急性期の特徴を理解しつつ急性期看護の対象、アセスメント、看護ケアを学んでいる。 2. 改善すべき事項 1、2 回生で「生命の危機的状況」ということが理解できなければ 3 回生以降の演習や実習での急性期の看護過程の展開は難しいと感じてしまい、やる気を出さなくなる可能性があるため、根気よく指導する必要がある。 演習の看護問題抽出を多角的にとらえることができるように、必要な基礎知識とその応用ができるように指導していく必要がある。 実習では「生命の危機的状況」を強調した指導や、患者入院期間の短縮に伴い、心理社会的側面からの看護問題の抽出や介入が困難な学生も見受けられ、早期から身体的心理的社会的側面を統合することを指導することが必要であった。
将来に向けた発展方策・課題	学生が主体的に目標設定でき、その目標に向かって取り組んでいけるように方向を示すことができるようにしたい。自ら考えるという姿勢を持つことが大事であるので、演習、実習ではできるだけ学生に「語らせる」ことを念頭に関わり、「考える」「考え続ける」ということを刺激することを意識した内容を取り入れることにする。

領域名	慢性期成人看護学領域
担当教員	田中克子、カルデナス暁東
担当科目	成人看護学概論、慢性期成人看護学援助論、慢性期成人看護学援助方法、慢性期成人看護学実習、成人保健看護学実習、広域統合看護学実習、卒業演習
現状の説明	「概論」では、援助論、援助方法、実習に連動できるようにライフステージ、健康レベルにおける身体、社会、精神的特徴が理解できるように授業を展開した。「援助論」では、病期の特徴と発症頻度を考慮して代表的な疾患事例を用いて、教科書の理解を中心にして、成人期の主な病気の成因・症状・治療と看護援助の関係が理解できるように工夫した。「援助方法」では、教員が作成した病気の進行に伴い健康レベルの変化のある事例展開と看護援助方法の演習資料を用い、講義、演習を行った。事例展開、技術演習に関して、考え方の基本を理解できるように各個人の事前学習を踏まえて、対象者の健康レベルに合わせて援助方法を考え、技術演習も実施し評価できるように、学生の創意工夫の視点を重視した。「領域実習」は代謝・内分泌系、消化器系、呼吸器疾患系、化学療法が主の 4 つの病棟で、原則として一人の受け持ち患者を担当し、様々な健康レベルの人とその家族に対する系統的な看護過程の展開を通じて、慢性期看護学の特質を考察できることを重視した実習を展開した。全員が単位を履修した。「広域統合実習」は、学生の各自の実習テーマに応じて、大阪医科大学附属病院、三島南病院、高槻赤十字病院（緩和ケア病棟)、徳洲会沖永良部島病院で行った。「卒業演習」は、教員が 2～4 名の学生を受け持ち、学生がテーマに応じて文献検索の論文を作成した。「成人保健看護学実習」は、地域に住む様々な健康レベルの人々とその家族に対する看護援助を学ぶことを目的に、外来部門やフィールドワークを中心に主体的に実習の展開を行った。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 独自に作成した臨地実習でよく体験することを前提とした事例の演習資料に基づき、学習課題、講義、実技演習、実習と体系化したことは学習を創意工夫し、深める上で効果があったと考える。 2. 改善すべき事項 「援助論」「援助方法」は、テーマと授業時間配分が十分とは言えないので、根拠を基に考えるという点において、学生の事前学習、事後学習は必須である。また、「実習」は、学生個々の学習の進度と学習の到達度に対応して指導を行うことも必要である。特に、体験を通じて学ぶことが多いので、受け持ち患者の選定や学習の個々の能力、指導体制に関して今後も工夫が必要と考える。倫理的課題に関しても理解を深めるようにカンファレンスを充実させていきたい。
将来に向けた発展方策・課題	毎回の授業を大事にして、関連知識・技術を統合的に活用して、病気をもつ人とその家族の看護援助について系統的に思考を深め、その特質を理解できるようにする。学生の体験を増やすような演習・実習展開方法の工夫が必要である。 事例の倫理的課題に関しても理解を深めるようにカンファレンスなどで積極的に取り上げていきたい。

領域名	老年看護学
担当教員	久保田正和、上山ゆりか、宇多雅
担当科目	老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学援助方法、老年保健看護学実習、老年看護学実習、広域統合看護学実習、卒業演習
現状の説明	老年看護学概論（2 回生前期・2 単位・講義）：老年期を健やかにその人らしく生きることを健康と生活の視点から支援する老年看護の基盤を講義した。 老年看護学援助論（2 回生後期・1 単位・演習）：老年期の基礎的な知識及び援助の根拠、看護過程の特徴について論じた。 老年看護学援助方法（3 回生前期・1 単位・演習）：実技演習に加え、事例を用いた看護過程の展開を教授し、個別学習・グループ学習によって理解を深めた。 老年保健看護学実習（3 回生後期・2 単位・実習）：通所介護、及び介護予防事業にて教員や臨地実習指導者の指導のもと安全に実習を進めることができた。85 名全員が単位を修得した。 老年看護学実習（3 回生後期・2 単位・実習）：介護老人保健施設において、受け持ち高齢者の看護展開をし、カンファレンスにて高齢者理解を深めた。教員及び臨地実習指導者の指導により安全に実施し、84 名（85 名中）が単位を修得した。 広域統合看護学実習（4 回生前期・2 単位・実習）：大阪医科大学三島南病院、介護老人保健施設、介護老人福祉施設で、学生が立案した実習計画のもと、主体的な実習を進めることができた。 卒業演習（4 回生通年・2 単位・演習）：学生の関心のあるテーマにそって計画的にすすめ、卒業論文を作成した。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 老年看護学実習では、教員 2 名が同じ実習施設を回る方法を取り入れた。その結果、個々の学生のフォローアップが行いやすく、個別性に応じた指導が行えた。老年保健看護学実習では、学内演習課題を充実させ、グループディスカッションによる学生間の学びが充足した。卒業演習、広域統合看護学実習では実習計画・研究計画の作成指導を行い、主体的な学習につながった。 2. 改善すべき事項 学習準備やコミュニケーション能力に課題のある学生が目立つ。また接遇や態度面において、自分の言動が相手にどのような影響を与えるか配慮ができない学生も少なくない。実習前の高齢者とのコミュニケーション演習を強化していく。老年保健看護学実習は複数施設で実習しており、各施設別特徴や情報・意見交換ができるように学内カンファレンスの時間を設け、学びの共有を図る必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	現在の学生は高齢者と触れ合う機会が少ない為、実習体制を見直し、2018 年度 2 回生からは、概論→1 単位の実習→援助論→援助方法→3 単位の実習に変更した。1 単位の実習を挟むことにより高齢者の理解を深めることが期待される。実習指導者と学生フォローアップ体制について検討し、効果的な実習への調整を図る。

領域名	小児看護学
担当教員	泊祐子、山﨑歩、曽我浩美
担当科目	小児看護学概論、小児看護学援助論、小児看護学援助方法、家族看護学、小児看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習（小児）、卒業演習
現状の説明	「小児看護学概論」では、小児看護学の対象となる子どもと家族の理解を主眼とし、子どもを体験としてわかるために院内保育室での見学を開学以来継続している。「小児看護学援助論」では、小児期に多くみられる症状の機序・観察と援助方法について解剖学的特徴や発達を考慮した講義を実践した。状況別看護では、視聴覚教材を用い健康障害をもつ子どもをイメージしやすい工夫を行いながら基本的な知識を教授した。「小児看護学援助方法」では、疾患別の援助方法について講義を行うとともに、学生が主体的に小児看護技術を学習できる演習方法を組み合わせて教授した。「家族看護学」では、家族のアセスメントの理解のために討論で理解を深めるためにグループワークで事例検討を行った。「看護実践と理論の統合」では、事例をもとに看護問題と支援方法を検討するとともに実践力の確認をした。また実習後のグループワークでは小児看護での学びを共有した。「小児看護学実習」では、本年度から 1 グループの学生数の軽減を目的に小児病棟と NICU 病棟の 2 ヵ所を使用した。病院での実習後に小中学校・特別支援学校での実習を行い、小児期に特有の健康障害がある子どもへの看護の実際と学校での健康管理の実際について学んだ。「広域統合看護学実習（小児）」では、高度医療施設、急性期医療施設、障害児医療施設の 3 施設で実習を行い、受け持ち児の看護の実践を通して小児看護の専門性を深めるとともに、小児と家族への支援とチーム医療の実際についての学びを深めた。実習後は、実習施設指導者を招いて担当事例の発表会を実施した。「卒業演習」では、8 人の学生が小児看護学での関心からテーマを絞り、テーマに応じた文献選択、分析、論文執筆、発表の研究プロセスを踏み各自が文献研究に取り組んだ。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 「広域統合実習」においては、多職種連携やチーム医療に視野を広げられるように、師長業務やチームリーダーへのシャドーイングを実施した。その結果、学生は連携やチーム内での情報共有の方法等の学びに言及できた。 2. 改善すべき事項 本年度から「小児看護学実習」においては、小児病棟と NICU 病棟の大きく異なる対象での実習となったので、学生の学習内容や効果の差異を評価する必要性と、効果的な記録方法など実習展開方法を詳細に評価して見直す必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	次年度より「広域統合実習」の内容を一部変更し、受け持ち患者を通して多職種連携や組織マネジメントの視点で学生の学びが深まるよう、実習内容の検討を行い実施予定である。実施後の学生の学びの評価を実施していく予定である。

領域名	母性看護学・助産学
担当教員	佐々木綾子、竹明美、西頭知子
担当科目	セクシュアリティと看護，リプロダクションと看護，母性看護学概論，母性看護学援助論，母性看護学援助方法，母性看護学実習，助産学概論，助産診断・技術学 I，助産診断・技術学 II，助産管理，助産学実習，看護実践と理論の統合，卒業演習，広域統合看護学実習
現状の説明	講義は、学生のこれまでの既履修科目を踏まえ、予習課題、授業、復習課題により知識習得できるよう展開した。更に学生の興味・関心を高め、自ら学び考えることのできる、参加型を重視した講義を行った。最新の国家試験出題傾向を分析し、教育に活用した。 演習科目では、実践的演習をめざし、オリジナルのアセスメントツール、実践的模擬事例、教員作成の母性看護技術 DVD 活用などにより基本的な看護実践能力の育成をめざした。また、助産診断・技術学Ⅱでは、臨床指導者による演習、シミュレーション教育を行った。 学生の前年度評価結果をオリエンテーション資料に反映させ、改善点を明確にした。講義・演習科目の評価方法としてルーブリック評価等を活用し、評価の「見える化」を行った。教員は簡易指導案を作成し教員間で共有した。 実習では、実習施設との連携、教育設備の充実、教材整備・教材開発、医学部・附属病院看護部との連携により、基本的な看護実践能力の育成を行った。3 月には次年度助産学実習選択学生（母性看護学実習で分娩見学できなかった学生 4 名中 3 名）の附属病院での分娩見学を行った。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 前年度の学生の授業評価を踏まえ、講義・演習内容の改善を行うことができた。学生による授業評価科目では、概ね良い評価が得られた。予習課題、授業、復習課題による教育は、学生の専門知識・技術の習得に効果があったと考える。また、新たにシミュレーション教育を取り入れるなど、臨床現場に即した実践的な演習は効果がみられた。 2. 改善すべき事項 再試験者がみられた科目があった。次年度も、小テストや練習問題、予習課題、反転授業、復習課題などで知識・技術習得を促すことができるよう教授方法を工夫する。多様な事例のシナリオを作成し、シミュレーション教育を推進する。 看護学実習事故報告については、実習オリエンテーションで具体的な事例を紹介し、学生の認識を高めるなど工夫したが、助産学実習 3 件、母性看護学実習 3 件発生した。要因を分析し、実習指導者とも共有し引き続き発生予防に努める。 助産学実習において 10 月まで実習期間延長した学生は 7 名中 2 名であった。実習受け入れ施設は 2018 年度減少するため、6 名程度の学生の受け入れ施設を確保するため、新規実習施設の開拓が喫緊の課題である。
将来に向けた発展方策・課題	PDCA サイクルと基本とする。母性看護学・助産学の科目間の連携を強め、効率的・効果的な授業展開方法を展開する。視覚支援教材などの積極的活用、学生の習得状況を丁寧に確認し、看護実践力を育成する。 各学生が、確実な知識・技術習得に加え、生涯学習力の基盤となる学士力を育成できるよう教育方法を検討する。

領域名	精神看護学領域
担当教員	荒木孝治、元村直靖、瓜﨑貴雄、岡本史彦（非常勤教員）
担当科目	人間関係論、精神看護学概論、精神看護学援助論、精神看護学援助方法、精神看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習、卒業演習、心理学、大阪を学ぶ、健康科学概論、医療倫理学、医療カウンセリング、リスクマネジメント
現状の説明	（荒木、瓜﨑）：精神看護学概論では精神看護の基本概念を、精神看護学援助論では精神疾患とその看護に関する基本的知識を、精神看護学援助方法では事例を用いて精神疾患患者への看護方法を教授した。卒業演習では、学生の関心に沿って「精神疾患患者への看護における患者理解の成り立ち」等、計 6 名の指導を行った。（荒木、瓜﨑、岡本）：精神看護学実習では本学附属病院精神神経科病棟または単科精神科病院である新阿武山病院にて、看護過程を展開し、基礎的実践能力を養った。広域統合看護学実習では、新阿武山病院のデイケア・作業療法室・訪問看護室と、大阪精神医療センター（開放病棟、閉鎖病棟、児童思春期病棟のいずれか）で看護管理や包括医療の視座を盛り込んで実習を展開した。（元村）：心理学（1 年生配当）では、主に正常な人間の心理の理解を深めるとともに、認知心理学、人間性心理学、臨床心理学など多彩な心理学の領域を広く教授し、本年は内容を吟味し、教授した結果、量的にも内容的にも丁度よい分量であった。なお、卒業演習は 4 年生配当であり、その主題は、「震災後の心のケア、音楽療法、社交不安障害と認知行動療法」など、臨床的な課題を扱うものが多かった。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 （荒木、瓜﨑）：講義では視聴覚教材を用い、外部講師による講義の機会を設けることによって、学生は精神疾患や精神科における看護の実際をよりイメージできた。演習ではグループワークを用いることによって、精神疾患患者への護に関する多様な視点を共有できた。（荒木、瓜﨑、岡本）：実習では受け持ち事例をより深く検討できるように、個別面談を行い、既習の精神看護学関連科目の学習内容と照らしつつ指導した結果、学生は患者に関心を向け続け、患者の生活歴や興味・関心を踏まえた看護の具体策を見出すことができた。（元村）：内容を十分検討した結果、量的にも十分となった。 2. 改善すべき事項 （荒木、瓜﨑）：演習ではグループワークでの学びが深まるように課題設定や運営方法について検討する必要がある。（荒木、瓜﨑、岡本）：広域統合看護学実習では特に、学生が学びたいこと（学習課題）を明確化できるように指導を工夫する必要がある。（元村）：学生さんの患者さんとの接し方について、なお対応すべきことがある。
将来に向けた発展方策・課題	（荒木、瓜﨑）：精神障がい者の地域生活を支えることについて、学生は実習の経験を通し、その課題の重要性に気づいていたが、更に具体的な援助方法を考えることができるように、授業内容や方法を工夫していく必要がある。（元村）：精神疾患患者が、様々な場所で共生していることを理解する。

領域名	在宅看護学領域
担当教員	真継和子、佐野かおり、大橋尚弘
担当科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論、在宅看護学援助方法、在宅看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習（在宅)、卒業演習、家族看護学、医療カウンセリング
現状の説明	「在宅看護学概論」では、在宅看護の特徴と支援を必要とする人びとの理解、社会資源の理解を主とした内容について、実践場面の紹介、視聴覚教材を用い展開した。「在宅看護学援助論」では、既習学習を確認しながら応用へと結びつけるとともに、生活支援、在宅人工呼吸療法、呼吸理学療法に関する演習内容を増やし、事例も活用しながら在宅という場の特徴を踏まえた基本的な実践力の育成をめざした。「在宅看護学援助方法」では、講義及びグループワーク、事例（3 事例)、ロールプレイングを用いて実践的な展開を試み、更にアセスメント力を深めるため個別指導を強化した。また、業者の協力を得、在宅人工呼吸器、在宅酸素療法などの体験学習を取り入れた。「看護実践と理論の統合」では、実習前のロールプレイングによる技術確認と事例を用いた社会資源の理解を深めた。実習後は、グループワークにより学びの共有を行った。「在宅看護学実習」では、実習記録の見直しも行い、アセスメント力、体験の振り返りからの思考力、実践力の強化をめざした実習展開とした。「広域統合看護学実習（在宅)」は 10 名が選択し、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、病院など学生の関心テーマに沿った場所での実習を行った。また、うち 2 名は高知県本山町での地域医療実習に参加し、医学生や薬学生とともに多職種協働について理解を深めた。「卒業演習」は 7 名の学生が選択し、学生の関心に沿ってテーマを決め、面接調査、事例研究、文献レビューを行い、論文としてまとめ学内発表を行った。
点検評価	1. 効果が上がっている事項：視聴覚教材の活用や人工呼吸器などの体験学習は学生の興味・関心を高め、主体的な学習の促進につながっている。アセスメント力の強化により対象理解が深まった。地域医療実習では看護の独自性や多職種協働のあり方への理解を深め、論理的に意見を述べることの必要性に気づけている。こうした体験が卒業演習を進めるうえで他学生に影響を与え、自ら課題意識をもち主体的に学ぶ姿勢につながっていた。 2. 改善すべき事項：アセスメント力が強化されたものの実践への活用が不十分である。アセスメントの統合と個別的な看護計画の立案、実践へと結びつけることが課題である。また、実習では実習施設により実習終了時間の違いがあり学生への負担が生じており、実習方法を検討していく。制度や社会資源の理解については依然課題が残っている。
将来に向けた発展方策・課題	次年度より、制度や社会資源の理解が深まるよう講義時間数の増枠と課題探索型の教育方法等を検討している。また、「在宅看護学援助方法」での事例展開に活用する時間の見直しと内容の精選を行い、アセスメントから個別の健康課題を抽出し、計画につなげ、実習に活用できるよう内容及び教授方法を検討していく。

領域名	公衆衛生看護学
担当教員	吉田久美子、土手友太郎、草野恵美子、仲下祐美子、山埜ふみ恵、福岡美佐子（非常勤）
担当科目	必修：保健福祉医療概論、統計学、公衆衛生学・疫学、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、卒業演習 選択科目：くらしと社会・環境、・公衆衛生看護学活動方法、公衆衛生看護学管理論、ヘルスプロモーション論、公衆衛生看護学演習、公衆衛生看護学実習Ⅱ
現状の説明	「公衆衛生看護学概論」では公衆衛生看護活動をイメージできるよう実践場面の紹介や視聴覚教材を用いて展開した。また、レスポンスペーパーを用いて、学生の疑問に速やかに回答した。「公衆衛生看護学活動論」では個別・集団・地域を対象とした活動に必要な知識・技術について、実践例や演習を取り入れた授業を展開した。「公衆衛生看護学活動方法」では、集団を対象とした健康教育の計画立案、実施、評価を行い、学生の実践能力の向上を目指した。「公衆衛生看護学管理論」では、高槻市の地域診断の演習を行い、公衆衛生看護活動における PDCA サイクルの理解を深めた。「ヘルスプロモーション論」ではグループで保健計画作成を行い、ヘルスプロモーションの理解を深めた。「公衆衛生看護学演習」では家庭訪問と健康相談のロールプレイで実践力の確認をし、実習地の地域診断を行うことで「公衆衛生看護学実習Ⅱ」に向けた自己及びグループの課題を明確にした。「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の履修者は 33 名であり、7 グループに分かれて、実習を行った。実習地は大阪府下 3 ヵ所と遠隔地 4 ヵ所で、実習指導者と連携して公衆衛生看護活動の意義が理解できるよう調整した。保健事業への参加や家庭訪問、健康教育等の実習を展開する中で、住民の生活の営みと保健師の支援について体験的に学び、実践力を高めた。「公衆衛生看護学実習Ⅰ」は 90 名が履修し、検疫所や健康安全基盤研究所と事業場にて、感染症対策及び健康危機管理と労働衛生、労働者の健康支援を学んだ。「卒業演習」は 16 名が選択し、学生が興味のあるテーマに取り組み、研究課題に沿って論文作成を行った。
点検評価	1. 効果が上がっている事項：地域診断は、地域特性を把握し、地区踏査や住民へのインタビュー、保健事業への参加や関係機関との連絡会議等への出席、住民や実習指導者からは助言を得て、健康課題の抽出と保健活動計画を立案し、実習指導者から良い評価であった。また、実習中に体験できる保健事業には積極的に参加することで、様々な年代と健康レベルの方々を対象とする看護活動の展開や健康づくりに理解を深めることができた。 2. 改善すべき事項：実習指導者と実習前後の連絡を密にすることで実習内容の厳選と到達目標の共有をはかる。宿泊を伴う実習地があるため、事前に学生の健康状況を確認し、安全に実習ができるよう工夫し、実習指導を行う。
将来に向けた発展方策・課題	保健師養成に係る選択科目について科目間を連動させた授業展開が必要である。また、実習は、臨地での体験や学びに基づいて学生の思考が深める指導が今後も必要である。

領域名	看護実践発展領域
担当教員	鈴木久美、津田泰宏、府川晃子
担当科目	健康科学概論、病気の診断、病気の治療、看護研究法、看護教育、チーム医療論、看護と生体診断法、先端医療に伴う看護技術、緩和ケアと代替・補完療法、広域統合看護学実習、看護実践発展実習、卒業演習
現状の説明	「健康科学概論」は、健康及び健康を守り、作るための生き方について、ライフスタイル、生き方の選択、健康リスク、社会と環境の 4 つの視点から授業を行った。授業展開として前半に知識確認のための講義、後半にグループ学習を行い、健康マップの作成を行った。「病気の診断」、「病気の治療」では、臨床医学の全範囲を網羅した講義を行い、授業中に配布資料に書き込みを入れたり、クリッカーを導入したりして受け身の授業にならないような工夫を取り入れた。「看護研究法」は、研究方法、研究倫理、文献検索、研究計画書等の講義と演習を取り入れて行った。「看護教育」は、カリキュラムの変遷と課題、キャリア発展・生涯学習について学習を進めた。また、能動的学習原理について課題発見問題解決型である IBL を通して展開した。「チーム医療論」、「看護と生体診断法」、「緩和ケアと代替・補完療法」は、講義及びグループワーク、事例、IBL を用いた演習で展開し、グループ発表は学生主体の運営で行った。「先端医療に伴う看護技術」では、IBL の演習と連動させた看護技術の演習を取り入れた。「看護実践発展実習」は 51 名の学生が選択し、重症度やケア度の高い患者を受け持ち、アセンスメント力や実践力を強化する実習を行った。「広域統合看護学実習」は、11 名の学生を受け入れ、学生の関心領域で実習を行った。「卒業演習」は、10 名の学生を受け入れ、学生の関心に沿ったテーマの研究に取り組み、論文提出後は成果発表会を開催した。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 全般的にグループ学習を用いた授業は学生の主体的な学びを推進できたと考える。事例や IBL を活用した授業では学生が役割をもってグループ学習を活性化し、課題発見と解決に向けた自己学習の促進に繋がっていた。「看護実践発展実習」では、教育センター開催の自己学習プログラムに多くの学生が参加し、看護技術を練習する取り組みがみられた。学生は、以前の実習では十分できなかった体験を通じて自己の課題を改めて意識し、患者・家族や他職種との関わりの中で視野を広げ、看護実践力を高めることができていた。「広域統合看護学実習」及び「卒業演習」は、学生の関心を尊重し、学生自らが目標を立て主体的に取り組めていた。 2. 改善すべき事項 「病気の診断」、「病気の治療」では、今年度もオムニバス形式のため統一した授業プリントの簡略化はできなかった。範囲が広いため、知識の整理目的で試験前に要点を容易に把握できるような授業を 1 コマ配置した。昨年度よりはアクティブラーニングを取り入れる方向にしたが、今後も更に工夫を加えていきたい。
将来に向けた発展方策・課題	講義科目は、オムニバスでの展開が多いため、担当教員との連携を密にし、学生が学習目標を達成できるようにすることが望まれる。今後もより一層アクティブラーニングを積極的に取り入れた授業展開となるよう努めていく。

６．大学院教育活動

1）授業科目一覧

（1）博士前期課程教育研究コース　（注）※：選択科目　※＊：選択必修科目　（隔）：隔年開講

区分	科目（○数字は単位数）	配当年次	単位取得要件
共通科目	※国際保健①	1~2 前(隔)	以下の①～④を満たし 34 単位以上
	※医療科学①	1~2 前(隔)	
共通専門科目Ａ	看護倫理②	1 後	①共通専門科目Ａ「看護倫理」「看護教育学」「看護学研究方法論」「看護理論」の 4 科目 8 単位
	看護教育学②	1 前	
	看護学研究方法論②	1 前	
	※看護現任教育論②	1~2 前（隔）	
	看護理論②	1 前	
	※＊看護教育課程論②	1 後	②共通専門科目Ａ「看護学教育課程論」または「看護管理学」のいずれか 1 科目 2 単位
	※＊看護管理学②	1 後	
共通専門科目Ｂ	※フィジカルアセスメント論②	1 前	③自領域専門科目から必修科目及び選択科目 4 科目 8 単位以上、全領域専門科目から 3 科目 6 単位以上
	※臨床薬理学②	1 後	
	※病態生理学②	1 前	
療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論②	1 前	④「特別研究」1 科目 8 単位
	※看護技術開発学特論Ⅰ②	1 前	
	※看護技術開発学特論Ⅱ②	1 前	
	※看護技術開発学演習Ⅰ②	1 通年	
	※看護技術開発学演習Ⅱ②	1 後~2 前	
	※移植・再生医療看護学特論Ⅰ②	1 前	
	※移植・再生医療看護学特論Ⅱ②	1 後	
	※移植・再生医療看護学演習②	1 後~2 前	
	※がん看護学特論Ⅰ②	1 前	
	※がん看護学特論Ⅱ②	1 後	
	※がん看護学演習②	1 後~2 前	
	※慢性看護学特論Ⅰ②	1 前	
	※慢性看護学特論Ⅱ②	1 前	
	※慢性看護援助論Ⅰ②	1 前	
	※慢性看護援助論Ⅱ②	1 後	
	※慢性看護学演習Ⅰ②	1 後	
	※慢性看護学演習Ⅱ②	2 前	

	※精神看護学特論Ⅰ②	1前	
	※精神看護学特論Ⅱ②	1後	
	※精神看護アセスメント論②	1前	
	※精神看護援助論Ⅰ②	1前	
	※精神看護援助論Ⅱ②	1後	
	※精神看護学演習Ⅰ②	1後	
	※精神看護学演習Ⅱ②	2前	

（2）博士前期課程高度実践コース　　（注）※：選択科目　　※＊：選択必修科目（隔）：隔年開講

区分	科目（○数字は単位数）	配当年次	単位取得要件
共通科目	※国際保健①	1~2(隔)	以下の①～④の全て、⑤～⑧のいずれか、及び⑨を満たし 42 単位以上
	※医療科学①	1~2(隔)	
共通専門科目Ａ	看護倫理②	1 後	①共通専門科目Ａ「看護倫理」「看護学研究方法論」「看護理論」の 3 科目 6 単位
	※看護教育学②	1 前	
	看護学研究方法論②	1 前	
	※＊看護現任教育論②	1~2(隔)	
	看護理論②	1 前	
	※看護教育課程論②	1 後	②共通専門科目Ａ「看護現任教育論」または「看護管理学」のいずれか 1 科目 2 単位
	※＊看護管理学②	1 後	
共通専門科目Ｂ	フィジカルアセスメント論②	1 前	③共通専門科目Ｂ「フィジカルアセスメント論」「臨床薬理学」「病態生理学」の 3 科目 6 単位
	臨床薬理学②	1 後	
	病態生理学②	1 前	
療養生活支援看護学	慢性看護学特論Ⅰ②	1 前	④①～③を含む 14 単位以上 ⑤療養生活支援看護学領域選択者のうち慢性看護専門看護師を希望する者は、「慢性看護学特論Ⅰ」「慢性看護学特論Ⅱ」「慢性看護アセスメント論」「慢性看護援助論Ⅰ」「慢性看護援助論Ⅱ」「慢性看護学演習Ⅰ」「慢性看護学演習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅰ」「慢性看護学実習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅲ」の 10 科目 24 単位
	慢性看護学特論Ⅱ②	1 前	
	慢性看護アセスメント論②	1 後	
	慢性看護援助論Ⅰ②	1 前	
	慢性看護援助論Ⅱ②	1 後	
	慢性看護学演習Ⅰ②	1 後	
	慢性看護学演習Ⅱ②	2 前	
	慢性看護学実習Ⅰ②	1 後	
	慢性看護学実習Ⅱ④	2 通年	
	慢性看護学実習Ⅲ④	2 通年	
	精神看護学特論Ⅰ②	1 前	⑥療養生活支援看護学領域選択者のうち精神看護専門看護師を希望する者は、「精神看護学特論Ⅰ」「精神看護学特論Ⅱ」「精神看護アセスメント論」「精神看護援助論Ⅰ」「精神看護援助論Ⅱ」「精神看護学演習Ⅰ」「精神看護学演習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅰ」「精神看護学実習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅲ」の 10 科目 24 単位
	精神看護学特論Ⅱ②	1 後	
	精神看護アセスメント論②	1 前	
	精神看護援助論Ⅰ②	1 前	
	精神看護援助論Ⅱ②	1 後	
	精神看護学演習Ⅰ②	1 後	
	精神看護学演習Ⅱ②	2 前	
	精神看護学実習Ⅰ②	1 後	
	精神看護学実習Ⅱ⑥	2 前	
	精神看護学実習Ⅲ②	2 通年	

			⑦地域家族支援看護学領域選択者のうち母性看護専門看護師を希望する者は、「家族看護学特論」「周産期看護論」「母性看護学特論」「ウィメンズヘルス看護論」「周産期看護援助論Ⅰ」「周産期看護援助論Ⅱ」「周産期看護演習Ⅰ」「周産期看護演習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅰ」「周産期看護実習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅲ」の 11 科目 26 単位 ⑧地域家族支援看護学領域選択者のうち小児看護専門看護師を希望する者は、「家族看護学特論」「小児看護学特論」「小児と病気」「周産期看護論」「発達障害看護論」「小児看護アセスメント論」「地域母子保健論」「小児看護学演習」「小児看護学実習Ⅰ」「小児看護学実習Ⅱ」「小児看護学実習Ⅲ」の 11 科目 26 単位 ⑨「課題研究」1 科目 4 単位

領域	科目（○数字は単位数）	配当年次	単位取得要件
地域家族支援看護学	家族看護学特論②	1 前	
	周産期看護論②	1 前	
	母性看護学特論②	1 前	
	ウィメンズヘルス看護論②	1 前	
	周産期看護援助論Ⅰ②	1 前	
	周産期看護援助論Ⅱ②	1 後	
	周産期看護演習Ⅰ②	1 後~2 前	
	周産期看護演習Ⅱ②	1 後~2 前	
	周産期看護実習Ⅰ②	1 後	
	周産期看護実習Ⅱ④	2 前	
	周産期看護実習Ⅲ④	2 通年	
	小児看護学特論②	1 前	
	小児と病気②	1 後	
	発達障害看護論②	1~2(隔)	
	小児看護アセスメント論②	1 後	
	小児看護学演習②	1 後~2 前	
	小児看護学実習Ⅰ②	1 後~2 前	
	小児看護学実習Ⅱ⑥	1 後~2 前	
	小児看護学実習Ⅲ②	2 通年	
	地域母子保健論②	1~2(隔)	
特別研究	課題研究④	1 後~2 後	

(3) 博士後期課程　　(注) ※：選択科目　　※＊：選択必修科目　(隔)：隔年開講)

<table>
<tr><th colspan="2">区分</th><th>科目（○数字は単位数）</th><th>配当年次</th><th>単位取得要件</th></tr>
<tr><td colspan="2">基盤科目</td><td>看護科学研究論②
※看護学研究法応用論（保健統計）①
※看護学研究法応用論（実験法）①
看護学教育開発論②
※看護学教育演習①
英語論文演習①
※異文化看護論①</td><td>1 前
1 後
1~2 後（隔）
1 前
1~2 後
2 前
1~2 前（隔）</td><td rowspan="4">以下①～④をすべて満たし、合計 17 単位以上

① 基盤科目「看護科学研究論」「看護学教育開発論」「英語論文演習」の 3 科目 5 単位

② 基盤科目「看護学研究法応用論（保健統計）」「看護学研究法応用論(実験法)」「看護学教育演習」「異文化看護論」の中から 1 科目 1 単位以上

③ 専門科目「療養生活支援看護学特論」「療養生活支援看護学演習」または「地域家族支援看護学特論」「地域家族支援看護学演習」の 2 科目 3 単位

④ 「特別研究」1 科目 8 単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門科目</td><td>療養生活支援看護学</td><td>※療養生活支援看護学特論②
※療養生活支援看護学演習①</td><td>1 後
2 通</td></tr>
<tr><td>地域家族支援看護学</td><td>※地域家族支援看護学特論②
※地域家族支援看護学演習①</td><td>1 後
2 通</td></tr>
<tr><td colspan="2">特別研究</td><td>特別研究⑧</td><td>1~3 通</td></tr>
</table>

2）博士課程修了者学位論文タイトル一覧

（1）博士後期課程

氏　名	専攻分野	学位論文タイトル
寺口　佐與子	移植・再生医療看護学	乳がん術後の患者の体重変化の影響要因とリンパ浮腫発症との関連に関する研究
松尾　潤子	移植・再生医療看護学	ラオス人民民主共和国の中核病院における看護実践の変化―アクションリサーチを用いて―
川端　智子	小児看護学	青少年の喫煙防止教育プログラム開発のための喫煙関連要因の明確化に関する研究
小笠　美春	がん看護学	胃切除後がん患者の食生活自己管理スキル尺度の開発
小山　富美子	がん看護学	進行肺がん高齢患者の抗がん治療における意思決定を支える援助モデルに関する研究
府川　晃子	がん看護学	分子標的薬を内服する肺がん高齢患者の QOL を保つための自己管理支援プログラムの開発に関する研究
但馬　まり子	母性看護学	高年初産婦の産後 3 日目から 2 週間健診までの睡眠状況と疲労感の実態―35 歳未満の初産婦との比較―
岡田　摩理	小児看護学	小児看護学実習において学生が臨床判断の思考を深めていくプロセス

（2）博士前期課程

氏　名	コース 専攻分野	学位論文タイトル
四方　文子	教育研究コース がん看護学	若年乳がん患者の術後内分泌療法中の療養生活体験
土井　恵子	教育研究コース 小児看護学	看護師の重症児に対する臨床判断とケアの専門性
福嶌　松代	教育研究コース 地域看護学	就学移行期の医療依存度の高い重症心身障害児に母親が行う体調管理のプロセス
西　千秋	教育研究コース 看護技術開発学	2 年目看護師の臨床看護教育体制の現状分析による支援方法の検討
今井　理香	教育研究コース 移植・再生医療看護学	壮年期に造血幹細胞移植を受けた患者の退院後の生活の現状調査
岡本　史彦	教育研究コース 精神看護学	大学病院で精神科病棟に配置転換となった看護師の気づきの積み重なりと在りようの変化に関する一考察
近澤　幸	教育研究コース 母性看護学	家庭で行われる新生児期及び乳児期の沐浴・入浴についての初産婦・経産婦の困りごとに関する調査研究
田中　育美	教育研究コース 小児看護学	先天性食道閉鎖症根治術後の子供をもつ母親が食事に関して抱える困難と対処

（学位記番号順）

Ⅴ．　研究活動

1. 研究実績

1）外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況

平成 29 年度　看護学部の競争的研究資金等の採択状況

研究活動			新規採択件数	継続件数	合計金額(円)
科学研究費助成事業	基盤研究（B）	代表	0	0	0
		分担	2	2	600,000
	基盤研究（C）	代表	5	6	11,700,000
		分担	2	7	650,000
	挑戦的萌芽研究	代表	0	1	900,000
		分担	0	0	0
	若手研究（B）	代表	3	2	5,100,000
	研究活動スタート支援	代表	1	1	1,900,000
厚生労働科学研究費補助金		代表	0	0	0
		分担	1	0	600,000
省庁・独立行政法人等の競争的資金（科研費を除く）		代表	0	0	0
		分担	0	0	0
財団等による研究助成			1	0	300,000
企業等による共同研究、研究助成			1	0	0
総　合　計					21,750,000

平成 29 年度科学研究費助成事業交付一覧

（研究代表者）

研究種目	氏　　名	研　究　課　題　名	交付額(円)
基盤研究(C)	草野 恵美子	高齢者世代が参画する地域のつながりを重視した効果的な子育て支援プログラムの開発	1,400,000
基盤研究(C)	小林 道太郎	看護の組織倫理に関する理論的・実証的研究	800,000
基盤研究(C)	鈴木 久美	再発乳がん患者のがんとともに生きる力を支える心理社会的看護介入プログラムの開発	900,000
基盤研究(C)	佐々木 綾子	3 次元分娩アニメーションによる安全な分娩のためのコミュニケーション支援ツール開発	500,000
基盤研究(C)	道重 文子	口腔ケアに関する看護技術教育プログラムの開発	1,800,000
基盤研究(C)	川北 敬美	交代制勤務が困難な短時間勤務者の活用プログラムの開発	800,000
基盤研究(C)	津田 泰宏	デジタルコンテンツを利用した新たな C 型肝炎患者の掘り起こしの試み	500,000
基盤研究(C)	土肥 美子	看護系大学に所属する若手教員の能力形成･向上に資する教育支援の検討	500,000
基盤研究(C)	カルデナス 暁東	SLE 女性患者の BF の獲得を促進するアピアランスケアプログラムの構築	1,200,000
基盤研究(C)	久保田 正和	fNIRS を用いた認知症看護ケアの検証と適切な認知リハビリテーションの探索	1,800,000
基盤研究(C)	荒木 孝治	精神科病院における統合失調症患者のターミナルケアの推進に向けた方略の開発	1,500,000
挑戦的萌芽研究	赤澤　千春	高齢で繊維化している下肢リンパ浮腫を改善するために効果的な圧迫療法の開発	900,000
若手研究(B)	肥後 雅子	意識障害者の意図的な感情表出の解明:表情分析を用いた基礎的研究	700,000
若手研究(B)	林 文子	妊娠糖尿病の発症予防を目的とした妊婦の身体活動支援プログラムの構築	2,200,000
若手研究(B)	府川 晃子	分子標的薬を内服する高齢肺がん患者のアドヒアランスを高める看護プログラムの開発	500,000
若手研究(B)	上山 ゆりか	介護老人保健施設での看取り援助の質向上を目指す教育プログラム開発	1,200,000
若手研究(B)	佐野 かおり	高齢人工股関節術後患者の転倒予防支援プログラムの開発	500,000
研究活動スタート支援	大橋 尚弘	腎移植ドナー、レシピエントへの長期支援プログラム開発に向けた予備調査	1,000,000
研究活動スタート支援	山﨑 歩	小児期発症１型糖尿病患者の性差を踏まえた思春期･青年期支援プログラムの開発	900,000

（研究分担者）

研究種目	氏　　名	研　究　課　題　名	交付額(円)
基盤研究(B)	草野 恵美子	地域と個の「強み」を活かす公衆衛生看護技術の統合と教授法の開発	100,000
基盤研究(B)	小林 道太郎	医療現象学の新たな構築	300,000
基盤研究(B)	鈴木 久美	ＡＹＡ世代にある小児がんサバイバーの移行期ケアを支える看護者育成	100,000
基盤研究(B)	佐野 かおり	医療・看護情報を共有化する『THA ケアネットポータル』の構築と質評価	100,000
基盤研究(C)	真継 和子	臨床看護師の批判的リフレクションスキルを強化する ICT 教育プログラムの開発と評価	100,000
基盤研究(C)	草野 恵美子	地区組織のコミュニティ・エンパワメントモデルの適用とハンドブックの作成	50,000
基盤研究(C)	泊 祐子	在宅重症心身障害児の社会化を図る親教育支援プログラムの開発	30,000
基盤研究(C)	真継 和子	在宅重症心身障害児の社会化を図る親教育支援プログラムの開発	30,000
基盤研究(C)	泊 祐子	家族も共有できる在宅重症心身障害児における体調アセスメントツールの開発および評価	100,000
基盤研究(C)	土肥 美子	教育指導者育成に向けたバウンダリーレスな臨床学習環境デザイン支援プログラムの開発	40,000
基盤研究(C)	鈴木 久美	成人外来がん患者へのがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの開発	100,000
基盤研究(C)	鈴木 久美	咽頭全適術を受けるがん患者とパートナーの首尾一貫感覚を高める看護実践モデルの開発	100,000
基盤研究(C)	久保田 正和	高齢者入所施設における効果的な排尿誘導プログラムの開発と有用性の検証	100,000

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額(円)
厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業	津田 泰宏	職種の違いを考慮した医療従事者養成課程における B 型肝炎に関する教育資材の開発	600,000

平成 29 年度省庁・独立行政法人等の競争的資金一覧（科研費を除く）

事業名	研究分担者	研究課題名	助成金額(円)
該当なし			

平成 29 年度財団等による研究助成一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	助成金額(円)
公益財団法人　在宅医療助成　勇美記念財団	真継　和子	「看取り」での経験を語る会	300,000

平成 29 年度企業等による共同研究、研究助成一覧

機関名	研究代表者	研究課題名	研究費(円)
中国山西省人民病院	カルデナス 暁東	『糖尿病患者のファミリーパートナーシップ』看護援助システムの構築	0

2）各自の業績（外部資金獲得除く）

研究活動/【著書】

佐々木綾子	横尾京子，常盤洋子，岡永真由美，井村真澄，佐々木綾子他（2017）．助産師基礎教育新テキスト 第 6 巻， 横尾京子(編)，99-120，日本看護協会出版会，東京． 定方美恵子，関島香代子，佐々木綾子他（2017）．ナーシンググラフィカ母性看護学②母性看護技術，横尾京子他（編），2 章 1.2，6，8～10，13～16 節，メディカ出版，大阪．
鈴木久美	鈴木久美（2017）．診断時のケア，回復期のケア　転移再発の不安への心理的サポート，阿部恭子，矢形寛編，乳がん患者ケアパーフェクトブック，201-205，241-244，学研メディカル秀潤社，東京． 鈴木久美（2017）． 事例 25 早期乳がんと診断されたが身近な人の乳がん体験と重ね合わせて脅威を覚えた B さんの危機，事例 26 乳がんの転移により病状が急激に悪化した C さんの危機，小島操子，佐藤禮子編，危機状況にある患者・家族の危機の分析と看護介入-事例集，184-191，192-198，金芳堂，東京． 鈴木久美（2018）．性・生殖機能障害のある成人への援助，林直子，佐藤まゆみ編，成人看護学，265-284，放送大学教育振興会，東京．
元村直靖	元村直靖（2017）．認知行動療法，日本保健医療行動科学雑誌， 第 31 巻別冊
久保田正和	池田勝彦，梶本宜永，門田和紀，久保田正和（15 人中 6 番目）（2018）．医工薬連環科学が果たす役割と可能性　高槻家の成長に寄り添う医療，関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学　医工薬連環科学教育研究機構編，102-103，111-117， 125-127， ライフサイエンス出版，東京．
小林道太郎	小林道太郎 （2017）． 第 8 章 日本の ES 細胞研究ガイドラインと人の尊厳， 加藤泰史編， 尊厳概念のダイナミズム：哲学・応用倫理学論集，230-246， 法政大学出版局，東京．
竹明美	平田修司，竹明美（2018）．8．母子感染症，助産師基礎教育新テキスト 2018 年度版　第 7 巻，遠藤俊子(編)，118-128，日本看護協会出版会． 定方美恵子，関島香代子，竹明美，他（2018）．2 章 5，12 節，ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護技術，横尾京子他（編），69-72，95-97，メディカ出版，大阪．
府川晃子	府川晃子．看護学テキスト NiCE　成人看護学慢性期看護（改定第 3 版）（鈴木久美他（編））．第Ⅲ章　2-A「セルフマネジメントの方法」，第Ⅴ章　6「全身性エリテマトーデス」血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助　全身性エリテマトーデス．南江堂，in press
上山ゆりか	池田勝彦，梶本宜永，門田和紀，上山ゆりか（15 人中 4 番目）（2018）．医工薬連環科学が果たす役割と可能性　高槻家の成長に寄り添う医療,関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学　医工薬連環科学教育研究機構編，128-132， ライフサイエンス出版，東京．

宇多雅	宇多雅, 任和子 （2017）. プチナース，病期・発達段階の視点でみる 疾患別看護過程 甲状腺機能亢進症(バセドウ病)，照林社，26（5），1-20. 宇多雅, 任和子 （2018）. プチナース， 別冊 疾患別関連図 BOOK 甲状腺機能亢進症（バセドウ病），照林社， 27 （4） 別冊，48-49.

研究活動/【論文】

赤澤千春	寺口佐與子，赤澤千春（2017）．乳がん術後リンパ浮腫患者の体重増減に影響する日常生活の特徴，ヒューマンケア研究学会誌，9(1)，47-52. 松尾潤子，赤澤千春（2017）．ラオス人民民主共和国の中核病院における看護実践の変化―アクションリサーチを用いて―，日本看護科学学会誌，37，344-352. 赤澤千春，森本喜代美，中嶋文子，浜崎美子（2018）．中堅看護師に課題探索型学習法(IBL; inquiry based learning)を用いた研修を試行して―硬くなった思考を揺さぶる―，大阪医科大学看護研究雑誌，8，24-29. 江川隆子，小平京子，奥津文子，赤澤千春，他 7 名（2018）．超高齢社会の医療を担う看護師・看護学生の「看護実践能力」に関する検討，関西看護医療大学紀要，10(1)，58-61.
荒木孝治	瓜﨑貴雄，荒木孝治（2018）．精神科病院におけるデスカンファレンスに関する文献検討，大阪医科大学看護研究雑誌，8，96-107.
佐々木綾子	佐々木綾子，波崎由美子，岸上きみゑ，鈴木秀文，山本宝（2018）．リーフレットを用い産後早期入浴に関する説明を受けた褥婦の産後 1 か月までの入浴行動と認識，日本ウーマンズヘルス学会誌，17(2)，21-29. 佐々木綾子，竹明美（2018）．青年期の親性準備性の概念分析，日本母子看護学会，11(1)，9-17. 赤塚七重，佐々木綾子（2018）．保育士による母乳育児支援の現状および関連要因，日本母子看護学会誌，11(1)，19-30. 近澤幸，竹明美，佐々木綾子（2018）．新生児および乳児のスキンケアに関する養育者への指導についての文献，日本母子看護学会誌，11(1)，97-104. 船越泉美，佐々木綾子（2018）．夫の立ち会い出産の経験に関する文献検討，ヒューマンケア研究学会誌，9(2)，（印刷中）
鈴木久美	鈴木久美，林直子，藤田佐和他 9 名（2017）．日本におけるがん看護研究の優先性―2016 年日本がん看護学会会員による Web 調査―教育・研究活動委員会報告（平成 27～28 年度），日本がん看護学会誌，31，57-65. Koyama, F., Suzuki, K. (2017). Process of Decision-making of Anti-Cancer Treatment in Elderly Patients with Advanced Lung Cancer, Health, 9, 1644-1659. 山中政子，鈴木久美（2018）．がん疼痛患者のセルフマネジメントを促進する教育的介入に関する文献レビュー，Palliative care Research，3(1)，7-21. 鈴木久美，大畑美里，林直子，他 4 名（2018）．乳がん早期発見のための乳房セルフケアを促す教育プログラムの効果，日本がん看護学会誌，32，12-22. 鈴木久美，酒井謙，片岡優実他 3 名（2018）．抗ウイルス療法を受けている C 型肝炎患者のセルフマネジメントを促進するグループ介入プログラムの有用性の検討―介入群と対照群との比較によるパイロットスタディ―，大阪医科大学看護研究雑誌，8，14-23.

田中克子	カルデナス暁東，田中克子，堤千春，金綱規夫，寺前純吾，花房俊昭（2017）．2 型糖尿病患者への多理論統合モデルに基づいた「ファミリーサポート」プログラムの効果を評価した症例，大阪医科大学雑誌，76(3)，39-47. カルデナス暁東，田中克子，馬春麗（2017）．中国山西中医学院附属病院におけるアトピー性皮膚炎成人期女性患者のスキンケア・メイクアップの実際と生活の質の現状，大阪医科大学看護学研究雑誌，8，（掲載可）. 田中克子，カルデナス暁東，楊輝（2017）．継続看護を学ぶ中国人看護職研修生の研修プログラムの検討，大阪医科大学看護学研究雑誌，8，（掲載可）. 田中克子，カルデナス暁東（2017）．中国人看護職の慢性疾患継続看護研修の日本文化への適応についての報告，大阪医科大学雑誌，76（1,2），28-33.
津田泰宏	Enomoto, M., Nishiguchi, S., Tsuda, Y. et al. (2018). Sequential therapy involving an early switch from entecavir to pegylated interferon-α in Japanese patients with chronic hepatitis B. Hepatol Res., 4, doi: 10.1111/hepr.13050. Nishikawa, T., Asai, A., Tsuda, Y. et al. (2017). The preventive effect of the impaired liver function for antiemetic therapy against chemotherapy-induced nausea and vomiting in hepatocellular carcinoma patients. J Clin Biochem Nutr., 61(3), 222-227.
土手友太郎	Dote, T., Nakayama, S., Hayashi, E. et al. (2017). Examining Hyperuricemia as Associated with Gender, Age, BMI Waist Circumference, and Body Type: Survey of Data Obtained in Specific Health Checkups at a Private University Osaka Medical College Nursing Research, 7, 14-20.
泊祐子	Kawabata, T., Tomari, Y., Takemura, J. (2017). Factors Related to Smoking Initiation by Adolescents and a Causal Model for Early Smoking Initiation, Health, 9, 1128-1144. Okada, M., Tomari, Y. (2017). Thinking Process of Nursing Students' Clinical Judgment in Pediatric Nursing Practicum, Open Journal of Nursing, 7, 1258-1273. 岡田摩理，赤羽根章子，泊祐子，市川百香里，遠渡絹代，部谷知佐恵，竹村淳子（2017）．在宅療養をしている障がい児と家族の生活を広げるために必要な訪問看護サービスの実態とニーズ，日本看護研究学会雑誌，40(5)，867-873. 遠渡絹代，泊祐子，部谷知佐恵，市川百香里，岡田摩理，竹村淳子，赤羽根章子，子（2017）．診療報酬算定外の訪問看護により支えられる重症児の特徴と看護，日本看護研究学会雑誌，40(5)，859-865. 岡田摩理，泊祐子（2017）．わが国における看護基礎教育で求められてきた看護の専門性を支える思考の内奥と教育の動向，日本看護学教育学会誌，27(2)，27-40.

道重文子	土肥美子，道重文子，川北敬美，中山サツキ（2018）． 教育と臨床のユニフィケーションー基礎看護技術演習に参加した教育指導者の学びと演習の継続に向けた課題の検討ー,大阪医科大学看護研究雑誌，8，（掲載可）． 米澤知恵，道重文子（2018）．舌苔除去方法の開発に関する基礎研究，日本看護福祉学会誌，23（2），25-36.
真継和子	福嶌松代，真継和子（2017）．子どもの体調管理の概念分析：大阪医科大学看護研究雑誌，第 8 巻，3-13.
元村直靖	Motomura, N., Wakabayashi, A., Kawabata, Y. (2017). Prolonged exposure therapy for patients with PTSD in an outpatient clinic. Research School Crisis and Mental Health, 8, 79-83. 元村直靖（2016）．行動科学と生活習慣：動機づけ面接と肥満について　日本保健医療行動科学会，31，8-12. 高橋真友子　井出健太郎、千葉俊周、金澤徹文、元村直靖（2016）．ＰＴＳＤ治療の最前線 21，4，285-292.
瓜﨑貴雄	瓜﨑貴雄，荒木孝治（2018）．精神科病院におけるデスカンファレンスに関する文献検討，大阪医科大学看護研究雑誌，8，96-107.
カルデナス暁東	カルデナス暁東，田中克子，堤千春，金綱規夫，寺前純吾，花房俊昭（2017）．2 型糖尿病患者への多理論統合モデルに基づいた「ファミリーサポート」プログラムの効果を評価した症例，大阪医科大学雑誌，76（3），39-47. カルデナス暁東，田中克子，馬春麗（2017）．中国山西中医学院附属病院におけるアトピー性皮膚炎成人期女性患者のスキンケア・メイクアップの実際と生活の質の現状，大阪医科大学看護学研究雑誌，第 8 巻，30-35. 田中克子，カルデナス暁東，楊輝（2017）．継続看護を学ぶ中国人看護職研修生の研修プログラムの検討，大阪医科大学看護学研究雑誌，第 8 巻，92-95. 田中克子，カルデナス暁東（2017）．中国人看護職の慢性疾患継続看護研修の日本文化への適応についての報告，大阪医科大学雑誌，76（1・2 合冊），28-33.
草野恵美子	小出恵子，岡本玲子，草野恵美子，岩本里織，福川京子（2017）．行政保健師の引き継ぎ業務における準備資料の実態ー経験年数と設置主体による比較ー，日本公衆衛生看護学会誌，6(1)，2-9.
仲下祐美子	仲下祐美子（2018）．看護系大学生の「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達度」の自己評価に関する文献レビュー，大阪医科大学看護研究雑誌，8，73-83.
川北敬美	土肥美子，道重文子，川北敬美，中山サツキ（2018）．教育と臨床によるユニフィケーション体制の評価ーA 大学看護学部基礎看護技術演習に参加した教育指導者の学びと演習の継続に向けた課題の検討ー，大阪医科大学看護研究雑誌，8，36-42.
佐野かおり	Goto, K., Furuya, Y., Oda, K., Minami, R., Sano, K., Sugimoto, M., Matsuda, S. (2017). Long-term results of total hip arthroplasty using Charnley Elite-Plus stem and the effect of stem geometry on radiographic distal femoral cortical hypertrophy, Journal of Orthopaedic Science, Available online 21 December.

竹明美	佐々木綾子，竹明美（2018）．青年期の親性準備性の概念分析，日本母子看護学会，11（1），9-17. 近澤幸，竹明美，佐々木綾子（2018）．新生児および乳児のスキンケアに関する養育者への指導についての文献，日本母子看護学会誌，11（1），97-104.
寺口佐與子	寺口佐與子，赤澤千春（2017）．乳がん術後リンパ浮腫患者の体重増減に影響する日常生活の特徴，ヒューマンケア研究学会誌，9（1），47-52. 寺口佐與子（2017）．ホルモン剤投与中の乳がん術後患者の体重変化に影響する要因とリンパ浮腫発症との関連の縦断的検討, 大阪医科大学雑誌,76（3）,18-28.
土肥美子	土肥美子，道重文子，川北敬美，中山サツキ（2018）．教育と臨床によるユニフィケーション体制の評価－A大学看護学部基礎看護技術演習に参加した教育指導者の学びと演習の継続に向けた課題の検討－，大阪医科大学看護研究雑誌，8，36-42.
府川晃子	Fukawa, A.(2017). The Process of How Elderly Patients with Lung Cancer Who Are Receiving Molecularly Targeted Therapy with Oral Agents Establish Self-Management. Health, 9(13): 1801-1816. 府川晃子（2017）．化学療法を受ける高齢がん患者の QOL に関する文献レビュー，日本がん看護学会誌，31，76-81. 河合莉奈，寺岡菜緒子，府川晃子，田中登美（2017）．がん化学療法に対する看護師の曝露対策の現状と課題.兵庫医療大学紀要，5（2），29-38. 増田富美子，府川晃子，堀口和子，竹田千佐子（2017）．学士課程入門を履修した看護学部学生における学習に関する自己評価の推移，兵庫医療大学紀要， 5（1），21-30. 鈴木久美，林直子，山内栄子，府川晃子（2017）．がん患者の Sense of Coherence に関する文献レビュー，大阪医科大学看護研究雑誌，7，3-13.
大橋尚弘	大橋尚弘，林優子，赤澤千春，高原史郎（2017）．高齢夫婦間腎移植後に夫婦のみで暮らすレシピエントのありよう―移植から 5 年以上の時期に焦点を当てて―，日本移植・再生医療看護学会誌，12（2），2-13. 林優子，赤澤千春，萩原邦子，大橋尚弘（13 人中 12 番目）（2017）．臓器移植看護における看護師の倫理的実践の変化を目指したアクションリサーチの実施，日本移植・再生医療看護学会誌，12（2），28-30.
曽我浩美	熊澤由加，曽貝保子，長尾美千代，石木直美，長屋由美，曽我浩美（2017）．療養病棟における高齢者ケアに対するジレンマ，日本看護学会論文集：慢性期看護，47，183-186.

研究活動/【学会発表】

赤澤千春	Yoshikawa, Y., Uchida, J., Akazawa, C., and Suganuma, N. (2017). Associations of Health-related Quality of Life in Women Who Have Given Birth after a Kidney Transplant, 15th Congress of the Asian Society of Transplantation. (Philippine) Nishizono, T., Minoura, Y., and Akazawa, C. (2018). Characteristics of Nursing Practical Fundamental Capabilities (Literacy and Competency) by Fundamental Education and Qualification of Nurses, (Spain) 箕浦洋子，西薗貞子，江川隆子，日隈ふみ子，赤澤千春，青山美智代，森本喜代美（2017）．看護基礎能力の評価指標開発に向けて-看護管理者が育成したい看護師像とは-：第 21 回日本看護管理学会学術集会，（横浜） 中嶋文子，赤澤千春，森本喜代美，東真理，青山芽久（2017）．新人看護師の SOC を高める教育プログラムの評価：日本看護研究学会第 43 回学術集会，東海. 青山芽久，赤澤千春（2017）．二次救急医療機関における高齢患者の救急外来看護の現状：日本看護研究学会第 43 回学術集会，（東海） 赤澤千春，森本喜代美，中嶋文子，浜崎美子，辻本かよ子，出野幸子（2017）．中堅看護師の思考を揺さぶるーIBL(Inquiry Based Learning)を用いて医療安全，リーダーシップを考えるー：日本看護研究学会第 43 回学術集会交流集会，（東海） 吉川有葵，内田潤次，赤澤千春，菅沼信彦（2017）．腎移植後に妊娠・出産した女性の情報ニーズによる支援の検討：第 53 回日本移植学会，（旭川） 寺口佐與子，赤澤千春（2017）．乳がん術後患者の縦断的体重変化とリンパ浮腫発症影響要因の検討-ホルモン剤服用中の日常生活-：第 37 回日本看護科学学会学術集会，（仙台） 森本喜代美，赤澤千春，寺口佐與子，新井香奈子，三原　綾（2017）．在宅高齢者の続発性リンパ浮腫に対する訪問看護介入の実態調査：第 37 回日本看護科学学会学術集会，（仙台） 谷水名美，林優子，赤澤千春，萩原邦子，今西誠子，習田明裕，前田景子，磯見真希，田中優希，松宮朱美，喜信幸，大橋尚弘，渡邉陽子（2017）．臓器移植看護における看護師の倫理的実践の変化：第 13 回日本移植・再生医療看護学会学術集会，（広島）
佐々木綾子	赤塚七重，佐々木綾子（2017）．保育士による母乳育児支援の現状および関連要因：第 19 回日本母性看護学会，（西宮） Sasaki, A., Namizaki, Y.(2017). Knowledge and awareness of cervical cancer, screening, and HPV vaccination among mothers who attended routine health checks, 31st ICM Triennial Congress, (Toronto) Sasaki, A., Namizaki, Y.(2017). Behavior and Awareness of the Beginning Period of Take a Bath by Postpartum Women, 31st ICM Triennial Congress, (Toronto) 佐々木綾子，波﨑　由美子，岸上きみゑ，鈴木秀文，山本宝（2017）．産後 1 か月の褥婦の子宮頸がん・検診・予防ワクチンに関する知識・意識を向上させる

	小冊子の効果：第 16 回日本ウーマンズヘルス学会，（東京） 但馬まり子，川添香，中西敬子，佐々木綾子（2017）．初産婦の産後 3 日目から 2 週間健診までの生活リズム移行期における睡眠状況と疲労感の実態：第 58 回日本母性衛生学会，（神戸） 佐々木綾子，竹明美，西頭知子（2017）．助産師による 3D アニメーションソフトを用いた分娩の進み方の個別的な説明が産婦の分娩体験に及ぼす効果：第 37 回日本看護科学学会，（仙台）
鈴木久美	四方文子，鈴木久美，他 8 名（2017），内分泌療法を受けている若年乳がん患者の体験する困難と医療者へのニーズ：第 25 回日本乳癌学会学術総会，（福岡） Suzuki, K., Yamauchi, A., Fukawa, A., Hayashi, N. (2017). Process of Enhancing Sense of Coherence through the Illness Experience of Patients with Recurrent Breast Cancer, The 3rd Asian Oncology Nursing Society Conference, (Beijing) Koji, A., Suzuki, K. (2017). The Process of Life Adjustment in Patients at Onset of Glioma who are Receiving Continuous Oral Chemotherapy, The 3rd Asian Oncology Nursing Society Conference, (Beijing) Shiino, I., Suzuki, K. (2017). Cancer Patients' Experience of Communicating with their Children regarding their Illness: A Literature Review, The 3rd Asian Oncology Nursing Society Conference, (Beijing) 林直子，高橋奈津子，中山直子，森明子，鈴木久美，他 3 名（2018）．女性乳がん患者の診療に携わる医師の妊孕性温存に関する知識・態度・実践の現状―全国がん診療連携拠点病院を対象とした横断調査：第 8 回日本がん生殖医療学会学術集会，（東京） 高橋奈津子，林直子，中山直子，森明子，鈴木久美，他 3 名(2018)．女性乳がん患者のケアに携わる看護師の妊孕性温存に関する知識・態度・学習ニードの現状―全国がん診療連携拠点病院を対象とした横断調査：第 8 回日本がん生殖医療学会学術集会，（東京） 四方文子，鈴木久美，山中政子（2018）．未婚若年乳がん患者の内分泌療法中の療養生活体験：第 32 回日本がん看護学会学術集会，（千葉）
津田泰宏	Tsuda, Y., Nakamura, K., Yokohama, K., et al.（2017）．The prognosis of HCV patients with treatment history of interferon-free therapy, DDW 2017, (Chicago) 津田泰宏、安岡秀高、西川知宏　他６名（2017）．当院におけるインターフェロンフリー治療後の C 型肝炎患者の予後：日本肝臓学会総会，(広島) 中村憲、西川知宏、津田泰宏　他８名（2017）．マイクロスフィアを用いた肝動脈化学塞栓療法（DEB-TACE）の使用成績について：日本肝臓学会総会，(広島) 西川知宏、中村憲、津田泰宏　他５名（2017）．標準治療不能を含めた肝癌における放射線治療の有効性について：日本肝臓学会総会，(広島) 津田泰宏、西川知宏、中村憲　他６名（2017）．当院における肝血管腫の自然経過：JDDW2017，(福岡)

	中村憲、西川知宏、津田泰宏，他７名（2017）．マイクロスフィアを用いた肝動脈化学塞栓療法（DEB-TACE）の使用成績について：JDDW2017，(福岡) 津田泰宏、安岡秀高、西川知宏，他５名（2017）．当院における C 型肝炎 DAA 治療後の肝酵素異常持続例の経過：肝臓病学会西部会，(福岡) 中村憲、西川知宏、津田泰宏，他７名（2017）．肝動注化学塞栓療法(C-TACE)不応､不可能例に対するマイクロスフィアを用いた TACE(DEB-TACE)症例の検討：肝臓病学会西部会，(福岡)
土手友太郎	新田明美、池原賢代、中山紳、土手友太郎，他（2017）．職域男性における生活習慣とメタボリックシンドロームとの断面的関連検討：第 76 回日本公衆衛生学会総会，(鹿児島)
泊祐子	Tomari, Y. (2017). The Difficulty the School Nurse Have in Providing Care to the Children Highly-Dependent on Medical Care-. 14th AAPAIN, 23, (Honolulu) 水島道代，泊祐子（2017）．１型糖尿病患児の親から子どもへの療養行動移行に関する文献検討：第 64 回日本小児保健協会学術集会，179，（大阪） 山﨑歩，泊祐子（2017）．幼児期から学童期に１型糖尿病を発症した女性の発症時期の違いによる病気認知の特徴：第 64 回日本小児保健協会学術集会，230，（大阪） 泊祐子，大西文子，竹村淳子，山田恵子（2017）．小児看護学実習における学生が陥りやすい問題状況の構造の分析とその指導方略:日本看護学教育学学会第 27 回学術集会，交流セッション，108，（那覇） 岡田摩理，泊祐子（2017）．わが国における看護基礎教育で求められてきた思考：日本看護学教育学学会第 27 回学術集会，261，（那覇） 赤松志麻，竹村淳子，泊祐子（2017）．思春期初発クローン病患児の退院後に母親が体験した食事療法への困難と対処：日本小児看護学会第 27 回学術集会，205，（京都） 田中育美，泊祐子（2017）．先天性食道閉鎖症の食事摂取の問題に関する文献検討：日本小児看護学会第 27 回学術集会，250，（京都） 泊祐子，竹村淳子，遠渡絹代，市川百香里，部谷知佐恵，他４人（2017）．診療報酬を獲得できるエビデンスを積み重ねるⅡ―重度障がい児と家族の生活世界を広げる支援プロジェクト―，学会特別企画：第 43 回日本看護研究学会学術集会，92，（東海） 遠渡絹代，泊祐子，竹村淳子，部谷知佐恵，市川百香里，他４人（2017）．診療報酬算定外の訪問看護により支えられる重症児の特徴と問題：第 43 回日本看護研究学会学術集会，161，（東海） 坪倉幸代，泊祐子，竹村淳子，曽我浩美（2017）．長期入院を必要とした白血病患児に対する復学支援の現状に関する文献検討：第 43 回日本看護研究学会学術集会，161，（東海） 泊祐子，伊藤隆子，上野理絵，上別府圭子，他（2017）．査読をうまく活用して、よい論文に仕上げよう，理事会企画：日本家族看護学会第 24 回学術集会，56，

	（千葉） 泊祐子，真継和子，竹村淳子，曽我浩美，松本修一，他９人（2017）.「よくある」家族事例から介入を考えるーもっとかぞくにできることはあったんじゃないの？ー，交流セッション：日本家族看護学会第 24 回学術集会，67,（千葉） 泊祐子，遠渡絹代，部谷知佐恵，市川百香里，岡田摩理，他５人（2017）．重症心身障碍児と家族の支援における課題解決に向けた方略の検討-家族エンパワメントを可能にする小児訪問看護の体制づくりエビデンスの蓄積-：第 43 回日本重症心身障害学会学術集会　シンポジウム，145,（仙台） 此島由紀，泊祐子（2017）．重症心身障がい児の家族における祖父母の関割に関する文献レビュー，第 43 回日本重症心身障害学会学術集会，299,（仙台） 泊祐子，竹村淳子，岡田摩里，赤羽根章子，部谷智佐恵，遠渡絹代，市川百香里（2016）．在宅で生活している障がい児の家族が希望する診療報酬を算定外サービスの実績と希望：日本小児看護学会第 26 回学術集会，（別府）
道重文子	米澤 知恵，道重 文子（2017）．各種舌清掃道具の舌苔除去効果の検討，第 42 回日本看護研究学会学術集会，　476,（名古屋） Kawakita, T., Hara, A., Inagaki, I., Ikegame, M., Michishige, F. (2018) .The Realities of Hiring Management and the Support System for Raising Children According to Hospital Size , The 21th East Asian Forum of Nursing Scholars,（Seoul）.
真継和子	真継和子，小林道太郎（2017）．アサーショントレーニングを取り入れた看護倫理研修の成果の組織間比較：第 37 回日本看護科学学会学術集会，（仙台） 泊祐子，真継和子，竹村淳子，曽我浩美，松本修一，平山五月，赤松志麻，八尾みどり，石浦光世，福嶌松代，宮田郁，山﨑歩，山岡愛，大野美和（2017）．よくある家族事例から介入を考える～もっと家族にできることがあったんじゃないの？～：日本家族看護学会第 24 回学術集会，67,（千葉）
元村直靖	元村直靖（2017）．子供の不安障害の認知行動療法：認知療法学会　シンポジウム，（大阪）
カルデナス暁東	鬼塚奈穂，間瀬淑子，常慶友有子，カルデナス暁東（2017）．両親教室参加の有無による立会分娩時の夫の気持ちへの影響について：第 5 回大阪府看護学会，（大阪） 田中文子，村上恵子，カルデナス暁東（2017）．手術室スタッフの帝王切開に対する不安の軽減と知識・技術の習得―母体のデモ機を用いたシミュレーションを実施してー：第 5 回大阪府看護学会，（大阪） 信藤綾香，西上直美，カルデナス暁東（2017）．入院患者の病院食摂取状況の把握に関する実態調査―食事摂取量と摂取エネルギーの実測値と目測値を比較してー：第 5 回大阪府看護学会，（大阪）優秀賞 今井いづみ，衣笠朗子，谷口沙織，西川勇太，カルデナス暁東（2017）．循環器センターで働く看護師のストレス調査:平成 29 年度大阪府看護協会府東支部，（大阪）

草野恵美子	Nakayama, K., Hatono, Y., Kaneko, M., Kusano, E. (2017). Confidence of Public Health Nurses in Japanese Municipalities concerning Community Organization Activities: 7th International Nursing Forum, (Hong Kong) 岡本玲子，小出恵子，合田加代子，岩本里織，蔭山正子，塩見美抄，草野恵美子（2017）．Positive Health を推進する地域の潜在力を高める公衆衛生看護技術：日本地域看護学会第 20 回学術集会，140，（別府） 岡本玲子，蔭山正子，小出恵子，合田加代子，岩本里織，塩見美抄，草野恵美子，眞浦有希，田中美帆（2017）．自由集会 3　公衆衛生看護技術「どんな枠組みで整理する？」：日本地域看護学会第 20 回学術集会，89，（別府） Nakayama, K., Hatono, Y., Kaneko, M., Kusano, E. (2017). Challeges and solution strategies for public health nurses in promoting empowerment among community organization activities in Japan: Findings from a focus group interview: 5th Worldwide Nursing Conference, 41-46, (Singapore) 佐藤睦子，草野恵美子，樺山舞，新美志帆，佐々木渓円，山崎嘉久（2017）．乳幼児健診における保健指導・支援の基本的事項に関する現場からみた必要性と妥当性：第 76 回日本公衆衛生学会総会，469，（鹿児島） 中山貴美子，鳩野洋子，金子仁子，草野恵美子（2017）．市町村保健師による地域組織活動の経験：第 76 回日本公衆衛生学会総会，536，（鹿児島） 草野恵美子，山埜ふみ恵（2018）．要介護予備軍と地域のつながりとの関連～自治体と連携した既存データ二次活用の試みから～：第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会，125，（大阪） 時政舞，岡本玲子，蔭山正子，小出恵子，塩見美抄，岩本里織，合田加代子，草野恵美子，羅琤（2018）．地域の強みを高める公衆衛生看護技術－実事例での検証－：第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会，137，（大阪） 岡本玲子，合田加代子，小出恵子，蔭山正子，岩本里織，塩見美抄，草野恵美子，（2018）．公衆衛生看護技術の枠組み－原則に基づく検討－：第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会，139，（大阪） 岡本玲子，蔭山正子，小出恵子，合田加代子，岩本里織，塩見美抄，草野恵美子，田中美帆，榊原一恵，時政舞，羅琤（2018）．ワークショップ 2-6 大谷尚先生に学ぶホンマモンの質的研究：第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会，88，（大阪） 中山貴美子，鳩野洋子，金子仁子，草野恵美子（2018）．市町村保健師の地域組織活動に対するやりがい感及び苦手意識と自治体の種類との関連：第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会，166，（大阪）
久保田正和	久保田正和（2017）．携帯型脳活動計測装置を用いた ICT ベースの新規的な認知リハネットワークの確立：平成 28 年度研究拠点育成奨励助成金成果報告会，（高槻） 久保田正和（2018）．携帯型脳活動計測装置を用いた効果的な認知リハビリテーションの探索：平成 29 年度研究支援センター共同研究プロジェクト報告会，（高槻）

小林道太郎	真継和子，小林道太郎（2017）． アサーショントレーニングを取り入れた看護倫理研修の成果の組織間比較：第 37 回日本看護科学学会学術集会，PD-56-2，（仙台）
山崎歩	Ayumi,Y., Yuko,T. (2017).The Self-management Obtainment Process During Puberty and Adolescence of Female Patients who Developed Type 1 Diabetes Prior to School Age:14th Annual Asian American Pacific Islander Nurses Association Conference,22, (Honolulu) Yuko,T., Junko,T., Ayumi,Y.(2017). The Difficulty the School Nurse Have in Providing Care to the Children Highly-Dependent on Medical Care-:14th Annual Asian American Pacific Islander Nurses Association Conference,22, (Honolulu) 山崎歩，泊祐子（2017）．幼児期から学童期に 1 型糖尿病を発症した女性の発症時期の違いによる病気認知の特徴：第 64 回日本小児保健協会学術集会，230，（大阪） 泊祐子，竹村淳子，遠渡絹代，山崎歩（2017）．平成 30 年度の診療報酬・介護報酬同時改訂に向けてのプロジェクト活動報告「診療報酬を獲得できるエビデンスを積み重ねるⅡ」～重度障がい児と家族の生活世界を広げる支援プロジェクト～：日本看護研究学会第 43 回学術集会，92，（東海） 泊祐子，真継和子，竹村淳子，山崎歩（2017）．「よくある」家族事例から介入を考えるーもっとかぞくにできることはあったんじゃないの？ー，交流セッション：日本家族看護学会 第 24 回学術集会，67（千葉） 遠渡絹代，泊祐子，叶谷由佳，山崎歩（2017）．重症心身障がい児者と家族の生活世界を広げる支援 訪問看護における重症心身障がい児ケアの特徴と課題 訪問看護ステーション 15 ヶ所の聞き取り調査の結果：第 43 回日本重症心身障害学会 学術集会，144（仙台） 泊祐子，遠渡絹代，部谷知佐恵，山崎歩（2017）．重症心身障がい児と家族の生活世界を広げる支援 重症心身障がい児と家族の支援における課題解決に向けた方略の検討ー家族エンパワメントを可能にする小児訪問看護の体制づくりとエビデンスの蓄積ー シンポジウム：第 43 回日本重症心身障害学会学術集会，145（仙台）
川北敬美	Kawakita, T., Hara, A., Inagaki, I., Ikegame, M., Michishige, F. (2018). The Realities of Hiring Management and the Support System for Raising Children According to Hospital Size: The 21th East Asian Forum of Nursing Scholars,（Seoul）
佐野かおり	佐野かおり，上杉裕子，後藤公志，杉本正幸（2017）．股関節鏡視下術後 3 ヶ月における 2 事例のリハビリテーション実施状況：第 44 回日本股関節学会学術集会，561，（東京）
竹明美	佐々木綾子，竹明美，西頭知子（2017）．助産師による 3D アニメーションソフトを用いた分娩の進み方の個別的な説明が産婦の分娩体験に及ぼす効果：第 37 回日本看護科学学会，（仙台）

寺口佐與子	寺口佐與子，赤澤千春（2017）．乳がん術後患者の縦断的体重変化とリンパ浮腫発症影響要因の検討-ホルモン剤服用中の日常生活-：第 37 回日本看護科学学会学術集会，仙台． 森本喜代美，赤澤千春，寺口佐與子，新井香奈子，三原　綾（2017）．在宅高齢者の続発性リンパ浮腫に対する訪問看護介入の実態調査：第 37 回日本看護科学学会学術集会，仙台．
土肥美子	土肥美子，細田泰子，片山由加里（2017）．看護大学教員のクリティカルシンキングと学生のメタ認知を促進する支援の関連性の検討：日本看護研究学会雑誌，40（3），212，（愛知）
西頭知子	西頭知子，佐々木綾子，佐々木久美子（2017）．思春期の子どもをもつ母親が感じる子育てに対する困難さについての調査：第 37 回日本看護科学学会，（仙台） 佐々木綾子，竹明美，西頭知子（2017）．助産師による 3D アニメーションソフトを用いた分娩の進み方の個別的な説明が産婦の分娩体験に及ぼす効果：第 37 回日本看護科学学会，（仙台）
府川晃子	Fukawa, A. (2017).The Process of How Elderly Patients with Lung Cancer Who Are Receiving Molecularly Targeted Therapy with Oral Agents Establish Self-Management: The 3rd Asian Oncology Nursing Society Conference,（北京） Suzuki, K., Hayashi, N., Yamauchi, E., Fukawa, A.(2017). Process of Enhancing Sense of Coherence through the Illness Experience of Patients with Recurrent Breast Cancer: The 3rd Asian Oncology Nursing Society Conference,（北京）
宇多雅	宇多雅，任和子，橋本求，鳥井美江，田中真生，藤井隆夫，布留守敏，伊藤宣，山本渉，三森経世（2017）．関節リウマチ患者の不安・抑うつの予測因子の検討－KURAMA コホートを用いた検討－:第 61 回日本リウマチ学会学術集会，（福岡） Shimizu, S., Uda, M., Maetaki, E., Kishino, M. (2017). Undergraduate nursing students' anxiety before and during taking care of end-of-life patients: Asia Pacific Hospice Conference ,(Singapore)
大橋尚弘	林優子，赤澤千春，萩原邦子，大橋尚弘（13 人中 12 番目）（2017）．臓器移植看護における看護師の倫理的実践の変化－アクションリサーチを用いて－:第 13 回日本移植・再生医療看護学会学術集会，一般演題Ⅰ，（広島） 中村敏明，タギシ英彰，山口万穂，大橋尚弘（9 名中 4 番目）（2017）．「高知県医療支援プロジェクト」を活用した多職種連携教育の実践：医療薬学フォーラム 2017 第 25 回クリニカルファーマシーシンポジウム，2-027，（鹿児島）
曽我浩美	大宮妙子，山田葉子，鈴木晃代，長屋由美，曽我浩美（2017）．外来患者のニーズを満たすための看護実践と意識変化　待合室のラウンドと待ち時間の情報提供を行って：第 48 回日本看護学会学術集会　看護管理，（札幌） 岡田美千代，安田圭子，曽我浩美（2017）．訪問看護利用者への栄養管理に関す

	る援助の効果の検討　ANA(A ステーションオリジナル栄養アセスメント法)を用いた評価から：第 48 回日本看護学会学術集会　在宅看護，（つくば） 加藤あや子，笠野友香，長屋由美，曽我浩美（2017）．短期入院で化学療法を受ける大腸がん患者の治療による日常生活への影響：第 48 回日本看護学会学術集会　慢性期看護，（神戸） 竹内祐衣，小山田佳代，渡辺佳美，長屋由美，曽我浩美（2017）．脳出血後遺症のある患者の退院後の生活をイメージした退院支援の検討：第 48 回日本看護学会学術集会　慢性期看護，（神戸） 曽貝保子，間宮恭子，長尾美千代，石木直美，長屋由美，曽我浩美（2017）．発語困難のある患者と家族の退院への「思い」を考慮した看護介入の検討：第 48 回日本看護学会学術集会　慢性期看護，（神戸） 泊祐子，真継和子，竹村淳子，曽我浩美，松本修一，平山五月，赤松志麻，八尾みどり，石浦光世，福嶌松代，宮田郁，山崎歩，山岡愛，大野美和（2017）．「よくある」家族事例から介入を考える　もっと家族にできることがあったんじゃないの？：日本家族看護学会第 24 回学術集会，67，（千葉） 坪倉幸代，泊祐子，竹村淳子，曽我浩美（2017）．長期入院を必要とした白血病患児に対する復学支援の現状に関する文献検討：日本看護研究学会第 43 回学術集会，40(3)，161，(東海) 泊祐子，大西文子，竹村淳子，曽我浩美，山田恵子，鳥居賀乃子（2017）．小児看護学実習における学生が陥りやすい問題状況の構造の分析とその指導方略：日本看護学教育学会第 27 回学術集会，108，（宜野湾）
山埜ふみ恵	草野恵美子，山埜ふみ恵（2018）．要介護予備軍と地域のつながりとの関連 自治体と連携した既存データ二次活用の試みから：第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会，125，（大阪）

研究活動/【その他】

佐々木綾子	佐々木綾子（2016）．科学研究費助成事業　研究成果報告書（2012～2015），課題番号 24593360，子宮頸がん好発年齢母親小集団の検診行動を促す看護職指導者養成プログラムの効果検証.
鈴木久美	上泉和子，岡谷恵子，鈴木久美，他（2018）．「看護系大学学士課程の臨地実習とその基準作成に関する調査研究」報告書，29 年度文部科学省　大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業, 一般社団法人日本看護系大学協議会.
田中克子	田中克子，カルデナス暁東（2017）．中国山西医科大学第一附属病院看護部と学術交流
真継和子	真継和子（2017）．「在宅医療」知っています？家で最期まで療養したい人に。2016 年度（前期）指定公募「市民の集い開催への助成」完了報告書，公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団，1-90. http://www.zaitakuiryo-yuumizaidan.com/main/refer.php
カルデナス暁東	【原稿依頼】 カルデナス暁東（2017）．患者の前向きな気持ちを引き出す！「メイクセラピー看護外来」，外来看護　日総研グループ，秋号，3-9. 田中克子，カルデナス暁東（2017）．中国山西医科大学第一附属病院看護部と学術交流

VI.　社会活動

社会活動

赤澤千春	日本移植・再生医療看護学会　理事長 日本移植・再生医療看護学会　査読委員、編集委員 日本看護研究学会　査読委員 日本教育看護学会　査読委員 Journal of Clinical Nursing　査読委員
荒木孝治	日本精神保健看護学会誌　専任査読委員 日本移植・再生医療看護学会誌　専任査読委員 日本看護研究学会　評議員 日本看護研究学会　編集委員 日本看護研究学会誌　専任査読委員 大阪精神医療センター　治験審査委員会　外部委員 大阪精神医療センター　臨床研究倫理審査委員会　外部委員 日本看護研究学会第 45 回学術集会　企画委員
佐々木綾子	【査読】 第 19 回日本母性看護学会学術集会講演集　日本母性看護学会誌，18(1) 大阪医科大学研究雑誌，8　大阪医科大学雑誌，76(3) 【セミナー担当】 大阪府看護協会，2017 年度研修，後輩教育を実施するための成人学習プロセスの基本事項，ナーシングアート大阪，2017.7.3 高槻地区周産期地域連携の会研修会「ママたちが非常事態」に対し何ができるのかー実態と研究成果ー，高槻保健所，2017.8.16. 「気がかりな妊婦・親子を支援するための連携システムに関する研修会「ママたちを“非常事態”にしないため，周産期医療と地域の現場ができること，福井市にぎわい交流施設ハピリン，2017.10.4. 2017 年度　高槻市児童虐待等防止連絡会議　勉強会「ママとパパたちを“非常事態”にしないため，周産期医療と地域の現場ができること」，高槻市総合支援センター，2017.10.24. 2017 年度勝山市子育て講演会「ママたちが非常事態？育児を科学の視点で考える」，勝山市福祉健康センター，2018.3.21. 福井愛育病院看護研究セミナー「もっと気軽に看護研究！研究プロセスの実践編」6 回 福井愛育病院看護研究指導 5 題 福井愛育病院看護研究発表会講評，2017.12.15 【ワークショップ司会】 「いつでも・どこでも・だれでも　たかつき子育て応援団ー関係機関のネットワークで取り組む地域の子育て支援ー」，歴史資料館，2017.12.11. 【その他】 日本母性看護学会，会計理事

鈴木久美	日本がん看護学会理事 日本看護科学学会代議員 日本慢性看護学会評議員 日本がん看護学会誌専任査読委員 日本看護科学学会誌和文誌専任査読委員 日本看護系大学協議会文部科学省委託事業プロジェクト委員 愛知県立大学大学院非常勤講師 岐阜県立看護大学大学院非常勤講師 乳がん看護認定看護師教育課程非常勤講師 認定看護師認定委員会委員 厚生労働省　保健師助産師看護師試験委員 兵庫県立大学大学院看護学研究科博士論文審査副査 公益財団法人大阪対がん協会　平成 29 年度がん研究助成奨励金選考委員
津田泰宏	【研究会・講演会】 肝硬変のマネージメント　～ガイドラインと当科での試み～，京都仁泉会学術講演会，2017.11.18. 肝疾患と痒みに関して，大日本住友製薬社内講演，2018. 3.16. 【各種委員】 日本内科学会認定内科医、総合内科専門医 日本消化器病学会専門医、近畿支部評議員 日本肝臓学会認定専門医、西部会評議委員、指導医 米国免疫学会会員 大阪医科大学附属病院肝疾患支援センター　センター長
土手友太郎	高槻市都市開発・高槻市ホテル等建築・高槻市ぱちんこ遊技場建築審議会委員 健康たかつき 21 推進ﾈｯﾄﾜｰｸ会議委員 厚生労働省医員（関西空港検疫所・大阪検疫所） 高槻市役所産業医
泊祐子	日本家族看護学会,理事,編集委員長 看護系学会等社会保険連合(看保連)委員 日本看護研究学会専任査読者 日本看護学教育学学会評議員,編集委員会委 日本看護科学学会評議員 日本看護学教育学学会,評議員 日本看護学教育学学会,専任査読者 日本小児保健協会,専任査読委員 日本小児看護学会評議員，学術・研究推進委員会委員 和歌山県立医科大学大学院看護学研究科非常勤講師「家族看護学特論」 聖泉大学大学院看護学研究科非常勤講師「家族看護学特論」

道重文子	日本私立看護系大学協議会理事 日本口腔ケア学会評議員 日本看護診断学会評議員 日本看護研究学会近畿．北陸地方会継続セミナー委員 大阪府看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル，講師，「看護管理実践計画書作成」，2017 京都府看護協会認定看護師教育課程ファーストレベル，講師，「グループマネジメント」，2017 大阪医科大学看護学部市民看護講座講師，2017.11.11
真継和子	京都私立病院協会中間管理職研修　看護倫理　講師 社会医療法人愛仁会高槻病院看護部　看護研究　講師 三島ブロック訪問看護ステーション事例発表会　講師 日本家族看護学会　編集委員会委員 日本看護学教育学会　専任査読員 日本看護研究学会近畿・北陸地方会　広報委員会 委員 日本看護研究学会近畿・北陸地方会　看護研究継続セミナー インストラクター 在宅看護研究会 主催（大阪医科大学看護学部在宅看護学領域） 家族看護研究会 共催（大阪医科大学看護学部小児看護学領域・在宅看護学領域） 倫理事例研究会（大阪医科大学大学院看護学研究科修了生主催）アドバイザー 和歌山県立医科大学大学院看護学研究科　非常勤講師 四条畷学園大学看護学部　非常勤講師
元村直靖	日本トラウマチックストレス学会　会長 日本保健医療行動科学会　監事 日本神経心理学会　評議員 日本高次脳機能障害　評議員 日本神経心理学会　演題座長 第４１回日本高次脳機能障害　演題座長 第４１回日本神経心理学会　演題座長
吉田久美子	日本看護医療学会評議委員 日本看護医療学会査読委員 滋賀県彦根市要保護児童対策協議会副会長 社団法人大阪府看護協会教育委員会 地域包括ケア部会委員 平成 29 年度産後ケアエキスパート助産師認定講習会　講師　「家族看護及び家庭訪問技術」2 回 滋賀県彦根市健康推進課　保健師研修会　スーパーバイザー「ハイリス久母子事例検討会」3 回 平成 29 年度　大阪市保健師プリセプター研修会　講師 平成 29 年度　大阪府保健師現任研修「２年目研修」講師 平成 29 年度　彦根市要保護児童対策協議会代表者会議　１回

瓜崎貴雄	大阪府看護協会　倫理審査委員会　委員 日本精神科看護協会大阪府支部　看護研究発表会　評価（査読）委員 大阪府看護協会　短期研修「入門編～看護研究に取り組んでみよう～」　講師 大阪府看護協会　救急看護認定看護師教育課程「救急患者と家族の心理・社会的アセスメント」　非常勤講師 日本看護研究学会第 45 回学術集会　企画委員
カルデナス暁東	大阪府市立柏原病院　看護研究講師（2016 年 4 月～） 留日中国人生命科学協会　理事（2016 年 4 月～） シンメディカル糖尿病セミナー　世話人
草野恵美	日本公衆衛生看護学会「日本公衆衛生看護学会誌」査読委員 日本小児保健協会「小児保健研究」査読委員 日本在宅ケア学会「日本在宅ケア学会誌」査読委員 高槻市地域包括支援センター保健師・看護師連絡会研修会，講師，「個と地域をつなぐ地域診断におけるわが町の課題と強みの探索～若いシニアの 10 年後をみすえて～」 高槻市平成 29 年度第 1 回母子健診従事者スキルアップ研修，講師，「乳幼児健診の意義～寄り添う支援に向けて～」（講義編） 高槻市平成 29 年度第 2 回母子健診従事者スキルアップ研修，講師，「乳幼児健診の意義～寄り添う支援に向けて～」（演習編） 大阪市鶴見区保健福祉センター，研究指導協力 大阪市中央区保健福祉センター，研究指導協力
久保田正和	高槻市介護認定審査会委員 糖尿病スキルアップセミナー世話人 在宅ケア研究会世話人 京都大学医学部人間健康科学科非常勤講師 はくほう会医療専門学校非常勤講師 大阪医科大学三島南病院看護部認知症研修会講師，2017 年 5 月 26 日（大阪） 大阪医科大学三島南病院 IBL ファシリテーター，2017 年 5 月 27 日（大阪） 大阪医科大学三島南病院看護部認知症研修会講師，2017 年 6 月 5 日（大阪） 大阪医科大学三島南病院 IBL ファシリテーター，2017 年 6 月 24 日（大阪） 認知症を理解し地域で支える会研修会ファシリテーター, 2017 年 10 月 14 日（大阪） 平成 29 年度第 1 回高槻市地域包括ケア推進会議委員, 2017 年 11 月 16 日（高槻） 第 3 回在宅に関わる看護師＆事例検討会講師，2018 年 1 月 6 日 大阪医科大学三島南病院 IBL ファシリテーター，2017 年 2 月 10 日（大阪） 平成 29 年度第 2 回高槻市地域包括ケア推進会議委員, 2018 年 3 月 15 日（高槻）
小林道太郎	臨床実践の現象学会 事務局 日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画委員 日本看護倫理学会 査読委員

仲下祐美子	大阪市介護認定審査会委員 大阪市高齢者等在宅医療・介護連携に関する相談支援事業受託法人選定委員 大阪市在宅医療･介護連携推進事業に関する医療施設等アンケート調査受託事業者選定委員 第 27 回日本健康教育学会学術大会　準備委員 雲雀丘学園高等学校ライフデザイン教育プログラム「One Day College」出張講義
山崎歩	大阪くるみの会（1 型糖尿病の会）運営スタッフ 日本看護研究学会 第 43 回学術集会 実行委員
川北敬美	京都府看護協会認定看護師教育課程ファーストレベル「グループマネジメント」／演習ファシリテーター
佐野かおり	日本看護研究学会第 43 回学術集会　実行委員 市立長浜病院　看護局継続看護研修　講師
竹明美	第 45 回日本看護研究学会　企画・運営委員（会場係）2017 年 11 月より
寺口佐與子	日本移植・再生医療看護学会　広報委員，選挙管理委員，事務局 第 45 回 日本看護研究学会　企画委員，事務局
土肥美子	藍野大学大学院看護学研究科看護教育論非常勤講師 公益社団法人大阪府看護協会大阪府専任教員養成講習会看護教育評価論講師 一般社団法人日本私立看護系大学協会大学運営・経営委員会委員
府川晃子	平成 29 年度　第 3 回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム「M5：エンド・オブ・ライフ・ケアにおける文化的配慮」 平成 29 年度大阪医科大学病院看護研究セミナー　質的研究の方法 平成 29 年度独立行政法人国立病院機構大阪医療センター看護研究研修会「看護研究の方法」 平成 27～28 年度日本がん看護学会教育・研究活動委員会　実行委員 抗がん剤曝露対策ガイドライン作成システマティックレビューワーキンググループメンバー
上山ゆりか	NPO 法人対人援助・スピリチュアルケア研究会　第 11 回学術研究大会　研究報告　座長　2017 年 10 月 15 日（名古屋） 社会福祉法人成光苑　第 13 回研究発表会審査員　2018 年 2 月 24 日（大阪）
宇多雅	T2T を実践する上での課題とその対策，リウマチケアを考える会　2017 年 5 月 20 日（大阪） 動機づけ面接法を活用した目標達成に向けた治療の実践，京都リウマチメディカルスタッフフォーラム 2017 年 10 月 12 日（京都）
大橋尚弘	日本看護研究学会第 43 回学術集会　広報委員 日本・移植再生医療看護学会評議員選挙管理委員会　選挙管理委員 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団　第 2 回市民フォーラム 講師，2017 年 6 月 25 日(高槻) 大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会(特定分野)講師，2017 年 2 月 2 日

	～14 日(大阪) 阪神北圏域訪問リハビリテーション連絡会 平成 29 年度事業者間協議会 講師「今後の在宅医療の方向性からリハビリ、看護のあり方を考える」，2017 年 5 月 12 日(宝塚) 平成 29 年度大阪医科大学研究拠点育成奨励助成 「シミュレーション環境を活用した多職種連携教育システムの構築～医看融合教育を中心に～」，多職種連携教育とシミュレーション教育法第 1～3 回講演会運営，2017 年 11 月 21 日，2018 年 1 月 22 日，3 月 16 日(大阪)
曽我浩美	看護研究講師（医療法人香徳会 関中央病院）
山埜ふみ恵	平成 29 年度高槻市地域包括支援センター保健師・看護師連絡会研修会，講師補助,「個と地域をつなぐ　地域診断におけるわが町の課題と強みの探索～10 年後をみすえて～」

Ⅶ.　地域・社会貢献

地域・社会貢献

赤澤千春	医療法人康生会武田病院教育研修(新人、中堅) 大阪医科大学看護学部看護学実践研究センター
佐々木綾子	高槻地区周産期地域連携の会での活動（定例会出席、セミナー企画・運営・評価）
鈴木久美	乳がん女性のセクシュアリティを支える援助，第 19 回日本母性看護学会学術集会シンポジスト，2017.6.11,（西宮） 乳がん患者のセクシュアリティ，平成 29 年度継続教育研修講師，公益社団法人日本看護協会神戸研修センター，2017.12.12,（神戸） 乳房健康研究会理事 大阪 QOL の会（患者会）世話人 なにわ乳がんを考える会世話人
田中克子	シンメディカル糖尿病セミナー　世話人 看護研究学会第 45 回学術集会　企画委員
津田泰宏	B 型肝炎教育資材開発（看護学生向け） 消化器病 Practice (web サイト) 看護学系漢方教育研究会　世話人
泊祐子	岐阜県重症心身障がい児者看護人材育成研修会，「重症心身障がい児者の看護概論」講義（平成 26 年度より） 大阪医科大学看護学部家族看護研究会　在宅看護学と共催（平成 23 年より） 岐阜県重症心身障がい児者家族支援研究会主催（平成 27 年より） 高槻市自立支援協議会　地域生活支援拠点ワーキングオブザーバー（平成 28 年より）
道重文子	ＮＰＯ阪神高齢者・障害者支援ネットワーク，ふれあい喫茶での健康相談 関西オーラルマネジメント研究会ハンズオンセミナーの開催，2017.5.14
真継和子	大学－地域－病院協働型健康支援活動による人材育成プロジェクト「いきいき！プロジェクト cocokara」健康支援活動 cocokara サロン主催 NPO 法人シーン 街かどデイハウス「元気いっぱいサロン」介護予防教室実施
カルデナス暁東	大阪医科大学がんセンター第 5 回市民公開セミナー　講師，2018 年 2 月 17 日（高槻） 第 2 回大阪医科大学看護研究会　座長，2018 年 3 月 10 日（高槻）
久保田正和	認知症を理解し地域で支える会協力会員
佐野かおり	大学－地域－病院協働型健康支援活動による人材育成プロジェクト「いきいき！プロジェクト cocokara」三島南病院における健康支援活動（大阪医科大学在宅看護学部在宅看護主催） NPO 法人シーン　街かどデイハウス「元気いっぱいサロン」街かど介護予防教室実施 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団　市民フォーラム「「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に」開催（大阪医科大学在宅看護学部在宅看護主催）

竹明美	高槻地区周産期地域連携の会　研修会当日運営，2017 年 12 月 11 日（高槻）
寺口佐與子	2017 年度　大阪医科大学リンパ浮腫センター（仮）研修 リンパ浮腫 net 役員
上山ゆりか	認知症を理解し地域で支える会　第 17 回・第 18 回　認知症の人と家族のための情報交流と相談会　役員　2017 年 11 月 23 日，2018 年 3 月 21 日（大阪）
宇多雅	MIRAI (Motivational Interviewing for Rheumatoid Arthritis Patients) 運営委員 RA ヘルスプロフェショナル研究会　世話人
大橋尚弘	大学－地域－病院協働型健康支援活動による人材育成プロジェクト「いきいき！プロジェクト cocokara」三島南病院における健康支援活動，（高槻） NPO 法人シーン　街かどデイハウス「元気いっぱいサロン」街かど介護予防教室実施，（高槻） 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団　市民フォーラム「「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に」第 1 回・第 2 回 実施，（高槻） 第 13 回たかつき NPO フェスタでの健康チェックの実施，2017 年 10 月 21 日（高槻）
曽我浩美	第 13 回たかつき NPO フェスタでの健康チェックの実施，2017 年 10 月 21 日）（高槻）

Ⅷ.　その他

その他

赤澤千春	大阪医科大学附属病院　形成外科外来　リンパ浮腫看護外来従事
佐々木綾子	高槻市広報　母親の孤立化を防ぐには外に出て交流を，たかつき DAYS，p 11，2018.2 月. くどうみやこ著，誰も教えてくれなった子どものいない人生の歩き方，167-173，2017.
田中克子	中国山西医科大学第一病院中堅看護師「慢性疾患患者への継続看護」研修受け入れと指導，2017 年 9 月～11 月（高槻，兵庫県須磨）
真継和子	市民フォーラム『「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人にー「自分の生き方」をみつめてみませんか？ー』主催（2017.6.4，2017.6.25）.
道重文子	大阪医科大学雑誌編集委員
瓜崎貴雄	FROMPAGE 主催国公立大学・私立大学合同進学ガイダンス　夢ナビライブ 2016（大阪会場）　「人の気持ちをよりよく理解するためには？」　講師
カルデナス暁東	大阪医科大学附属病院　皮膚科外来　「メイクセラピー看護外来」従事 中国山西医科大学第一病院中堅看護師「慢性疾患患者への継続看護」研修受け入れと指導，2017 年 9 月～11 月（高槻，兵庫県須磨）
草野恵美	「乳幼児健康診査事業 実践ガイド」執筆（担当：第２章第１節　保健指導に必要な基本的な考え方，第 3 節　多職種が連携して実施する保健指導のポイント）（平成 29 年度厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業「乳幼児健康診査のための「保健指導マニュアル（仮称）」及び「身体診察マニュアル（仮称）」作成に関する調査研究」班）
竹明美	平成 29 年度大阪医科大学研究拠点育成奨励助成 「シミュレーション環境を活用した多職種連携教育システムの構築～医看融合教育を中心に～」，多職種連携教育とシミュレーション教育法第 1～3 回講演会運営（2017 年 11 月 21 日，2018 年 1 月 22 日，3 月 16 日（高槻）
寺口佐與子	大阪医科大学附属病院 形成外科 リンパ浮腫看護外来 従事
曽我浩美	家族看護研究会　定例会開催（大阪医科大学看護学部小児看護学領域・在宅看護学領域共済） 学士課程教育に関する研究会　定例会開催（大阪医科大学看護学部小児看護学領域・日本赤十字豊田看護大学共同）

編集後記

本年度も「大阪医科大学看護学部年報　2017 年度」を発刊することができました。発刊におきまして先生方のご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

大阪医科大学看護学部年報も 7 巻の発行となりました。大阪医科大学看護学部・看護研究科として地域に社会にと様々な活動を行ってきた記録を残すことができました。ご尽力いただいた先生方の今後の活動や自己点検等に役立てていただけましたら幸いです。

最後に年報作成にご協力いただきました教員をはじめ関係各位の皆様に深くお礼申し上げます。

大阪医科大学看護学部　年報編集委員会

大阪医科大学

看護学部 2017 年度年報

発行日　平成 30 年 7 月 31 日

発　行　大阪医科大学看護学部

〒569-0095　大阪府高槻市八丁西町 7-6

編　集　看護学部　年報編集委員会

赤澤千春　　津田泰宏　カルデナス暁東

上山ゆりか　曽我浩美　杉山恵美子(学務部)

制　作　知人社

OMC
OSAKA MEDICAL COLLEGE